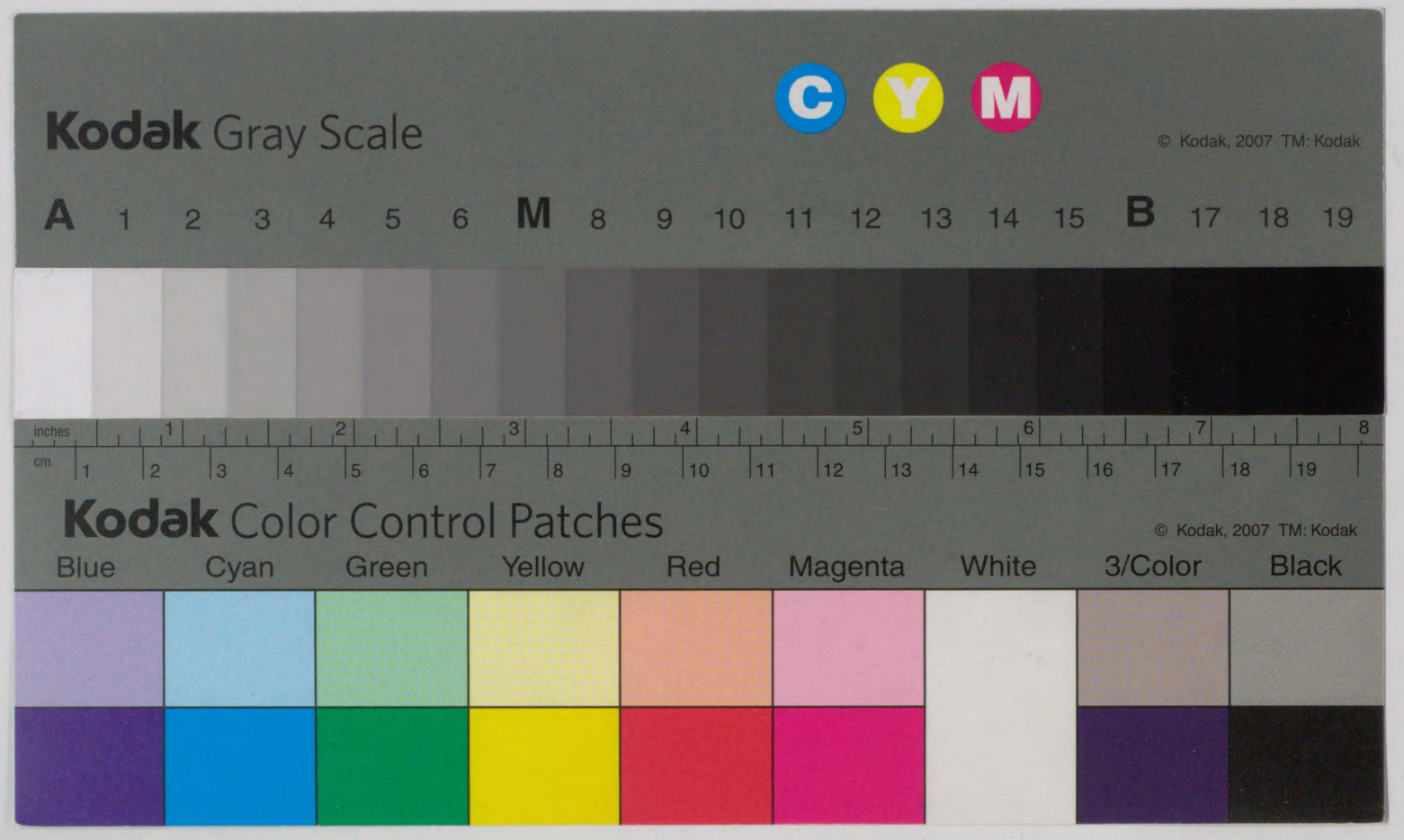


752-100
12005015947 19
52
100

752
100

榮村五十年史

二一

榮村五十年史

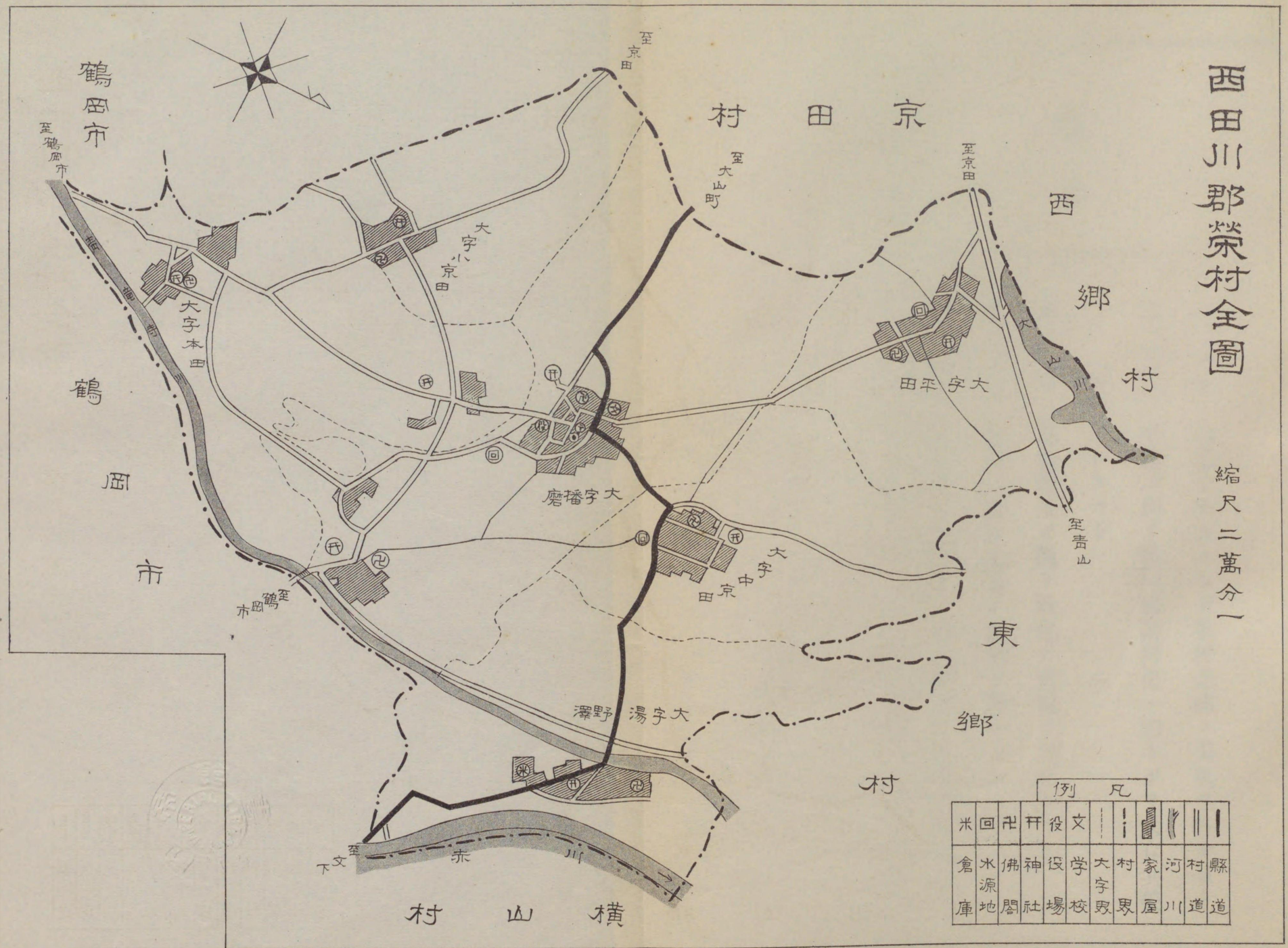
昭和十三年六月

西田川郡榮村役場

西田川郡榮村役場

西田川郡榮村全圖

縮尺二萬分一



752
100

榮村村是

一、尊皇ノ大義ヲ明カニシテ敬神崇祖ノ美風ヲ作ルコト

二、立村ノ精神ニ則リ協同輯睦村民一體トナリ共存共榮ノ實ヲアグルコト

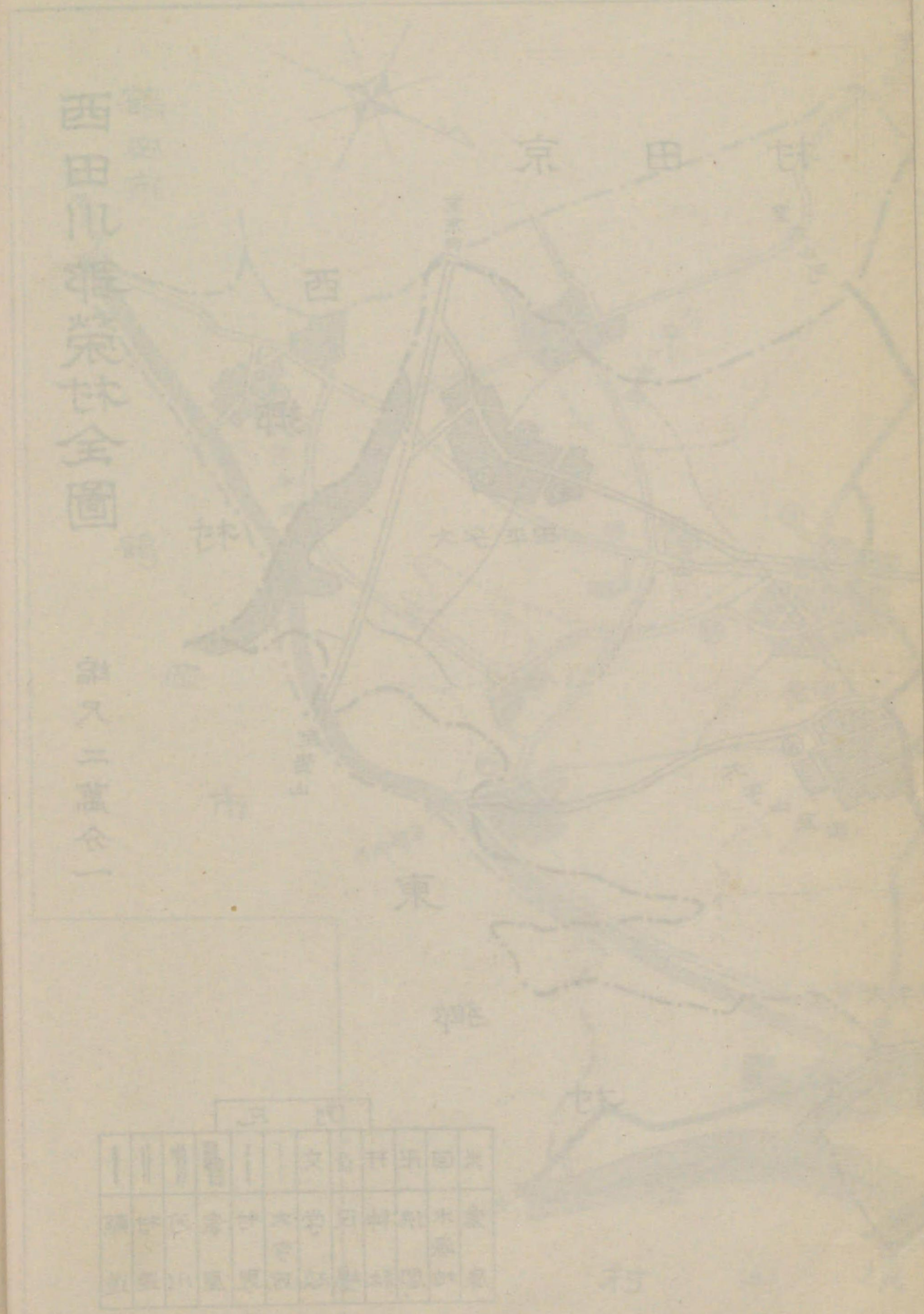
三、教育ノ振張普及ヲ圖リ敎化ノ實績ヲアグルコト

四、進ンデ勞役ニ就キ産業ノ振興ヲ圖ルコト

五、冗費ヲ省キ財力ヲ善用シ質素節約ノ美風ヲ作ルコト

六、納稅ノ重大責務ナルコトヲ自覺シ納稅ノ完全ヲ期スルコト

七、衛生保健ニ留意シ惡疫ノ絶滅ヲ期スルコト



山形縣西田川郡榮村

協同融和銳意村治ノ發展ニ努力シ整理改善其ノ實蹟見ルベキモノ尠カラズ茲ニ金五拾圓ヲ賞與ス

明治四十五年二月十一日

山形縣知事從四位勳三等　馬淵鋭太郎

會賀祝念記奬選村榮那川田西縣形山日一十月二年五十四治明

事　蹟

榮村ハ鶴岡町ヲ距ル西北壹里餘戸數約二百二十、六大字ヨリ成リ舉村農ヲ業トス

闔村輯睦ニ公共ノ念ニ厚ク協同一致ヲ以テ全村ノ福利ヲ增進センコトヲ期ス

村民又貯蓄心ニ富ミ其ノ貯蓄金ノ概算三萬余圓

現村長齋藤金吾誠實ニシテ勤勉其ノ村治ニ軼掌スルコト二十有余年ノ久シキニ及ビ其ノ間終始一日ノ如シ明治三十三年小學校令ノ改正ニ際シ大字播磨ニ尋常高等小學校、大字湯野澤ニ尋常小學校ヲ設置シ教育ノ統一ト經濟費ノ共通トヲ圖ルノ宿志ヲ遂行セリ而シテ之カ敷地校舍並ニ御眞影奉安庫ノ建設費ハ悉ク村民ノ寄附ニ出デ一金ノ村費ヲ支出シタルモノナシ其他村役場、駐在所等總テ寄附行爲ニヨリテ曾テ賦課又ハ負債ニ依リタルモノナシ是レ全ク村民公共心ノ躍如タル發現ニ外ナラズ而シテ兒童ノ就學出席ニ關シテハ或ハ兒童ニ或ハ保護者ニ賞狀賞品ヲ與ヘ常ニ奬勵ヲ怠ラズ從テ其ノ歩合頗ル良好ナル成蹟ヲ現シ又青年子弟ノ爲ニ實業補習學校ヲ設ケ年中之ヲ開始スル等教育ノ發展充實觀ルベキモノ甚ダ多シ

本村ハ米作本位ノ地方ナルガ故ニ明治二十八年村長率先シテ自家ノ水田ヲ乾田ト爲シ勸誘大ニ努ムル所アリシガ現在全村擧テ乾田馬耕トナリ其ノ增收三千余石從來ノ水田ニ比シ三割ノ增收ヲ見ルニ至レリ

飲料水改良上水道敷設ニ着手シ二ケ年ノ繼續工事トシテ縣費ノ補助ヲ得總工費貳萬七千余圓ヲ投ジ現今施行中ナリ此ノ擧完成スルニ至ラバ將來本村衛生上ニ及ボスノ利益尠少ナラザルモノアラン

本村納稅ノ成績ハ最モ佳良ニシテ國稅地方稅村稅ニ至ル迄納期ニ遲クル、コトナク町村制實施以來一人ノ未納者ヲ出セシコトナク村當局ノ努力ト一般納稅道德ノ昂上トヲ認ムルニ足ル

以上

表彰狀

山形縣西田川郡榮村長

齋藤金吾

貴下夙ニ鬮郷ノ輿望ヲ荷ヒ推サレテ其ノ長トナリ多年地方自治行政ノ要務ニ任シテ日夜盡瘁ノ勞寔ニ多大ナリトス茲ニ紀念品ヲ贈リ厥ノ功績ヲ表彰ス

昭和五年一月二十七日

全國町村長會長 福澤泰江

表彰狀

山形縣西田川郡榮村

縣稅ノ各納期ヲ通ジ繼續シテ完納ノ成績ヲ擧クルコト四十四年ニ及ヘリ是レ納稅者其ノ義務ヲ尊重スルノ念篤キト當局者ノ指導督勵宜シキヲ得タルニ因ルモノニシテ洵ニ他ノ模範トスルニ足ル仍テ本縣納稅奬勵規程ニ依リ茲ニ之ヲ表彰ス

昭和八年二月十一日

山形縣知事正五位勳四等　石原雅二郎

表彰狀

山形縣西田川郡榮村

勳四等　齋藤金吾

明治二十二年六月榮村助役ニ就任明治二十六年六月村長ニ就任以來今日迄勤續村長ノ職ニ在リ此ノ間衆議院議員縣會議員郡會議員トシ國政縣政郡政ニ參劃シ其他農會水利組合租稅委員等幾多公私ノ職ヲ兼ネ殆ント寸暇ナキ身ヲ以テ恪勤精勵善ク村治ノ擧揚ニ努メ殊ニ納稅道德ノ振興ニ將亦之ガ善導ニ十全ノ意ヲ注キ鄉黨ノ納稅思想ヲ昂上セシメ依テ以テ榮村ノ租稅完納繼續實ニ四十五年ノ久シキニ及ヒタルハ偏ニ貴下ノ德望篤キト熱誠努力ノ賜ニ外ナラズ其ノ功績洵ニ顯著ナリトス仍テ其ノ德行ヲ推奬シ茲ニ之ヲ表彰ス

昭和八年九月十三日

仙臺稅務監督局長　正四位勳四等　元尾光輝

表彰狀

西田川郡榮村長

齋藤金吾

在職多年熱誠以テ地方公共ノ事ニ盡セシ勞効尠カラス

仍テ自治功績表彰規程ニ依リ置時計壹個ヲ授與シ茲ニ

之ヲ表彰ス

昭和十二年四月十七日

山形縣知事正五位勳四等　武井群嗣

自治功勞者

西田川郡榮村長

勳四等　齋藤金吾

（經歷）

明治十四年二月戸長役場播磨村吏トナリ、同十八年村會議員ニ擧ゲラレ後町村制ノ發布ト共ニ官民間ヲ奔走シテ播磨等六ケ村合併ヲ主唱シ熱心事ニ當リ遂ニ榮村創設ヲ見ルニ至レリ、明治二十二年推サレテ同村助役トナリ同二十六年仝村長トナリ今日ニ至ル迄在職實ニ五十有余年ニ及ビ此ノ間衆議院議員、縣會議員、參事會員、郡會議員、郡會議長、町村長會西田川郡支部長、郡農會副會長、郡北部教育會長其他ニ推薦セラル、尚十有余ノ公職ヲ帶ビ八十ノ老齡ナガラ鞅掌トシテ五十年一日ノ如ク公共ノ事務ニ勤勉ス

（事蹟）

一、村教育ノ普及

村内教育ノ普及發達ヲ以テ村治上ノ急務トナシ、村長就職以來鋭意之ガ目的達成ニ努メ明治三十四年村内小學校改築ニ際シテ其ノ費用七千五百圓中七百五拾圓及ビ自己所有ノ土地ヲ敷地トシテ寄附シ其ノ他ヲ村内有志ノ寄附金ヲ以テ之ニ充テ校舍ヲ落成セシメタルモ其後逐年就學兒童ノ增加ニ伴ヒ漸次狹隘ヲ告グルニ至レルヲ以テ一村一校ノ理想ヲ實現セント湯野澤小學校ヲ榮小學校ニ合併セシメ校舍新築費七萬四千圓ヲ計上シ大正八年度ヨリ仝十一年度ニ至ル繼續事業トシテ自ラ進ンデ七千四百圓ヲ寄附シ、村内有力者ノ協議會ヲ開キ着々勸誘

ヲ試ミタルモ異議者アリ爲メニ幾回カ蹉跌ヲ來シタルモ屈スル事ナク百方其利害ヲ說得シテ殆ント寢食ヲ忘ルヽニ至ル、茲ニ於テ全人ノ熱誠遂ニ異議者ヲ動カシ村會ニ於テ滿場一致原案ノ儘議決トナリ大正十二年六月一大校舍ノ竣功ヲ見ルニ至レリ。

二、飮料水ノ改良

從來村內ノ飮料水ハ田面灌漑水ノ一部ヨリ各戶ニ引水シツヽアリタルガ一朝上流ニ惡疫發生ノ際ノ傳播ヲ免ルヽコトヲ得ズトナシ、衛生上ノ危害ヲ深憂シタル同人ハ私費ヲ投ジテ工事委員ヲ率キテ各地ノ水道ヲ視察スル外、縣費補助ヲ請願助成ヲ得、工事執行ニ當リテハ幾多ノ障碍ニ逢着セルモ屈スル事ナク奔走斡旋事ナキヲ得テ大正元年十二月全部ノ竣功ヲ見タリ

三、基本財產ノ蓄積

村基本財產ヲ造成シ、村財政ノ緩和ヲ圖ルノ緊要ナルニ着眼シタル同人ハ大正八年率先基金トシテ私費ヲ寄附シ、爾來村ノ歲計ノ剩餘金ヲ積立ツルノ方法ニ依リ現在總額參萬壹千余圓ニ達セシメ、村將來ノ基礎ヲ築キアゲタリ

四、免租及地租延納

明治四十四年莊內地方ノ大凶作ハ地方農家ニ多大ノ恐慌ヲ來シ民心ガ動搖ノ傾向ニアルヲ逸早ク察知シタル全人ハ屢々村ノ實情ヲ稅務署ニ陳情シタル結果、田租延納ノ許可ヲ得タル外六千余圓ノ免租ヲ得タリ

五、郵便局ノ設置

本村內ニ郵便局ノ設置ナク、公私ノ郵便及ビ電信電話ノ發送受信ニ不便少カラザルヲ以テ同人自ラ奔走請願ノ結果、大正十四年三月設置ノ發令ヲ見、局舍ヲ新築ノ上維持費トシ金參千七百五拾圓ヲ寄附シタリ

六、納稅ノ奬勵

村治ノ圓滿ナル遂行ハ納稅成績ノ向上ニアリトナシ、納稅道德ノ向上納稅思想ノ涵養ニ常々意ヲ用ヒ、貧困者ニ對シテハ私財ヲ以テ之ヲ立替ヘ滯納ヲ戒メタルタメ村民ハ納稅義務ノ重要ナルヲ克ク認識シ、町村制施行以來今日ニ至ルマデ國稅、縣稅ハ勿論村稅水利組合費等ニ至ルマデ滯納者アルヲ聞カズ常ニ完納ノ成績ヲ持續セリ之レ偏ニ全村長ノ絕エザル指導奬勵ニ依ルモノナリ

七、其ノ他

前記ノ如ク凡ユル公職ニ關與シ、自村ノ事ノミニ限ラズ地方開發、地方公共ノ福利增進ニ意ヲ用ヒ近鄕近村ニシテ全村長ノ德ヲ蒙ラザルモノナキ狀況ナリ。

表彰狀

山形縣西田川郡榮村

納稅成績優秀ニシテ國稅ニ於テ既往四十九年間完納ノ美績ヲ繼續セルハ畢竟納稅義務尊重ノ良習普及セルト當局者ノ指導誘掖亦其ノ宜キヲ得タル結果ニシテ洵ニ他ノ模範トシテ推奬スルニ足ル仍テ茲ニ紀元ノ佳節ヲトシ記念品ヲ贈リ之ヲ表彰ス

昭和十三年二月十一日

仙臺稅務監督局長 正五位勳四等 松山宗治

（記念品金拾圓）

例言

一 本書ハ本村自治制施行五十年記念式ニ方リ榮村組織前ニ於ケル舊村ノ沿革竝ニ本村造成以來五十年間ノ事績及經濟教育産業等ノ史實ヲ記述シタルモノナリ

一 本村役場ハ明治二十六年五月類燒ニ罹リ其ノ以前ノ書類ハ悉ク烏有ニ歸シ事實ノ徵スヘキモノナク外間ノ文書等ニ據リ輯錄シタルモノ多シ

一 本村ハ齋藤金吾氏ノ創瘁スル所ニシテ造成後ハ推サレテ助役トナリ村長ト爲リ最近退職セリト雖本村ハ殆ント同人ノ施設經營スル所ナリ故ニ齋藤金吾アリテ榮村アリ、榮村アリテ齋藤金吾アリ、仝ク村、人一體タルノ環境ニ在リ

本史ヲ錄スルニ當リ齋藤金吾ハ現職ニアラザルヲ以テ當時ノ村長齋藤

金吾云々トスルハ妥當ナルモ其ノ煩ヲ避ケンガ爲在職中ノ事柄ハ總テ
齋藤村長ト記載セリ讀者其ノ意ヲ諒セラレヨ
一　附錄トシテ本村首腦者ヲ始メ代議機關竝ニ本村貢獻者ノ事蹟等ヲ輯錄
シ後昆ニ傳フルト共ニ本村機構工作ノ一端ヲ窺フノ便ニ供ス

昭和十三年六月十九日

山形縣西田川郡榮村役場

山形縣西田川郡榮村五十年史

目次

第一款　總說　一
第一章　村勢及區域　一
第一節　地勢　一
第二節　沿革　一
第三節　榮村ノ造成　一
第四節　土地及戸口　一二
第二款　行政　一二
第一章　代議並執行機關　一二
第一節　村會　一二
第二節　村吏員及委員　一二
第三節　村廳舍　一二
第四節　村治事蹟　一二

第五節　協同組織ノ整備
第六節　五人組制度
第三款　教育
第一章　小學校
第一節　沿革
第二節　小學校ノ合併統一
第三節　校舍設備
第四節　教育ノ方針
第五節　御眞影奉安庫
第六節　御眞影奉安庫記念碑
第二章　青年教育及圖書館
第一節　元農業補習學校
第二節　元青年訓練所
第三節　青年學校
第四節　圖書館
第五節　農事研究室並農事研究會
一一〇

第四款　衛生
第一章　衛生機關
第一節　村醫並トラホーム豫防醫
第二節　衛生組合
第二章　施設事業
第一節　傳染病院
第二節　水道敷設竝三水道完成
第三節　下水處理
第四節　傳染病豫防救治並種痘普及
第五節　火葬場改善計劃
三一〇
第五款　勸業
第一章　概說
第一節　耕作方法改良
第二節　苗代改良
第三節　堆肥改良
第四節　土壤ト種子トノ合理化
三二八

第五節 稻乾燥法 四七
第六節 用排水施設 四七
第七節 農家副業 四七
第八節 米賣買狀況 四七
第九節 農家早起奬勵 四七
第十節 農家休業日 四七
第十一節 青年中堅者土着奬勵 四七
第二章 榮倉庫 四七
第三章 村農會 四七
第四章 農事改良實行組合 四七
第六款 土木 四七
第一章 土木工作 四七
第一節 道路及橋梁 四七
第七款 通信 五三
第一章 通信機構 五三
第一節 郵便局設置 五三

第二節 電話及電信 五五
第三節 特設電話 五五
第八款 警備竝救濟 五五
第一章 警備 五五
第一節 消防組 五五
第二節 水防施設 五五
第二章 震災救濟 五五
第三章 凶作地租延納並免除 五五
第九款 社會事業 五七
第一章 社會事業 五七
第二章 隣保共助 五七
第三章 敬老會 五七
第四章 僕婢勤續者表彰 五七
第五章 兒童給食施設 五七
第十款 選擧肅正 五九
第一章 選擧肅正施設 五九

第十一款　民力涵養及生活改善
第一章　民力涵養　六二
第二章　生活改善　六六
第十二款　村民ノ氣風及慣習　六八
第一章　氣風　七三
第二章　慣習　七四
第十三款　村振興計劃
第一章　村是ノ確立
第二章　經濟更生計劃ノ樹立
第三章　負債整理組合ノ設立
第十四款　社寺宗教
第一章　社寺宗教ニ關スル施設
第十五款　財政
第一章　納稅
第一節　諸稅及負擔
第二節　納稅狀態

第三節　完納表彰　九〇
第二章　基本財產
第一節　村基本財產
第二節　小學校基本財產
第十六款　各種團体
第一章　團体狀勢
第一節　榮村戶主會
第二節　在鄉軍人榮村分會
第三節　榮村教育會
第四節　榮村青年團
第五節　榮村女子會
第六節　赤十字社榮村分區
第七節　愛國婦人會榮村分會
第八節　國防婦人會榮村分會
以上

山形縣西田川郡榮村五十年史

第一款　總說

第一章　村勢及區域

第一節　地勢

山形縣西田川郡榮村ハ土地平坦ニシテ僅カニ東南ヨリ西北ニ向ツテ多少ノ傾斜アルニ過キズ地形ハ南北ニ稍長ク東西ニ狹シ南東ハ鶴岡市ニ接シ東ノ一部ハ赤川ヲ隔テ、東田川郡橫山村ニ隣リシ北方ハ東鄉村ト界シ西方ハ京田村西鄉村ニ連リ一部大山川ニ沿フ而シテ靑龍寺川ハ本村ノ東部ヲ貫流シ其分派水ト共ノ灌漑ニヨリ一体ノ耕地ナリ

靑龍寺川ハ朝日嶽、湯殿山及ビ大鳥嶽ヲ水源トスル赤川ノ水流ヲ本鄉村地內熊出ヨリ分水シ東田川郡山添村、黃金村及ビ鶴岡市ヲ貫流シ本村ニ入リソノ東部ヲ貫キ東鄉村大字靑山ヲ經テ赤川ニ合流スル灌漑用河川ナリ

地質、由來莊內平野ハ最上川赤川ノ生成スル第四紀新層ニ屬スル壤土地ニシテ本村其ノ中心地ニ位ス氣候、日本海ニ面スルヲ以テ雨量多ク農作殊ニ稻作ニ適ス唯秋冬ノ際ハ荒天打續キ積雪多ク農作上ノ

不便尠少ニアラズ

第二節　沿革

本村ハ明治二十二年町村制ノ實施ニ際シ元本田村、小京田村、播磨村、中京田村、平田村、湯野澤村ヲ以テ組織ス

舊藩時代ニアリテハ本田村、中京田村、湯野澤村ハ酒井侯ノ所領ニ屬シ播磨村平田村ハ幕領ナリシガ慶應元年酒井侯ノ所領トナル小京田村ハ社寺領即チ羽黒領ナリ

明治二年九月全部大泉藩ニ編入セラレ明治四年廢藩置縣トナリ全年七月大泉縣全年十一月酒田縣トナリ明治八年八月ニハ鶴岡縣トナリ全九年八月鶴岡縣廢止セラレ山形縣ニ合併セラル

廢藩置縣後區政ヲ施行セラレ本田村小京田村湯野澤村、中京田村ハ第七大區五小區ニ平田村播磨村ハ第七大區十小區トナル

明治十一年郡區町村編成法ヲ布カルヽニ方リ西田川郡ニ屬ス當時郡内二百十六個町村ヲ四十一組ニ分チ一組毎ニ戸長役場ヲ置キシガ明治十五年增シテ五十役場トシ全十七年ニハ二十二役場ニ縮少シタリシガ最初ヨリ播磨村ニハ戸長役場ヲ置カレタリ其ノ後播磨村、本田村、小京田村、中京田村、湯野澤村ハ荒井京田村外十五ケ村戸長役場所轄ニ平田村ハ神花村外七ケ村戸長役場ノ所轄タリ

明治二十二年町村制實施ニ伴ヒ播磨村、本田村、小京田村、中京田村、湯野澤村ハ荒井京田村區域ヨリ平田村ハ神花村區域ヨリ集合シテ新タニ榮村ヲ形成セリ

尙各舊村ニツキテハ何レモ正確ナル記錄ナキニヨリタダ口碑ノ傳フルトコロニヨリ概要ヲ左ニ錄ス

舊播磨村

播磨村ノ祖先ハ播磨國高砂村ヨリ移住開拓セシモノナリト傳フレトモ其ノ年代明カナラズ當時蘆荻生ヒ茂リ茫々タル原野ナリシガ漸次開墾人家モ亦增加スルニ至リ播磨京田ト稱セリ明治九年十二月十一日ニハ其ノ東南部落野中新田村ヲ合併シテ播磨村ト稱ス一說ニハ最上家ニハ播磨守ト稱セル人多キヲ以テ其ノ中ノ播磨守ニ因ミ播磨京田村ト稱セシナリトイフモ素ヨリ信ズベキニアラズ

元和九年酒井家ノ檢地帳ニヨレバ田六拾貳町畑參町歩余トナレリ何レニシテモ本村ノ開村ハ四百年前ナルベキガ如シ

野中新田村モ其ノ開村明カナラザルモ最モ舊家ナリト傳ヘラル、木村五郎左衛門ハ善阿彌ヨリ移住シ新田ヲ開發セシモノナリトイフ

舊本田村

明治九年四月十五日本郷村ヲ本田村ト改メタルモノナルモ馬場添ヲ合シタルコト詳ナラズ馬場添ハ慶長年間ノ開墾ニシテ往時馬場アリ其ノ傍ニ移轉居住セシヨリ馬場添ト唱ヘシモノナリト傳フ而シテ本郷村ハ元和九年檢地帳ニ田四拾四町歩トアリト其ノ以前ノ開拓ナルコト明カニシテ工藤勘解由左衛門ノ子孫本郷ニ居住セシメタルガ今尙其ノ子孫此ニ居住シヨレリ其ノ本郷ト松ノ木橋ノ間道路ノ東側ニ南無阿彌陀佛ノ碑アリ天明八年吉日ト刻シアリ昔時酒井侯ノ罪人仕置場ニテ怨靈供養ノ爲建立セシモノナリト傳フ今尙碑前花華ヲ供スルモノ甚タ多シ工藤

家ハ狩野介宗茂ノ後裔ナリト云フ

舊小京田村

本村ノ開發年代詳ナラズト雖モ傳說ニヨレハ羽黑山ノ命ニヨリ大舘藤兵衛ナルモノ小京田村ヲ開拓シ羽黑領タリ大舘藤兵衛羽黑肝煎トシテ之ヲ管シ小南善右衛門ハ其ノ副肝煎ナリト云フ酒井家入國以後ハ檢地ノ結果元和九年ヨリ拾四石ヲ藩主ニ納米スルコトヽナリ其ノ後大舘氏故アリテ元錄十五年ニ追放セラレ小南氏之ヲ管理セリト元文三年ノ記錄ニハ戶數二十七戶アリト謂ヘリ

同部落ニ田中屋敷ト稱スル所アリ昔ノ豪家田中庄兵衛ノ邸宅跡ニテ大舘氏以前ノ開發者ナリトモ云ヘリ併シ古文ノ徵スヘキモノナシ

舊中京田村

本村ハ其ノ起源詳ナラザルモ元和六年ノ水帳ニハ田畑反別四拾町歩余トアリテ數百年前ノ開發ナルコト明ニシテ武藤氏ノ臣鈴木大內藏大夫ノ領地ナリト云フ元和八年酒井侯ノ領トナレリ高張田多ク村民困難セシガ明治九年地租改正ニヨリ其ノ負擔輕減セリト傳フ往時靑龍寺川ノ汎溢ノ爲村ノ東北ニ一大淵ヲ生シ船橋ヲ架セリ其ノ附近ハ川幅廣ク剩サヘ濕田ニシテ馬脚ヲ沒セリト云フ一面流水地帶ナリシコトヲ推測スルニ足ル

舊平田村

本村ハ元新興屋村菖蒲沼ニ分カレ共ニ幕領タリシガ元治元年酒井侯ノ領トナリ明治九年地租改正ノ際合シテ平田村ト稱スルニ至レリ封建時代ニ於テハ高張田多ク村民困難ヲ感ゼシガ地租改正ニ依リ稍ヤ

面目ヲ改メタリト云フ而シテ新興屋ハ元錄九年前隅田村ヨリ菖蒲沼ハ武藤氏中世以後ニ於テ菖蒲沼アリタルニヨリ其ノ水利ニヨリ茲ニ移住セシモノナリトノコトナルモ何レモ其ノ起源ヲ詳ニセズ

舊湯野澤村

舊記ニ徵スレバ天正元年以前既ニ皇大神宮ノ建立アリ慶長元和ノ際小國攝津守ノ所領ニシテ戶數二十六田三萬三千刈ヲ有セシガ酒井侯ノ入國ニ及ビ其ノ領地トナリ寬文九年ニハ開田五拾九町歩ニ達シ七百十六石ノ步米ヲ出スニ至レリ其ノ後七百參拾石ト唱ヘ以テ明治維新ニ至レリ

昔湯野澤ノ南三町余ノ所ニ圖書興屋ト稱スル所アリ今井圖書ナルモノ湯ノ出ヲ發見シ移リシ所ニシテ夫レヨリ各地ヨリ人家次第ニ移リ來リ湯ノ澤ト名ツケシモノナリト云ヘリ而シテ湯野澤ノ西、中京田ニ通スル間ニ御船橋ト稱スル所アリ之レ元備中街道通路川筋ニ當ルヲ以テ船橋ヲ架シ渡リタルヨリ起リシ稱ニシテ此ノ附近昔時一面ノ流水地帶ナリシコト知ルベキナリ

第三節　村ノ造成

明治二十一年四月二十五日市町村制公布セラレ明治二十二年四月一日ヨリ施行ノ旨告示セラル

當時播磨村、本田村、小京田村、中京田村、湯野澤村ノ五ケ村ハ荒井京田村外十五ケ村戶長役場ニ屬シ平田村ハ神花村外七ケ村戶長役場ノ所轄トナレリ

播磨村齋藤安右衛門ハ當時ノ町村合併委員ニシテ現村長齋藤金吾ノ實父ナリ齋藤金吾モ當時荒井京田村外十五ケ村戶長役場播磨村吏ノ職ニアリシガ各村ノ土地、人情、風俗、習慣、歷史等ニ通曉セル結果若シ居村並ニ附近村ガ荒井京田村其ノ他ノ組合村ニ編入セラルヽコトヽナレバ將來ノ村治上圓滿ヲ

欠ク憂ナシトセズ此ノ際人情、風俗、歴史ヲ同ジクスル播磨、本田、小京田、中京田、湯野澤、平田ノ六ケ村ヲ糾合シテ一村ヲ形成シ將來ノ發展ヲ圖ラザルベカラズトナシ父子相謀リ先ヅ播磨村青年ノ組織セル研究會ニ提案ス研究會ハ其ノ提案ヲ討議研究セル結果其ノ實現ノ可能性アルコトヲ確ムルコトヲ得タリ

是ニ於テ齋藤父子先ヅ之ヲ居村播磨村ニ諮リシニ村民一同ノ同意ヲ得タリ

依テ更ニ他ノ五ケ村ニ諮リシガ議容易ニ纏マラザリシモ數回協議審議セル結果遂ニ左ノ條件ヲ附シテ齋藤父子ノ提案ニ贊意ヲ表セリ

一、新村ノ經營者ハ必ズ村内ノ人ヲ以テスルコト

二、協同一致苟モ不贊成アル事業ハナサヾルコト

三、村内ニ於テ政黨政派ヲ作ラザルコト

四、ナルベク經費ヲカケヌコト

五、稅金ノ未納ヲナサヾルコト

因テ各村總代連署シテ明治二十一年七月十二日新村ヲ創立造成セラレタキ旨西田川郡長江夏喜藏ニ陳情請願書ヲ提出セリ然ルニ仝郡長ハ新村造成ノ理由ナク且内務省ノ方針ニ反ストテ之ヲ却下セリ齋藤父子及ビ村有志ハ之ニ屈スルコトナク更ニ村民一同ノ連署ヲ纏メテ仝月二十日仝郡長ニ請願セシモ前同樣ノ理由ヲ以テ又々却下セラル

仝月廿八日齋藤安右衛門、今野佐七ノ兩名西田川郡役所ニ出頭シテ陳情セルガ先ヅ新村名ヲ定メ之ヲ戸長役場ノ手ヲ經テ届出ヅベシト命ゼラル

翌二十九日郡ノ命令ニ從ヒ各村協議シテ新村名ヲ「榮村」ト定メ各村總代捺印ス

仝月三十日渡部彌兵衛、今野佐七ノ兩名届書ヲ戸長役場ニ提出セルガ戸長役場ニ於テハ是迄ノ請願書ハ總テ戸長役場ヲ經由セズシテ當届書ノミ當役場ヲ經由スルハ不隱當ナリトシテ却下セラレ因テ齋藤安右衛門、加藤三右衛門、河野善平ノ三名郡役所ニ出頭スルニ江夏郡長ハ昨廿九日出縣セル由ヲ聞キ空シク歸村ス

是ニ於テ前記三名ニ齋藤金吾外二十余名渡部彌兵衛宅ニ集合協會ノ結果齋藤金吾加藤三右衛門、五十嵐幸太郎ノ三名ヲ選ビ出縣陳情請願セシムルコト、ナシ仝夜十時出發セシム

仝月三十一日午後四時漸ク山形ニ着キ齋藤金吾、加藤三右衛門ノ兩名江夏郡長ノ旅宿ヲ訪ヒ陳情シテ新村名ノ届書ヲ提出ス

其後數日滯在シ八月二日ニハ山形縣町村制度取調委員ニ陳情、請願書ヲ提出シタル外縣官並ニ有力者ヲ歷訪シテ陳情ヲナス

仝年八月十九日山形縣知事柴原和ニ請願書ヲ提出ス

仝年十月八日ニハ村民一同ノ連署ヲ纏メ齋藤金吾、久島諦、出縣シテ知事ニ追願ス

此ノ後數回齋藤金吾及ビ各村總代交々出縣シテ陳情セリ（今其數ヲ詳カニセズ）

仝年十一月十七日ニハ各村總代連署追願書ヲ携ヘ齋藤金吾ハ各村總代加藤三右衛門、佐藤丹六、五十

嵐庄右衛門、菅原源吉、佐藤作左衛門、小南善藏ト共ニ出縣ノ上親シク柴原知事ニ縷々具陳シテ懇願セルモ知事ハ言ヲ左右ニシテ敢テ顧ミズ因テ己ムナク强願的ニ請願スルコト再三、再四ニ及ベドモ知事ノ容ルヽトコロトナラズ全ク絶望ノ狀態トナレリ。

然ルニ齋藤父子ハ今更己ムベキニアラズト意氣益〻軒昂此ノ上ハ直接內務省ニ出頭ノ上直願シテ必ズ素志ヲ貫徹スベシト決意スルニ至レリ。

柴原知事ハ其ノ決心ノ容易ニ動カスベカラザルヲ察シ仝十二月町村制取調委員縣屬高島光太郎ヲ當地ニ派遣シ當村並ニ關係十一ケ村ヲ巡回調査セシム江夏郡長ハ更ニ六ケ村惣代並ニ關係村總代ヲ招集シ高島委員ノ面前ニ於テ取調ベラレタルガ關係村ニ於テハ唯一ケ村ダケ不贊成ヲ表シタルモ他十ケ村ハ何等異議ナキヲ確メタルノミナラズ播磨村外五ケ村ハ協力一致頗ル團結力强ク且其ノ意氣旺盛ニシテ容易ニ奪フベカラザルモノアルヲ認メ其ノ旨復命セラル

茲ニ於テ柴原知事モ其ノ熱意ノ盛ナルト決心ノ牢固タルヲ認メ其ノ請願ヲ容ルヽコトヽナシ明治二十二年三月十八日ヲ以テ新村「榮村」ヲ創立造成セラル

是レ全ク齋藤父子及ビ村民ノ不屈不撓倒レテ後己ムノ意氣ト熱意トヲ以テ陳情請願至ラザルナキノ賚ニシテ當村民ノ齋藤父子ヲ目シテ「生ミノ親」トスル又故ナキニアラザルナリ

其ノ新村區域名稱並ニ役場位置左ノ如ク定メラル

縣令第十八號

本年四月一日ヨリ町村制施行候ニ付內務大臣ノ認可ヲ經テ新町村ノ區域名稱左ノ通リ相定ム

明治二十二年三月十八日

郡名	新町村名	區域
西田川	榮（さかへ） 村	山形縣知事 柴原和
	小京田村、本田村、播磨村、中京田村、平田村、湯野澤村	

（他町村略）

縣令第二十一號

今般市町村區域相定候ニ付舊町村ノ名稱ハ大字トシテ之ヲ保存ス

明治二十二年三月廿六日

山形縣知事 柴原和

縣令第二十二號

市役所及町村役場位置左ノ通相定ム

明治二十二年三月二十七日

山形縣知事 柴原和

町村役場位置

郡名	町村名	役場位置
西田川	榮 村	大字播磨
（外、市町村畧ス）		

以上

第四節　土地及戸口

本村ノ廣袤東西二十六町二十三間南北一里七間面積〇、方里五七七厘即チ八千八百九十六方粁ニシテ東經百三十九度四十九分三十四秒北緯三十八度四十六分四十六秒ニ位シ海拔十米ナリ其ノ地目大別スレバ概ネ左ノ如シ

國有地			民有地		
地目	反別	地目	反別		
			明治二十二年	昭和十一年	
社地	二、反五一五歩	田	五四三三、反七二九歩	五五一三、反四〇五歩	
寺地	八一二	畑	三一八、三〇一	二七六、二二二	
道路	一四八、九二〇	宅地	二〇五、八〇三	二四一、六〇六坪	
堤塘	一五、七〇二	山林	、〇一六	、二一八	
土手代	一五九、一〇五	原野	一三六、七二二	九九、五二四	
川	一五二、七一〇	雜地	、六二七	一、三二二	
溝渠	一九〇、九一四				
池沼	、五二一				
萱生地	二四、三〇四				

草生地	六四、三〇七		
計	七六〇、〇二〇	計	六〇九五、四〇七　六一三二、五〇七

備考　民有地ニアリテハ新村造成當時ト現今トヲ掲ク對照ニ便ス

本村戸數人口ハ逐年累加ノ趨勢ニシテ明治二十二年本村組織當時ノ戸數人口ト昭和十一年末ノ數トヲ掲ケ村勢ノ一端ヲ示サムトス

年次	大字	本田	小京田	播磨	中京田	平田	湯野澤	計
明治二十二年	戸數	二六	一一	七〇	二七	三五	四三	二一二
	人口	二二九	八六	五〇二	一九九	二八七	三六四	一、六六七
昭和十一年	戸數	二九	一六	八六	三二	三九	五三	二五五
	人口	二七〇	一二三	六六九	二三八	三七六	四三八	二、一一四

備考　戸數ハ四十三戸、人口ハ四百四十七人ヲ增加セリ

第二款　行政

第一章　代議並執行機關

第一節　村會

明治二十二年町村制實施ニ際シ仝年六月初メテ村會議員ノ選擧ヲ執行セリ本村ハ議員定員十二名一級二級制ニシテ各級六名毎三年半數改選ナリ大正二年六月ノ選擧ヨリ町村制ノ改正ニ依リ任期ハ四年トナレリ其ノ後大正十四年六月ノ選擧ヨリハ一二級ノ制ヲ廢サレ任期四年定員十二名ニシテ現今ニ至レリ而シテ本村ハ共同和平輯睦ヲ念トシ造成當時ニ於テ村民ノ總意ニ依リ村會議員ノ如キモ選出區ヲ協定シ定員十二名ノ内大字本田二名小京田一名播磨三名中京田二名湯野澤二名平田二名トシ爾來常ニ其ノ他ノ協定ニ基ツキ選出セラレツヽアリテ他ノ町村ノ如ク黨爭ヲ見ルコトナシ隨テ村會ノ如キモ一ノ波瀾ナク圓滿裏ニ議了スルヲ常トセリ

第二節　村吏員及委員

本村ハ村長助役收入役ノ外明治二十二年八月十五日村會ニ諮リ役場吏員設置規程ヲ設ケ書記定員二名乃至四名ト規定シ昭和十二年有給吏員定數規程ト改メ書記四名トセリ又本村ヲ六區ニ分チ每區ニ區長及代理者ヲ置キ村長ノ補助機關トシテ村長ノ令達ヲ一般部民ニ周知セシメ又納稅ヲ取纏メシメ其ノ他

該部落民ノ要件ヲモ處辨セシメツヽアリ

常設委員ハ昭和三年二月廿七日土木委員設置規程ヲ設ケ土木委員六名ヲ置キ村土木事務ヲ處辨シツヽアリ明治二十五年三月十七日學務委員設置規程ヲ設ケ公民中ヨリ六名男教員一名ヲ加ヘ都合七名ノ學務委員ヲ置キ昭和十二年學務委員組織規程ト改メ教育事務ヲ分擔シ村長ノ諮問機關タリ

第三節　村廳舍

明治二十二年六月町村制實施ニ付本村大字播磨丁百五十九番地加藤三右衛門宅ノ一部ヲ借リ受ケ村役場ニ充テ事務ヲ取扱ヒ來リシニ明治二十六年五月十三日仝家火災ニ罹リタルヲ以テ一時仝大字丁百三十五番家屋ヲ假役場ニ充用セシガ更ニ大字播磨字相生二十九番三十番ノ土地ヲ相シ役場ヲ建築シ仝年九月十日之ニ移轉執務セリ其ノ廳舍タルヤ木造木羽葺平家造ニシテ其ノ工費參百八拾四圓拾六錢仝年十月土藏ヲ築造シ工費參百參拾壹圓八拾七錢參厘ヲ要シタリ

前建築工費ハ盡ク村内有志ノ寄附金ヲ以テセリ爾來世ノ趨勢ニ伴ヒ執務ノ不便且議場ノ設備ナキニヨリ之カ充實ヲ企圖シ昭和四年八月事務室等ヲ模樣替シ併セテ二階ヲ增築シ議場ニ充テ屋根ハ悉ク瓦葺ニ改メタリ總坪八拾貳坪余ニシテ工費金參千七拾貳圓八拾九錢ヲ要セリ昭和十一年五月事務室等ヲ改修セリ之レ現今ノ村廳舍ナリ。

第四節　村治事績

新村榮村愈々成立スルニ及ビ立村ノ申合セニヨリ村内ノ人ニヨリ經營スベク明治二十二年六月十九日

村長工藤掃部助役齋藤金吾ヲ推擧ス

明治二十六年六月十六日村長、助役共ニ滿期トナリ同日村長助役ノ改選トナルヤ工藤掃部ハ自ラ進ンデ助役トナリ齋藤金吾ヲ村長ニ推擧セリ齋藤金吾ハ極力之ヲ辭退シタルモ村民並ニ工藤掃部ノ懇請ニヨリ之ヲ承諾セリ爾後齋藤金吾ハ村長ニ當選スルコト前後十二回昭和十二年七月退職セリ。

齋藤金吾ハ村長ニ就職スルヤ立村ノ精神ニ則リ左記信條ニヨリ村治ノ衝ニ當ル。

一、村民ハ協同一致、六部落一村トナリ苟モ不賛成アル事業ハナサザルコト。

二、村内ニ於テ政黨政派ヲ作ラザルコト。

三、成ルベク冗費ヲ省キ公共的負擔アルトキハ有産者ノ出資ニ俟ツコト

四、成ルベク諸團体ノ基本金ヲ作ルコト。

五、稅金ノ未納ヲナサザルコト。

六、百姓ハ百姓ノ仕事ニ專念スルコト。

七、奢侈ニ流レズ質素儉約ヲナスコト。

齋藤金吾ハ榮村創立ノ責任者ニシテ且ツ村長タルヲ以テ立村ノ精神ヲ貫徹スルコトハ即チ齋藤村長ノ生命トスル處ナルヲ以テ其ノ愛村ノ念厚キコト實ニ尋常一樣ナラズ唯榮村アリテ自己ナキガ如ク旦暮其ノ心頭ヲ去ルコトナク苟モ村ノ事件トナレバ事ノ大小ニ區別ナク又晝夜寒暑ノ差別ナク東奔西走全ク席ノ暖マル時ナシ。

立村ノ精神即チ成ルベク經費ヲカケヌコトノ主旨ニヨリ村政ニ干與以來在職中五十年間村ヨリ一切費

用辨償等ヲ受クルコトナシ是ヲ以テ闔村擧ゲテ其ノ德ニ服ス。

從ツテ齋藤村長ノ一擧一動ハ直ニ村政ニ反影ヲ來ス實狀ナリトス。

齋藤村長ハ立村ノ精神ノ貫徹ニ關シテハ各種團体ト協力シ村治ニ盡瘁シ其ノ實績ヲアゲ現在マデ表彰セラレタル治績過程左ノ如シ。

一、本村ハ協同和衷銳意村治ノ發展ニ努力シ整理改善ノ事蹟見ルベキモノ尠カラストシ明治四十五年二月十一日紀元節ニ於テ金五拾圓ヲ山形縣ヨリ賞與セラレタリ

一、昭和五年一月廿七日ニハ齋藤村長ハ全國町村長會長ヨリ多年地方自治行政ノ要務ニ任シテ日夜盡瘁ノ勞寔ニ多大ナリトシ厥ノ功勞ヲ表彰セラレタリ

一、昭和十二年四月十七日ニハ在職多年熱誠ヲ以テ地方公共ノ事ニ盡セル勞效尠ラズトシ本縣知事ヨリ齋藤村長ハ表彰セラレタリ

一、本村ハ創立以來今日マデ國稅ハ勿論縣稅村稅水利組合費等ニ至ルマデ五十年間一人ノ滯納者ナキヲ以テ村及村長ハ國稅ニツキテハ稅務監督局長ヨリ年々縣稅ニツキテハ縣知事ヨリ夫々表彰セラレ併セテ昭和十年ニハ縣稅完納ノ銅牌ヲ山形縣ヨリ交付アリタリ

其他表彰事項夥シク一々錄シ難キヲ以テ之ヲ一括揭記シ尙必要ニ應シテ各部節ニ於テ記載セリ

一、榮　村

明治四十二年一月四日　秋田稅務監督局長表彰

仝　四十三年一月四日　仝　上

仝　四十三年七月一日　西田川郡長　表　彰

明治四十四年一月四日	秋田稅務監督局長表彰	
仝　四十四年十月一日	西田川郡長　〃	
仝　四十五年一月四日	秋田稅務監督局長〃	
大正元年十月二十三日	西田川郡長　〃	
仝　二年一月四日	秋田稅務監督局長〃	
仝　三年十月二十日	西田川郡長　〃	
仝　四年一月四日	仙臺稅務監督局長〃	
仝　五年六月一日	仝　上　〃	
仝　六年十二月一日	仝　上　〃	
仝　七年十二月一日	仝　上　〃	
仝　八年十二月廿五日	仝　上　〃	
大正九年十二月廿五日	仝　上　〃	
昭和五年二月十一日	仝　上　〃	
仝　六年仝月仝日	仝　上　〃	
仝　七年仝月仝日	仝　上　〃	
仝　八年仝月仝日	山形縣知事　〃	

一、村長　齋藤金吾

仝　九年仝月仝日	仙臺稅務監督局長〃	
仝　十年仝月仝日	仝　上　〃	
仝　十一年仝月仝日	仝　上　〃	
仝　十二年仝月仝日	仝　上　〃	
仝　十三年仝月仝日	仝　上　〃	
明治二十九年三月卅日	山形縣知事　表彰	
仝　三十年四月一日	賞勳局總裁　〃	
仝三十五年五月三日	山形縣知事　〃	
仝三十六年三月一日	西田川郡長　〃	
仝三十九年四月一日	賞勳局總裁　〃	
仝　四十年一月四日	秋田稅務監督局長〃	
仝　四十年五月廿一日	愛國婦人會總裁宮妃殿下〃	
仝　四十一年一月四日	秋田稅務監督局長　〃	
大正四年二月十一日	山形縣知事　〃	
仝十二年三月三十一日	西田川郡長　〃	
昭和五年一月廿七日	全國町村會長　〃	
仝　七年十月十日	山形縣町村會長〃	

昭和　八年九月十三日　仙臺稅務監督局長表彰
仝　九年十月十五日　赤十字社總裁宮殿下〃
仝　十二年四月十七日　山形縣知事〃
昭和　八年六月十日　山形縣知事表彰
仝　十年七月十日　仝　上　〃
昭和　七年四月廿四日　在鄉軍人山形支部長表彰
仝　十年四月廿九日　在鄉軍人會長　〃

第五節　協同組織ノ整備

現下ノ農村疲弊ニ鑑ミ振興方策ヲ講スルノ必要ヲ感ジ本縣ノ指導ニヨリ榮村振興委員會ヲ設定シ着々其ノ實績ヲアグルニ勉メツヽアリ而シテ其ノ要領ハ左ノ如シ

一、榮村振興委員會ハ村長ヲ中心トシ村内ニ於ケル自治産業教育等ニ關係アル機關團体相互ノ聯絡統制ヲ圖リ村ノ振興ニ關スル具体的計畫ヲ審議スルヲ目的トスルコト

一、目的達成ノ爲左ノ事業ヲ行フコト

一、村經濟更生ニ關スル應急對策及根本對策ヲ具体的審議決定スルコト

二、自治、教育、衛生、社會事業等ノ振興ニ關スル事項ヲ具体的審議決定スルコト

三、審議決定シタル事項ハ各種機關及團体ニ於テ實行上分擔シテ適切ナラシムルト共ニ相互ノ聯絡ヲ圖リ實績ヲ擧クルニ遺憾ナカラシムルコト

一、榮村消防組

一、在鄉軍人榮村分會

第六節　五人組制度

舊藩時代ニハ藩政ノ下ニ五人組制度アリタルモ廢藩後廢絶シタリシガ今回農村振興計劃樹立ト共ニ五人組制ヲ組織シ縣ヨリ村ニ村ヨリ區ニ區ヨリ五人組ニ五人組ヨリ各戸ニトソレ〳〵一貫セル組織體系ヲ作リ諸般ノ傳達ハ勿論更生計畫等ノ徹底ヲ圖ルコトトナス其ノ規約要領左ノ如シ

一、本規約ハ隣保共助ヲ基調トシ自治的團結ヲ益〻強固ニシ地方ノ實狀ニ基キ左記事項ヲ實行シ鄉土ノ振興ニ努ムルコト

（一）神佛ノ禮拜
（二）祝祭日ニ國旗揭揚
（三）公德ノ尊重
（四）納稅ノ完納
（五）吉凶禍福ニ際シ共助共濟ノ實行
（六）備荒貯蓄ノ實行
（七）負債整理ノ協力
（八）婚禮葬祭ノ嚴肅簡粗化
（九）生活改善ニ依リ冗費ノ節約
（十）自給自足ノ擴充
（十一）經營組織ノ改善ト經營ノ合理化
（十二）共同施設ト共同經營ノ實行
（十三）經濟更生計劃ノ樹立實行
（十四）衛生施設ノ整備
（十五）火防施設ノ整備
（十六）選擧ノ肅正

二、本組合ニ組長一名ヲ置キ區長ヲ以テ組長トスルコト

三、本組ハ毎月一回組員ノ座談會ヲ開催スルコト

第三欵　教育

第一章　小學校

第一節　沿革

本村ハ從來播磨學校、湯野澤學校ノ二校アリシニ大正十年四月一日ヨリ榮小學校ニ統一シタリト雖其ノ沿革ハ播磨、湯野澤學校ト順次ニ記述スベシ

播磨學校、明治七年十一月廿二日ノ創立ニ係リ當時播磨村加藤良磨ノ私塾ヲ校舍ニ充用開校シタリ其ノ後學區ノ變更アリタリ明治二十二年四月一日ヨリハ學則ノ改正ニ伴ヒ播磨尋常小學校ト稱セリ

明治廿九年六月廿二日ヨリ通學上困難ノタメ平田分校ヲ設置セシガ明治三十三年三月卅一日限リ廢止ノ上本校ヘ通學セシムルコトトセシガ一、二年生ハ尚通學上困難ナリトシ平田分敎場ヲ存置ス當分通學セシメタリシガ其ノ後冬季間ノミノ臨時分敎場トセシモ明治三十八年三月限リ全ク廢止セリ。

播磨小學校ハ明治三十四年六月七日ニ榮小學校ト改稱セシガ兒童ハ年々增加シ校舍ノ狹隘ヲ感ジ明治三十四年改築ヲ企劃シ其ノ工費金七千五百圓ヲ計上シ其ノ內金七百五拾圓ハ村長齋藤金吾自身ニ於テ寄附シ又自己所有ノ倉庫ヲ移轉シ其ノ土地ヲ校地ニ充用シ其ノ他村內有志寄附金ヲ以テ改築費ニ充テ校舍ヲ改築セリ其ノ構造和風二階造木羽葺ニシテ建坪貳百參拾七坪四合八勺明治三十四年十二月廿五日竣工セリ而シテ大正五年十月ニハ屋根ヲ全部瓦葺ニ改メ工費金九百五拾五圓五拾七錢ヲ要セリ。

明治三十六年四月一日ヨリ高等科ヲ併置シ榮尋常高等小學校トナル

湯野澤學校、明治七年十一月廿一日ノ創立ニシテ當時湯野澤村永傳寺ヲ借リ受ケ開校セシカ其ノ後學區ノ變更アリ明治二十二年四月一日ヨリハ學則ノ改正ニ依リ湯野澤尋常小學校ト改稱セリ

明治三十一年二月一日校舍ニ充用ノ永傳寺燒失ニ付仝所八十四番地建物皇大神社々殿及同所九十三番地建物ヲ仮敎場ニ充テ敎授シ來リシガ明治卅一年五月二十四日仝所字上川原四十八番地ニ校舍ヲ新築移轉セリ工費金九百五拾余圓ヲ要セリ而シテ大正十年三月卅一日限リ湯野澤尋常小學校ヲ廢止セリ

第二節　小學校ノ合併統一

齋藤村長ハ一村內ニ二校以上アルハ村民ノ融和ヲ圖ル上ニ欠陷ナシトセザルノミナラズ又經營上ニモ少カヨズ支障アルヲ以テ一村一校ニ統一セント欲セルモ因習ノ久シキ容易ニ決行スルコト能ハズ其ノ機ヲ狙ヒ居リシニ大正七年ニ至リ就學兒童ノ增加ニ伴ヒ校舍ノ狹隘ヲ來シ校舍ノ增築ノ已ムナキニ至レルヲ以テ此機逸スベカラズトシ即チ湯野澤小學校ヲ榮小學校ニ合併ノ計畫ヲ立テ校舍新築ノ校地取擴ゲノ爲ニ金七萬四千圓ヲ計上シ大正十年度ヨリ仝十一年度ニ亙ル二ケ年繼續事業トシ自ラ進ンデ金七千四百圓ヲ寄附シ其ノ餘ハ村內有志ノ寄附ヲ以テ之ニ充ツルノ計畫ヲ樹テ村會附議ニ先チ村內有力

者ノ協議會ヲ開キ之ニ諮リタルニ金額ノ多額ナル到底部落民ノ耐ユル所ニアラズトナシ異議者ヲ生ジ容易ニマトマルベキ様子ナシ且湯野澤部落ハ元來豊富ナル部落費ヲ以テ經營セル小學校ナルヲ以テ反對ヲ唱ヘ如何共スベキヤウナシ是ニ於テ齋藤村長自ラ湯野澤部落ノ有力者ヲ訪ヒ大局的見地ヨリ說得ニ努ムルコト數回漸ク其ノ同意ヲ得タリ。

然レドモ寄附問題ニツキテハ其ノ諒解ヲ得ルコト頗ル難ク時々紛ラントスルコトアルモ忽チニシテ破ルヽコト數回ナリ村長ハ其ノ度毎ニ寢食ヲ忘レ說得シ同一人者ヲ訪問スルコト多キハ十五回ニモ及ベリ此ノ如キ熱誠努力ニヨリ漸次其ノ諒解ヲ得テ遂ニ一人ノ異議者ナキニ至リ五十嵐彌市郎ノ一萬有余圓ヲ始メトシ各高額ノ寄附ヲ承諾シ大正九年度ノ村會ニ於テ會初ノ計畫通リ圓滿議決セラル因テ大正十年三月ニ起工シ大正十二年三月竣工仝年七月二十二日落成式ヲ擧ゲ茲ニ始メテ一村一校ノ理想ヲ實現スルコトヲ得タリ實ニ仝村長ノ寢食ヲ忘レテ熱心努力セルニヨル賚ナリトス其ノ後裁縫室ノ增築校地ノ擴張ヲナシテ現在ニ至ル

第三節　校舍設備

本校舍ハ前節ニ於テ縷述セルガ如ク數回ノ變轉アリ後小學校合併統一ノ上ニ增改築等ヲ行ヒタリシガ現在小學校ノ設備ハ左ノ如シ

榮尋常高等小學校々舍

等位	校名	位置	校舍種別	校地坪數	校舍坪數	備考
尋常高等	榮	大字播磨字若松	和風木造瓦葺二階建	三、四三七坪	四八四、六五坪	明治三十四年四月榮尋常高等小學校建築大正十二年三月增築

備考

現在校地坪數ノ內字若松五十一番ノ一外十五筆計八百三十一坪ハ大字播磨外五大字ノ所有ノ分ヲモ算入セリ

第四節　教育方針

本村小學校ノ教育方針ヲ定メ其ノ方針ニ遵ヒ訓育シツヽアリ

教育ノ方針

一、最モ訓育ヲ重ンジ精神教育ニ力ヲ注グベシ
二、性格ノ陶冶
三、強イ實踐力ノ訓練
四、躬ヲ以テ率キルノ氣魄
五、實際的教授
六、熟練徹底
七、個別指導
八、教授法ト教材研究

第五節　御眞影奉安庫

本村立小學校ハ勅語謄本ノ御下賜並ニ御眞影奉戴ニ付奉安上ノ必要ヨリ明治三十七年十二月御眞影奉安所ヲ建設シ其ノ工費金貳百八拾五圓ヲ要シ總テ村民ノ寄附ナリシガ大正十一年三月更ニ安全堅牢ヲ期センガ爲メ校地西方ニ土藏造梁間桁間共貳間ノ奉安庫ヲ築造セリ其ノ工費金壹千五百五拾圓ナリ。

第六節　御眞影奉安庫記念碑

本村ニ於テ御眞影奉安庫ノ建築ヲ記念センカタメ記念碑ノ建設ヲ計畫シ明治三十九年四月廿八日校地使用ノ允許ヲ得碑表ニ就テハ仝年六月四日鶴岡警察署長ノ許可ヲ受ケ校地内ニ記念碑ヲ建設セリ其ノ費途八拾五圓ニシテ悉ク村民有志ノ寄附ニ係レリ其ノ碑文左ノ如シ

奉安御影倉庫之碑

夫學校者王政之本也國之有學以興化致治故學校之興廢關於國家之盛衰本朝學政載在大寶令自皇都以及州郡悉置學校中葉以來國史失官制度陵缺終寥々今上天皇龍興戡定海内復古之政明治五年布告學制山陬海隅凡無不設學校文教蔚興靡然嚮風當是時我榮村設小學於播磨而年一年學生增加教室湫隘不能容衆學生明治三十五年卜今之地新築校舍置高等科而奉迎　天皇皇后兩陛下之御影學校更新其觀學生之業亦進然而未造營奉安御影之庫可謂能整耶雖然兩歲日露之役國家多事苦不支其費於是村長齋藤金吾說戶諭曰皇旗之所指連戰連勝無都鄙之差競祝其戰捷豈不要費耶今我邑以其費經營御影之庫以爲祝捷之紀念則不啻傳無前之大捷於千載亦非效尊皇之誠者乎邑人欣然贊之不日而成焉嗚呼此事足以示於後昆而蒸化之資乃篤志者相謀醵金建碑以記事由其篤志者之姓名書之碑陰

明治三十八年十月

正三位伯爵　酒井忠篤題額

正五位　松本十郎撰

西田川郡長從六位勳六等　山宮咸一書

第二章　青年教育竝圖書館

第一節　元農業補習學校

本村ハ農業ニ從事シ又ハ從事セント欲スルモノ尋常小學校教育補習ト同時ニ其ノ職業ニ必要ナル智識技能ヲ授クルヲ目トシ本村立榮尋常高等小學校及湯野澤尋常小學校ニ實業補習學校附設ヲ出願シ明治卅九年十一月九日許可ヲ得榮補習學校ハ仝年十二月十一日ヨリ湯野澤補習學校ハ仝月廿七日ヨリ開始セリ教科目ハ國語算術及實業ノ三科トス修業期間ヲ三學期トシ一週間ノ教授時數ハ六時間季節ハ毎年十一月十六日ヨリ翌年三月十五日マデトセリ、兩校共明治四十五年四月廿四日許可ヲ得學則ヲ改正シ女子部ヲ加ヘ女子ノ職業ニ必須ナル智識技能ヲ授クルト共ニ尋常小學教育ノ補習ヲ目的トスル修身ヲモ加ヘ

女子ニ家事裁縫及手藝ヲモ課スルコト、セリ湯野澤補習學校ニ於テハ大正二年四月廿二日學則中第九條ヲ改正セリ其ノ後榮小學校湯野澤小學校ノ合併ニヨリ榮農業補習學校ト改稱シ年中常設ニ變更セリ而シテ昭和十年ニ於ケル生徒ハ男子部八十一名女子部二十九名ニシテ學校長ハ小學校長ノ兼務ナリ昭和十年四月一日青年學校開始ト共ニ廢止ス

第二節　元青年訓練所

大正十五年四月勅令第七十號青年訓練所令ニ依リ本村青年ノ心身ヲ鍛錬シ國民タルノ資質ヲ向上セシムルノ目的ヲ以テ榮村青年訓練所ヲ本村立榮小學校内ニ併設シ仝年六月二十八日ヨリ開所セリ訓練項目ハ修身及公民科、教練、普通學科、職業科ニシテ訓練期間ハ四年トス主事ハ小學校長兼任トシ指導員ハ六名ヲ置ク而シテ入所者ハ概ネ十六歳ヨリ二十歳マデノ男子トシ大概百人ヲ下ラザル狀況ナリ昭和十年四月一日青年學校開設ト共ニ廢止ス

第三節　青年學校

昭和十年四月一日青年學校令ニ基キ從來ノ榮農業補習學校ニ榮青年訓練所ヲ兼併シテ榮青年學校ニ改メ同年七月一日之ガ實施ヲナシ新制度ニヨル教育ヲ行フ抑〻本村ハ青年ノ數頗ル多ク戸數ニ比シテ其ノ高率ナル他ニ多ク類ヲ見ザル所ナリ從ツテ青年ノ氣風、思想行爲ハ社會的ニモ重要ノ意義ヲ有シ最モ意ヲ茲ニ致サザルベカラザル所ナリ、而モ尚人口分布ハ殆ド飽和狀態ニ近ク二三男問題ノ如キ極メテ緊急ノ關心事タリ、本村夙ニ青年教育ニ意ヲ致シ青年學校經營ニ關シテハ仝村齊シク絶大ナル援助

ヲナシ生徒各自ノ制服購入ノ補助特ニ本年ヨリハ女子青年學校生徒ノ服裝制定ト同時ニ其ノ補助制ヲ實施シ或ハ就學、出席ニ關シテハ村當局、大字區長軍人分會、教育會、青年團、女子會歩調一致其ノ督勵法ヲ講ジ爲ニ就學率ニ於テ一〇〇%出席率ニ於テ九五パーセント乃至一〇〇パーセントノ好成績ヲ示シ監督官廳ヨリモ成績抜群ノ講評ヲ受クル年已ニ久シ、從ヒテ壯丁檢査ニ於テモ學科試驗ヲ始メ成績極メテ優秀昭和十一年ノ如キハ壯丁二十八名中無抽籤志願十八名甲種合格十名以テ其ノ成績ノ一般ト志氣ノ旺盛ナル半面ヲ知ルベシ更ニ入營者ニ就キテ見ルモ上等兵トナル者過去十數年ヲ通算シテ七〇%以上ヲ算スルヲ見レバ如何ニ本村青年ノ資質優秀ナルカヲ知ルヲ得ベシ

本村青年ハ一昨年ヨリ縣道路共進會ニ加入シ來レルガ一昨年ハ本縣十四町村ノ嚴選ニ能ク特等賞ヲ得タリ、尚多年体育向上ニ留意シ團員結束ノ訓練ニヨリ聯合大運動會ニ於テモ部内第一ノ好成績ヲ示スヲ得タリ、更ニ一兩年前ヨリ出寄留、獨立離村ノ二三男、一ケ年半ニ於テ三〇名ヲ算シ途中失敗歸村ノ者一名モナク何レモソレ〳〵目的ニ向ヒ進ミツヽアルヲ見ル以上ヲ總合シ又以テ本村青年意氣ノ一班ヲ知ルヲ得ベシ。

次ニ其ノ教育綱領ヲ掲グ

一、青年學校教育綱領

本村ハ教育ニ關スル聖勅ヲ体シ我ガ國民性ノ精華ト傳統トヲ繼承發揚シ流動極リナキ時代ニ處スベキ優秀善良ナル青年ヲ陶冶センコトヲ期シテ茲ニ本校ノ綱領ヲ定ム。

一、建國ノ大精神ト民族發展ノ歴史ニ還リ國民ノ大義ト農民ノ本領トヲ体現シ皇道ヲ發揚スルノ精

神ト力トヲ養ヒ尊王愛國ノ情ヲ陶冶ス

一、農村榮村ヲ組織スル公民トシテソノ組織機構内ニ完全ニ活動シ得ル健實中正ノ青年ヲ養成ス

一、時代ノ社會狀勢經濟機構ニ善處シテ其ノ産ヲ治メ所生ヲ厚シメズ農民處世ノ大道ヲ体得セル人格ト技倆才幹トヲ具フル青年タラシム

一、人生農民ノ本義ニ徹シ確固不拔ノ理想信念ニ生キ眞ニ幸福ナル内面生活ヲ有スル農民タルノ指導ヲナス

一、天道ニ反スル退嬰保守ノ亡國的觀念ヲ排シ氣力旺盛意氣軒昂到ル所自己ノ新天地ヲ開拓シテ生ノ意義ヲ發見スルノ青年タルノ指導ニ努ム

一、理智ニ偏シ空理空論ニ趨ル輕兆浮薄ノ風ヲ斥ケ体驗ヲ重ンジ實證ヲ貴ビ精神的肉体的苦難ヲ克服シテ其ノ理想ヲ實現シ得ル意志ト熱ト肉体トヲ鍛練ス。

第四節　圖書館

榮圖書館ハ　大正天皇陛下御即位ノ大典ヲ記念シ併セテ本村教育ノ普及智德ノ修養ニ資スルノ目的ヲ以テ大正四年八月十三日之ヲ榮小學校ニ附設セリ

爾來圖書ノ充實ヲ圖リ小學校ノ卒業者及一般青年者等ノ縱覽スルモノ日々多キヲ加ヘ讀書趣味ヲ涵養シ併セテ智德ノ啓發ニ資スル所尠シトセズ其縱覽者日々十人ヲ下ラズ一ケ年延人員三千人以上ヲ算スル狀態ナリ現在圖書千二百五十冊ニシテ年々新刊圖書購入ノ計畫ヲナス本館長ハ小學校長ヲ以テセリ

圖書館ノ活動狀態ヲ次ニ記ス

一、圖書館ガ村民大衆ノ教育上重要任務ヲ帶ブハ論ヲ俟タザルナリ之ガ經營ニハ特ニ農事研究ノ統一結合ニ最深ノ意ヲ用キツヽアリ

二、昭和三年御大典記念トシテ青年團ヨリ農事ノ專問學術書金壹百貳拾圓ノ寄贈ヲハジメトシ其他概ネ村内有志ノ寄贈ニヨレリ

是等ヲ基ニ毎年新刊農業書其ノ他ヲ購求充實ニ努メ居リ今日ニ於テハ相當價格ニ達セリ。

三、由來小規模ノ圖書館ニ於テ最モ多ク讀者ヲ吸收スルハ新刊雜誌ナルヲ以テ毎月「農業世界」「キング」「主婦之友」「家の光」等ヲ購讀ス

四、更ニ昭和十年ヨリハ山形縣立行啓記念圖書館ヨリ農村向圖書ヲ選擇シタル巡回文庫ヲ壹回三ケ月間ヅヽ、年四回百六拾冊ノ圖書ヲ借リ受ケ村民及ビ青年ニ大ナル便益ヲ與ヘツヽアリ

第五節　農事研究室並農事研究會

一、農事研究室

(一)　小學校理科室兒童研究室ニ併置シ農事研究室ヲ經營ス圖書館ト相並ブ重要施設ニシテ村豫算トシテモ學事諸費中ニ其ノ一項ヲ設ケ獨立豫算トス

(二)　主ナル主務ハ農藝化學實驗、農産加工實習特種研究補助等ナリ

本村ハ未ダ稻作專業ノ昔日ノマヽノ産業組織ニシテ行詰リノ狀態ニアリ何レニカ新生面ヲ見出シ一大刷新ヲ圖ラザルベカラザル時期ノ到來ヲ期スルモノナレバ其ノ際ノ研究調査ノ

根城トシテ健實ナル成長ヲ遂ケシムベク畫策工夫シタル施設ナリトス

(三) 青年ノ自由研究ヲ助ケ實驗教授加工實習等ニ利用セシムルモノナリ

二、農事研究會

(一) 全村ノ農事研究機關タラシメンガタメニ設ケタルモノナリ

(二) 昭和十一年四月ハ創會滿五周年ニ當ルヲ以テ記念トシテ研究事項ヲ取纏メ謄寫配布ヲナセリ。

(三) 組織ハ農事研究室附屬事業ニシテ小學校長ヲ會長ニ農業科擔任教員ヲ副會長トス

(四) 本研究室ハ農事改良實行組合ノ傍系的有力ナル研究機關ナルヲ以テ實行組合ハ多大ノ經費ヲ補助セリ

即チ實行組合、青年學校、研究會ノ三位一体ノ結合研究團体ヲナス

(五) 昭和十一年四月ニ山形縣農村振興教育者聯盟ニ加入シ其ノ莊内支部ノ指導ヲ受クルモノナリ

第四款 衛生

第一章 衛生機關

第一節 村醫並トラホーム豫防醫

明治二十二年八月十五日本村々醫設置規則ヲ設ケ村醫一名ヲ置キ種痘ノ接種及傳染病ノ豫防清潔法ノ實施貧民ノ施療其ノ他衛生事務ニ從事セシメ又「トラホーム」豫防醫ヲ兼務セシメ該病ノ豫防ニモ任セシメツツアリ。

第二節 衛生組合

明治三十年七月二十八日個人衛生ノ發達等ヲ期センガ爲衛生組合ヲ設ケ組長一名委員七名議員十二名ニシテ清潔法ノ勵行傳染病豫防其ノ他衛生上發展ヲ劃策シ來レリ爾來役職員ノ交迭等アリタリ

第二章 施設事業

第一節 傳染病院

本村ハ曩ニ傳染病院ノ設備ナキヲ以テ傳染病豫防救治上ノ必要ヲ感ジ本村大字本田字馬場添五十番ノ三ノ土地反別九畝貳拾九歩ヲ代金百八拾貳圓六拾六錢七厘ヲ以テ買得シ之ヲ敷地ニ充テ明治三十三年六月傳染病院壹棟並ニ附屬事務室醫務室貳棟合計貳棟全看護室、消毒所貳棟ヲ建築セリ其ノ總坪數四拾貳坪六合六勺此工費金五百八圓拾壹錢壹厘ヲ要シタリ而シテ輕患者若ハ少數ノ患者發生ノ場合ハ隣接地鶴岡市立莊内病院ニ委託療養ヲナサシムルヲ以テ開設スルコト稀ナリ

第二節 水道敷設竝三水道完成

本村ハ郡ノ北部平野ノ中央ニ位スルヲ以テ一二ノ部落ヲ除クノ外ハ飲料水ノ湧出ナキヲ以テ青龍寺川

ノ支流灌漑水ヲ各戸ニ引水濾過シテ漸ク飲料ニ供ス、シカモ其ノ裝置極メテ不完全ニシテ常ニ溷濁不良ナルノミナラズ一朝上流ニ惡疫發生ノ際ハ直ニ傳染スル有様ニテ傳染病ハ勿論胃腸病患者多ク衛生上甚ダ寒心ニ堪エザルモノアリ齋藤村長夙ニ之ヲ憂ヒ飲料水ノ改良ノ根本策トシテ水道ヲ敷設セザルベカラザルコトヲ痛感セルモ其ノ敷設費ノ尨大ナルト及ビ各種ノ事情ノタメ之ヲ遂行スルノ機運ニ至ラザリキ

然レドモ此ノ問題ハ榮村氷遠ノ保健ニ關スル重大問題ニシテ一日モ忽セニスベキモノニアラズ此ノ際姑息ノ手段ヲ排シ斷然其ノ敷設ヲ敢行セント決意シ明治四十三年六月出縣シテ內務部長佐柳藤太ヲ訪問シ飲料水ノ不良狀況ト水道敷設ノ急務ナルコトヲ具陳シ其ノ援助ヲ乞ヒシニ佐柳內務部長大ニ贊意ヲ表シ且激勵ヲ加ヘタル後他府縣ノ水道ヲ視察調査シ豫算ヲ編成シテ村民ニ諮ルベシト勸告ス

齋藤村長大ニ力ヲ得佐柳內務部長ノ勸告ニ從ヒ仝年九月福島縣郡山町、神奈川縣秦野町其ノ他大阪市等ノ水道ヲ視察シ當時水道敷設ニ對シ最モ優秀ナル成績ヲアケツヽアル大阪市須賀商會ヲ訪ヒ內交渉ヲナシ村會ニ於テ決議ノ上ハ同商會技術員羽間德次郎ヲ招聘スルコトヽナシ又東京市水道ヲ視察シ內務省衛生局ニ就キ各地方水道工事設計等ニ關スル諸般ノ打合セヲナセリ

尋デ仝月西田川郡長山宮咸一鶴岡警察署長松田清次郎兩氏相諮リテ來村シ熱心ニ勸奬シ且ツ村民ノ協議會ヲ開クベキコトヲ勸告ス齋藤村長ハ直ニ各部落ノ協議會ヲ開催シタルガ村民ハ飲料水ノ改善ハ衛生上一日モ等閑ニ付スベカラザル焦眉ノ急務ナルコトヲ認ムルモ水道敷設費ノ尨大ナルト從來良水ノ湧出ニ惠マレ水道ノ必要ヲ感ゼザル本田、小京田、湯野澤ノ三大字ハ反對論ヲ唱ヘ異議紛々トシテ議

容易ニ纏ラズ是ニ於テ齋藤村長ハ各大字ヲ歷訪シ事業ノ性質ト村民保健上百年ノ大計ナル所以ヲ說キ其ノ決行セザルベカラザルコトヲ力說シ東奔西走反對論ノ根底ヲ說破セリ村民モ後ニハ此ノ熱烈ナル勸說ニ動カサレテ共鳴スルニ至リ協議會ハ遂ニ水道敷設ヲ可決セリ。

然レドモ良水ノ湧出ニ惠マレタル本田、小京田、湯野澤ノ三大字ハ其ノ敷設ヲ後日ニ讓ルモ他大字ノ敷設ハ是認援助スルコト、ナシ播磨、中京田、平田ノ三大字ニ村事業トシテ各獨立シタル水道ヲ敷設スルコトトセリ。

是ニ於テ播磨、平田、中京田ノ三大字ヨリ水道委員數名ヲ選任シ之ガ調査企畫實行ノ衝ニ當ラシメ大阪市須賀商會ヨリ羽間德次郎ヲ招聘シ水源地及ビ工事施設ニ關スル諸般ノ事項ノ調査ヲ囑託シタルガ十數日ニシテ設計成レルヲ以テ十月三日正式村會ヲ招集シテ水道敷設工事豫算及ビ工事費ノ五分即チ半額ノ縣補助ヲモ申請スルノ議決ヲナシタリ

仝月上旬齋藤村長出縣右縣費補助申請書ヲ提出セントシタルニ先キニ贊成決議セル議員間ニ本年ノ稻作ハ不幸ニシテ凶作ナルヲ以テ水道敷設ヲ延期スベシトノ異論生ジ齋藤村長ノ出縣ヲ阻止スルモノアリ是ニ於テ村長ハ今更延期スベキニアラズト百方說得シ遂ニ出縣ノ上之ヲ提出シタリ其ノ後屢々縣當局ヲ歷訪シテ陳情ニツトム

明治四十四年ノ通常縣會招集セラルヽヤ幸ニ縣當局ノ提案トナリ縣會モ亦熱心ナル村民ノ請願ヲ容レ申請書通リ工事費ノ半額ノ補助ヲ議決セラル是ニ於テ村民一同大ニ喜ビ明治四十五年一月須賀商會專務技術員淺沼吉太郎ニ請負ハシメ三水道工事ニ着手セシム偶〻播磨水道水源地內ニ惡水湧出シ又霖雨

水害ノタメ鉄管其ノ他ノ材料ノ供給ヲ缺キ工事ノ進行ニ大障害ヲ來シタルモ關係部落民ノ一致協力ト當局ノ熱誠ナル督勵トニヨリ仝年即チ大正元年十二月廿六日ヲ以テ仝部ノ竣工ヲ見ルニ至レリ

先キニ縣會ノ決議ニヨリ工事費半額ノ補助ヲ受クベキモノナルニ仝年九月ノ縣會議員改選ニ際シ縣會ノ形勢一變シタル上縣知事以下内務部長土木課長ノ交迭ニヨリ縣ノ方針ニ變更ヲ來シ補助金ノ交付不可能ノ狀態ニ陷ル

是ニ於テカ齋藤村長大ニ驚キ出縣シテ當局ニ陳情スルモ榮村ハ戸數割ニ等級ヲモ設ケザル富裕村ニアリ一面水道使用料ヲ徵收シ財源ヲ補塡スレバ可ナリトテ容易ニ諒解ヲ得ルコト能ハズ齋藤村長益〻勇躍一番倒レテ後已ムノ大決心ヲ以テ仝ク寢食ヲ忘レ當局ヲ歷訪スルコト數回遂ニ面會ヲ謝絕セラルヽニ至ルモ屈セズ山形ニ滯在スルコト一ケ月熱烈火ノ如ク當局ニ陳情セルニ縣當局モ遂ニ其ノ熱情ニ動カサレテ決議額ノ仝額ノ交付ヲ受クルニ至レリ是ニヨリ水道工事ハ完全ニ其ノ成功ヲ收ムルコトヲ得タリヽ是レ仝ク齋藤村長ノ熱烈ナル努力ノ賚ニシテ村民今尙其ノ勞ヲ多トシテ感謝シツヽアリ

尙三水道ニツキ詳記スル所アルベシ

播磨水道

當地方ハ山遠ク地形平坦ニシテ流水速度常ニ緩漫ナルヲ以テ自然流下的水道ヲ設クルコト絕体ニ不可能ニ屬セリ故ニ青龍寺川支流播磨堰灌漑餘水ヲ完全ニ濾過シ適當ノ上水ヲ得テ淨水池ニ貯溜シ而シテ鑄鉄管ヲ以テ村内ニ引入レ更ニ配水管ニ依リ各戸便宜ノ位置ニ復働揚水ポンプヲ裝置シ自由ニ上水ヲ使用スルノ方法ヲ採レリ。

水源地ハ同村大字播磨字相生地内面積七拾六坪ノ地ヲトシテ之ヲ設ケ沈澱渠、濾過池、淨水池ヲ置ケリ

沈澱渠ハ幅平均二尺一寸七分五厘、深サ平均四尺五寸延長百二十八尺濾過淨水池ハ各中仕切壁ヲ以テ四個ニ區劃シ二個ハ濾過池トシ他ノ二個ハ淨水池トセリ濾過池一個ノ大サハ幅平均九尺一寸長十尺一寸壁高七尺七寸淨水池ハ幅平均十尺一寸長サ平均二十二尺六寸壁高七尺七寸有効水深四尺五寸ニシテ木造平屋造リノ覆蓋ヲ爲シ基礎ハ打杭敷砂利コンクリートニテ堅メタリ送水管ハ五吋乃至二吋鉄管延長九百二間專用栓ハ五十七個ニシテ配水鉛管ノ延長四千百四十七尺ナリ人口ハ四百五十人ニシテ將來增殖ヲ見込ミ九百人ト假定シ一人一日ノ使用量二立方尺トシ千八百立方尺ヲ貯水セリ

中京田水道

水源池ハ同村大字中京田字上田元地内面積六拾坪ノ地ニ設ケ沈澱渠、濾過地、淨水池ヲ置ケルノ沈澱渠ハ幅平均一尺四寸三分深サ平均二尺六寸濾過池ハ幅平均六尺三寸五分長サ平均八尺一寸壁高六尺八寸淨水池ハ幅平均二十尺九寸五分長サ平均八尺一寸壁高六尺一寸有効水深四尺ニシテ構造ハ播磨水道ト同一ナリ送水管ハ四吋乃至三寸鉄管三百三十七間專用栓ハ其ノ數二十八個ニシテ配水鉛管ノ延長一千九百五十二尺ナリ人口二百三十二人ニシテ將來增殖ヲ見込ミ五百人ト假定シ一人一日ノ使用量二立方尺トシ千立方尺ノ水量ヲ貯水セリ

平田水道

水源池ハ本村大字平田字久田地内面積六拾坪ノ地ニ設ケ沈澱渠、濾過池、淨水池ヲ置ケリ沈澱渠ハ幅平均一尺四寸六分深サ平均四尺濾過池ハ幅平均七尺一寸長サ平均十尺一寸壁高六尺八寸淨水池ハ幅平

均十尺一寸長サ平均二十三尺六寸壁高六尺八寸浄水池ハ幅平均十尺一寸長サ平均二十三尺六寸壁高六尺八寸有効水深四尺ニシテ構造ハ前水道ト同一ナリ送水管ハ四吋乃至二吋鉄管二百八拾八間五分専用栓ハ三十七個ニシテ配水鉛管ノ延長二千六百六十七尺ナリ人口ハ三百三十八人ニシテ将來増殖ヲ見込ミ七百人ト仮定シ一人一日ノ使用水量二立方尺トシ千四百立方尺ノ水量ヲ貯水セリ。

以上三水道工事費ノ精算左ノ如シ

決算高

一金貳萬七千五百四拾四圓五拾九錢

内

工費

金貳萬五千百壹圓貳拾五錢　諸雑給旅費及賞與

金貳千四百五圓五拾七錢　諸雑費

金參拾七圓七拾七錢

前經費ノ内金壹萬參千六百五拾四圓貳拾五錢ハ之ヲ縣費補助ニ仰ギ殘金壹万參千八百九拾圓參拾四錢ハ村費及村債ヲ以テ支辨シ工事ヲ完成シタリ。

本村水道工事ハ前述ノ如クニシテ從來多大ノ困難ヲ嘗メ來リタル村内不良ノ飲料水ハ漸ク改良ノ實ヲ擧グルコトヲ得タルハ實ニ縣並郡當局ノ周到ノ注意ト熱誠ナル指導督勵ト當事者ノ協同一致ノ努力ニ依ルモノトス

而シテ本村水道ノ使用料ハ一切徴收セズ各其ノ部落ニ於テ水道ノ維持修繕ヲ爲スコトニ決定シ播磨ニ於テハ其ノ基本金貳千圓中京田ニ於テハ同金參百圓ヲ蓄積セリ平田ニ於テハ大字費ヲ以テ維持修繕ヲ爲スコトニ協定シタリ

第三節　下水處理

前述ノ如ク上水道ハ全村ニアラザルモ敷設經營シ衛生上多大ノ貢献ヲナシツヽアルモ下水ノ處理不完全ニシテ衛生上未ダ欠陥ナシトセズ因テ先ツ下水溜ノ改造ヲ奬勵シ其ノ漏洩ヲ防ギ及ビ其ノ下水ヲシテ堆肥ニ利用セシメ肥料成分ノ增加ト共ニ黴菌ノ死滅ヲ圖リ更ニ溝渠ヲセメントニ改造スルコトヲ奬勵シ土砂ノ崩壞ヲ防ギ腐敗水ノ停滯ヲ避ケシメタリ現在ニ於テハ全村ノ溝渠ノ改造ヲ見ルニ至レリ。

第四節　傳染病ノ豫防救治並種痘普及

本村ニ於テ「トラホーム」及ビ腸窒扶斯等ノ豫防ノタメ名士ヲ招聘シ或ハ村醫ヲシテ毎年衛生講話ヲ行ヒ特ニ産後ノ衛生、哺乳兒ノ養育其ノ他一般保健ニ關スル講演講話會ノ開催ヲ怠ラズ亦眼科醫ヲ聘シ檢眼ヲ行ヒ兼ネテ視力保存ニ關シ一般的ニ注意ヲ促カス、且又腸窒扶斯ノ豫防接種其ノ他種痘ノ普及ニ努メ春秋二回清潔法ヲ勵行シ一面衛生上ノ發達ニ盡シツヽアリ。

第五節　火葬場ノ改善計畫

齋藤村長在任中ヨリ平素火葬場ノ不備ナルヲ慨キ之ガ完成ヲ計ランガタメ各地方ヲ視察シ案漸ク就リタレハ近キ將來ニ於テ之ガ建築ニ當ラントシ關係町村ト折衝中ニ屬セリ

爲スコトニ協定シタリ

第五款　勸業

第一章　概說

本村ハ古來農村ニシテ將來又農ヲ以テ立チ總面積六百拾五町壹反余歩ノ内耕地五百七十八町九反六畝余歩ヲ占メ戸數貳百四拾四戸中農戸數貳百貳拾參戸ニシテ殆ンド農ニ依リ生存ス然ルニ農家ハ專ラ舊習ヲ墨守シ世運ノ進歩ヲ顧ミザル狀態ナリ而シテ此ノ狀態ハ獨リ本村ノミナラズ郡内農民悉ク同一狀態ナルヲ以テ其ノ改善進歩ヲ圖ルノ必要ニ迫ラレ西田川郡内地價金參千圓以上ノ地主糾合シテ明治二十二年勸農會ヲ組織ス齋藤金吾ハ當時當村助役ナリシガ其ノ商議員ニ選バレ尋デ全會ハ先進地福岡縣ヨリ實業教師ヲ招聘シ模範田及ビ試驗田ヲ設ケ傳習生ヲ集メ其ノ方法ヲ傳習セシメ各村ノ稻作ノ改良ヲ計レリ齋藤金吾ハ其ノ勸農會ノ改良方法ヲ奬勵セルガ勸農會ハ其ノ後明治三十九年郡農會ノ設置ニヨリ解散セルヲ以テ後ニハ郡農會ノ指導ト協力シ殊ニ全人ハ郡農會副會長トナリ乾田、馬耕ニ專念シ優良種ノ撰擇、共同苗代、肥料共同購入等漸次改善ヲ圖リ村民ノ福祉增進ニ努力セリ以下其ノ施設方法等ヲ略述スレバ次ノ如シ

第一節　耕作方法改良

本村ハ農稼部落ナルヲ以テ農事改良ニツキテハ常ニ指導奬勵ニ努力シ來リタルモ乾田ノ如キニ至リテハ村民概シテ祖先傳來ノ水田ヲ謳歌シ中々實行セザルヨリ明治廿九年齋藤村長自己所有ノ田六反余歩

ヲ乾田馬耕シ以テ範ヲ示シ懇說シタリシヨリ漸次歩ヲ進メ明治三十二年ニハ八拾六町九反余歩ヲ算スルノミナリシモ其ノ利便ナルヲ悟リ進ンデ乾田馬耕ヲ爲スノミナラズ牛耕ヲモ行フニ至レリ。

第二節　苗代改良

本村ハ明治二十二年組織以來農事改良ヲ以テ主要事業トス着々其ノ實行ヲ期シ諸般ノ施設ヲナセリ、苗代ノ改良又其ノ一ニシテ從來ハ位置ヲ人家附近ニ設ケ種子ハ厚播ヲ例トス而カモ通シ苗代タルハ一般ノ通弊ニシテ苗ノ軟弱ナルノミナラズ成育不整且病蟲害多ク其ノ損失少カラズ明治三十四年村農會ト策應シ苗代ノ位置ヲ適當ノ場所ニ撰定シ短冊形トシ種子ハ鹽水撰薄播ニ改メシメ害蟲ノ驅除ヲ勵行シ移植後ハ跡作ヲ奬メ大ニ收穫ヲ增シタリ爾來奬勵ノ要ナク各自進ンデ遂行スルニ至レリ。

第三節　堆肥改良

多額ノ秋收ヲ得ンニハ施肥ノ量ヲ增スニ如カズトナシ堆肥改良ノ必要ヲ認メ從來ノ野積法ハ主要成分發散ノ缺点アルニヨリ舍内製造ヲ奬勵シ明治三十八、九年ノ交ヽ至リ各戸殆ンド堆肥舍ヲ設クルニ至レリ。

第四節　土壤ト種子トノ合理化

本村ハ素々水田ニシテ土壤ノ肥瘦地質ノ如何ヲ顧ミズ種子ヲ播クノ狀態ニアルヲ以テ能ク地質ヲ調査シ肥料ノ適否ト稻種ノ適否トヲ考ヘ其ノ合理化ヲ圖ルノ要アリトシ勸誘ヲ試ミ來リシガ大ニ地質ト種

子トノ關係ヲ考査スルノ氣運ヲ醸成シ種子ノ選擇ニ意ヲ拂フニ至レリ

第五節　稻乾燥法

農家刈取稻ハ從來畦畔ニ逆立テトナシ數日間放置シ杭掛ヲナスニモ一本五束掛ノ習慣ニシテ乾燥ヲ妨ケ米質ヲ損スルコト大ナルヲ認メ四束掛トシ之ガ改善ノ方法ヲ講ジタリ。

第六節　用排水施設

本村ハ青龍寺川及ビ其ノ分派水ニ依リ灌漑スルモノニシテ本川施設工事ノ如何ニヨリ其ノ利害ヲ享クルコト甚大ナルモノアリ因テ齋藤村長ハ青龍寺川土功會時代ヨリ現今普通水利組合ニ至ルマデ終始議員トナリ常設委員ヲ兼ネ本川事業ニ參畫シ分水口ノ施設改善ニハ甚大ノ努力ヲ拂ヒ旱水害ニ善處セリ故ニ本村ノ用排水支障ナキニ至リ村民其ノ福利ヲ享クルニ至レリ

第七節　農家副業

農家ハ人口ノ增加ト生活程度ノ向上トニヨリ其ノ增收ヲ計ラザルベカラズ是ニ於テ一面農事ノ改良ヲ計ルト共ニ他面副業ノ必要ヲ認メ之ガ奬勵ヲナサンスルモ純然タル平野地ニシテ稻作以外適當ナル副業ナキハ大ニ遺憾トスルトコロナリ。

養蠶、湯野澤部落ニ於テ養蠶ヲナス平田部落ニ於テハ養蠶組合ヲ組織シテ養蠶ヲナス

畜產、各戶ニ家禽、豚、兎等ヲ奬勵ス現今ニ於テハ著シク、增殖ヲ見ル

第八節　米賣買狀況

明治三十五年頃マデハ玄米五斗ヲ壹俵トシ自家ノ倉庫ニ貯藏シ機ヲ見テ賣買シタリシガ明治三十九年後記ノ如ク榮倉庫創設セラレテヨリ四斗俵トナシ米券ニ換フルコトトナレリ。

第九節　農家早起奬勵

本村ハ農家部落ナルヲ以テ早起勞働スルヨリ善キハナシトナシ齋藤村長率先ノ早起ヲ奬勵シツヽアリ自己ニ於テハ八十歳ノ老齡ニモ拘ハラズ午前三四時ニハ必ズ起キ各部落ヲ駈ケ廻リ用務ヲ辨ズル等寒暑ニ論ナク實ニ鑽礪トシテ壯者ヲ凌グノ慨アリ斯ノ如キ狀態ナルヲ以テ各部落ニ於テモ自然其ノ風ニ化セラレ早起ノ良習ヲ涵養スルニ至レリ

第十節　農家休業日

明治四十二年五月庄內三郡農事協議會ニ於テ數年來唱導シ來リタル農家休業日ヲ改定シ明治四十三年ヨリ陰曆ヲ全廢セラルヽニ依リ本村ニ於テモ實行ノコトニ協定セリ其ノ後多少變更セシ部落アルモ當時協定ノ休日左ノ如シ

農家休業日

一、大祭祝日

紀元節　二月十一日

春季皇靈祭　三月廿一日　（田ノ神下シヲ行フ）

神武天皇祭　四月　三日　（三月節句ヲ行フ）
天長節　四　月廿九日
秋季皇靈祭　九月二十三日
神嘗祭　十月十七日　（九月節句ヲ行フ）
明治節　十一月　三日
新嘗祭　十一月廿三日　（田ノ神上ゲヲ行フ）
大正天皇祭　十二月廿五日

但改正アレバ夫レニ隨フ

二、日曜日　一月一日
三、年始休　一　月　三日
四方拜　五　月　五日　（五月節句ヲ行フ）
元始祭　一　月　三日
四、端午　五　月　五日　（五月節句ヲ行フ）
五、鎭守祭　春秋各一日
六、春休　自二月一日至二月六日　（舊正月休ニ換フ）
七、秋休　自八月十三日至八月二十日　（舊盆休ニ代フ）

其ノ他地方ノ狀況ニヨリ從來ノ習慣去リガタキモノアルトキハ特ニ三日以內臨時休業スルコトヲ得以上休日重リタルトキハ之ガ代休ヲ許サズ

八、農家雇人ノ交替期日ハ一月二十五日トス。

以上

第十一節　青年中堅者土着奬勵

本村ノ如キ農稼一途ノ部落ニ於テ之ガ振興ヲ圖ルニテ中堅青年ヲシテ都市ニ憧カルヽヨリ土ニ親シマシムルニ如クハナシトテ其ノ勸奬ニ努メ來リシガ現在ニ於テ農學校、中學校、工業學校、女學校等ノ卒業生約二百名殆ント農家ノ大半ヲ占メ其ノ振興ニ活動シ來レリ、故ニ本村農家經濟ヲ見ルニ本村有土地（田畑）ノ內他市町村人ノ所有スル土地（田畑）參百七拾町六反七畝廿壹歩ニシテ其ノ差貳百九拾町六反七畝貳拾壹歩ハ却テ本村民ノ增有スル所ニシテ本村田畑面積ノ約二分一ニ當ル之レ一ニ青年中堅者ノ活動ニ待ツトコロ多キニ因ルモノト謂フベシ

第二章　榮倉庫

榮村ノ產米ハ年々大概壹萬參千五百石以上ナルヲ以テ各農家ニ於テ自己ノ倉庫ニ貯藏シ來リシモ之ガ設備保管ニハ勘カラザル費用ヲ要スルヲ以テ齋藤村長ハ深ク之ヲ憂ヒ附近東鄕及橫山村長ト共ニ山居倉庫ノ首腦者酒井家會計係金井成功ニ對シ榮村ニ倉庫建設方ヲ屢々交涉ノ末明治三十九年十一月十八

日榮倉庫ヲ本村地内大字湯野澤ニ設立セラレタリ茲ニ於テ村民ハ勿論附近東郷村横山村等ニ於テ收穫終レバ大概該倉庫ニ預ケテ米券若ハ切符トナシ此ノ切符等ヲ以テ賣買シ飯米ヲ除クノ外ハ實物保管ノ必要ナク隨テ自己倉庫ヘ貯藏シ置ク要ナク唯、米依託ノ諸掛リ及ビ保管料ヲ支拂フニ過キズ大ニ輕便且安心トナレリ、而シテ該倉庫ハ赤川堤防改修工事ノタメ昭和九年ニ同大字地内縣道脇ニ移轉シ更ニ倉庫一棟ヲ增築シ收容力ヲ擴大シ設備ヲ充實シ產米者ヲシテ喜ンデ入庫セシムルニ至レリ昭和十一年ノ入庫米ノ一例ヲ擧クレハ三萬七千石ヲ算セリト云フ

第三章　村農會

本會ハ明治二十九年七月農會規則ノ發布ニ依リ當時村長タル齋藤金吾等有志ト相謀リ仝年十一月十一日榮村農會ヲ組織シ會長ニハ齋藤金吾副會長ニハ須田治郎右衛門推選セラレ幹事ニハ工藤掃部加藤三右衛門、議員ニハ河野善治郎外十二名選任セラレタリ

本會ハ村事業ト策應シ農事ノ改良ニ貢献シ來リシガ爾來役職員等ノ交迭モアリ昭和七年三月ヲ以テ遂ニ本會ヲ解散セリ然ルニ解散中ハ本村農事改良實行組合ニ於テ其ノ事業ヲ代行シ來リシニ昭和十一年十一月十三日關係者ノ集會ヲ開キ昭和十二年度ヨリ復活ノコトニ協定シ當時村長タリシ齋藤金吾ニ農會長職務執行ヲ命ゼラレタリ然ルニ農會惣代二十四名ハ多キニ失スルヲ以テ十二名ニ改正ノコトニ縣知事ニ申請ノ末昭和十二年一月十二日定數變更ヲ命セラレタリ依テ二月十二日惣代人ノ選擧ヲ行ヒ仝月二十七日惣代會ヲ招集シ會長ノ選擧ヲ行ヒタルニ須田安脩當選就職シ仝ク農會ノ確立ヲ見ルニ至レリ

第四章　農事改良實行組合

明治三十年本縣稻作ハ稀有ノ蟲害ヲ蒙リ縣下農村ハ甚大ノ打撃ヲ受ケ之ガ輓回策トシテ縣郡共ニ仝力ヲ傾注シ其ノ一端トシテ翌三十一年彼ノ有名ナル梶尾農學士ヲ聘シ縣内各地ヲ巡講セシメ農村子弟ノ農業智識ノ增進並ニ技術ノ指導ニ當ラシメ該施設ハ急速度ニ奏功シ講習生モ逐次增加シ一ツノ「サークル」ヲ形成シ翌三十二年ニハ西田川郡興農會ナル青年有志農會ガ組織セラレ本村モ其ノ波動ニヨリ一ノ青年團体誕生シ興農會ノ一單位トシテ活動スルコトヽナレリ。

本團体ハ年ト共ニ整備發展シ明治三十七年ニ至リ役員ヲ置キ會規ヲ定メ西田川郡興農會榮村支部ト命名シ郡興農會ト連繫シ村農會ノ事業ヲ扶ケ農產物ノ增殖經營法ノ改善等農事百般ノ改良ニ盡力スルコトヽナレリ該狀態ハ昭和元年マデ續キ翌二年ニ至リ郡興農會ノ組織變更ニヨリ本村支部ハ獨立シテ榮村農事改良實行組合トナリ前任務ヲ遂行セリ。

昭和七年本村農會ノ解散セラルヽヤ我ガ實行組合ハ村民一致ノ要望ニ依リ其ノ代行任務ニ服セザルヲ得ザルニ至リ村農會ニ準ジ其ノ組織ヲ改メ其内容ヲ强化シ舊農會事業ヲ繼承シ事務ヲ代行シ今日ニ及ベリ

而シテ本實行組合ハ會員約四百名ニシテ組合費ハ地租壹圓ニ付五、六錢ニ過ギズ而モ該組合ハ本村中堅青年其ノ幹部ヲ占メ其ノ活躍目醒シク農事上ニ貢献スルコト多大ナリ茲ニ農會事業ヲ繼承シテ實行ノ重ナル事項概ネ左ノ如シ

記

一、水稻原種ノ栽培
一、稻田地下排水施設
一、稻生掛乾燥奬勵
一、紫雲英ノ試作及各種品評會開催
一、農業藥品共同購入
一、鹽水選ノ實行
一、苗代調査
一、野菜種子斡旋
一、農事講話並研究會開催
一、農事視察員派遣
一、養鷄奬勵
一、牛馬共進會開催
一、貯金奬勵
一、倉庫燻蒸藥共同購入斡旋
一、病蟲害豫防驅除
一、兎皮ヲ陸軍ヘ販賣斡旋

一、除草機共同購入
一、野鼠驅除
一、稻作收穫坪刈調査

而シテ村農會復舊ノ上ハ仝會ニ於テ該事業ノ遂行ニ膺タルコトヽ爲レリ

第六欵　土木

第一章　土木工作

第一節　道路及橋梁

本村ノ道路ハ古來里道トシテ舊村所属ニ據リ修理シ來リシガ明治二十二年町村制實施以來交通上樞要ノ道路ニハ村ニ於テ年々修理若クハ築設シ來リタリ降テ大正八年四月十一日道路法ノ發布ニ伴ヒ翌大正九年四月一日監督官廳ノ認可ヲ得左ノ路線ヲ町村道ニ認定セリ

榮村町村道ニ認定路線

本田線第一號	字相田ヨリ仝宅地四十八番地マデ	延長貳拾四間
仝　第二號	字相田ヨリ字馬場添宅地十九番地マデ	仝　參拾四間
仝　第三號	字相田ヨリ皇大神社マデ	仝　五間

本田線第四號	字八百地ヨリ仝宅地百七十八番地マデ	延長	四間
仝 第五號	字八百地ヨリ仝宅地百六十八番地マデ	仝	參拾參間
仝 第六號	字八百地ヨリ仝宅地百參拾番地マデ	仝	四拾九間
仝 第七號	字八百地ヨリ仝宅地百四十七番地マデ	仝	貳拾壹間
仝 第八號	字八百地ヨリ仝田百參拾參番地マデ	仝	四拾五間
仝 第九號	字八百地ヨリ青龍寺川マデ	仝	貳町四拾七間
仝 第十號	字八百地ヨリ小瀦京田マデ	仝	拾壹町參拾貳間
仝 第十一號	字八百地ヨリ仝田四十八番地マデ	仝	壹町七間
仝 第十二號	字八百地ヨリ仝田四十二番地マデ	仝	壹町拾七間
小京田線第一號	本田字相田ヨリ小京田字沖田八十二番地マデ	延長	拾九町參拾八間
仝 第二號	字黒羽ヨリ字堂野口田三十三番地マデ	仝	參町參拾五間
仝 第三號	字黒羽ヨリ仝宅地七十番地マデ	仝	九間
仝 第四號	字黒羽ヨリ神社マデ	仝	貳拾壹間
仝 第五號	字黒羽ヨリ仝宅地五十五番地マデ	仝	貳拾貳間
仝 第六號	字黒羽ヨリ濱中街道マデ	仝	拾參町八間
仝 第七號	字黒羽ヨリ仝宅地十番地マデ	仝	貳拾六間
播磨線第一號	字相生ヨリ新山神社マデ	仝	壹町四拾貳間

仝 第二號	字相生ヨリ仝宅地八十四番地マデ	仝	壹町拾六間
仝 第三號	字相生ヨリ仝宅地六十九番地マデ	仝	壹町貳拾七間
仝 第四號	字相生ヨリ仝宅地五十三番地マデ	仝	五拾間
仝 第五號	字相生ヨリ仝宅地十五番地マデ	仝	四拾五間
仝 第六號	字相生ヨリ字若松大山街道マデ	仝	貳町參拾七間
仝 第七號	字相生ヨリ播磨水道水源池マデ	延長	貳町貳拾貳間
仝 第八號	字通端ヨリ仝田廿八番地マデ	仝	五拾四間
仝 第九號	字相生ヨリ樋口宅地百貳拾貳番ノ二マデ	仝	貳拾五間
仝 第十號	字相生ヨリ仝宅地百四十番地マデ	仝	貳拾五間
仝 第十一號	字相生ヨリ仝畑百四十六番地マデ	仝	參拾壹間
仝 第十二號	字上堤ヨリ仝田四十七番地マデ	仝	五拾九間
仝 第十三號	字野中ヨリ仝宅地五十番地マデ	仝	貳拾九間
仝 第十四號	字野中ヨリ仝田四十六番地マデ	仝	七間
仝 第十五號	字野中ヨリ仝宅地八十四番地マデ	仝	拾間
仝 第十六號	字野中ヨリ仝宅地五十八番地マデ	仝	貳拾七間
仝 第十七號	字野中ヨリ仝宅地二十四番地マデ	仝	參拾五間
仝 第十八號	字野中ヨリ仝田百七拾六番地マデ	仝	參町八間

播磨線第十九號	字相生ヨリ本田字正天畑四十六番地マデ	延長貳拾町貳拾五間	
平田線第一號	字伊久田ヨリ字長田畑廿七番地マデ	仝	拾八間
仝 第二號	字伊久田ヨリ仝宅地百番地マデ	仝	貳拾四間
仝 第三號	字伊久田ヨリ字財當田四十八番地マデ	仝	四拾壹間
仝 第四號	字伊久田ヨリ平田水道水源池マデ	仝	貳拾六間
仝 第五號	字伊久田ヨリ字財當田十三番地マデ	仝	貳拾間
仝 第六號	字平元ヨリ仝宅地六十八番地マデ	仝	五拾四間
仝 第七號	字平元ヨリ仝田二十八番地マデ	仝	貳町六間
中京田線第一號	字大夫ノ越ヨリ字越日五十七番地マデ	仝	拾壹町貳拾參間
仝 第二號	字大夫ノ越ヨリ神社マデ	仝	貳町貳拾九間
仝 第三號	字大夫ノ越ヨリ仝田七十番地マデ	仝	壹町拾壹間
仝 第四號	字大夫ノ越ヨリ仝畑五十八番地マデ	仝	拾五間
仝 第五號	字大夫ノ越ヨリ仝宅地百參番地マデ	仝	拾參間
仝 第六號	字大夫ノ越ヨリ仝田百十二番地マデ	仝	壹町八間
仝 第七號	字大夫ノ越ヨリ仝宅地百六番地マデ	仝	貳町四拾貳間
湯野澤線第一號	字新田ヨリ播磨字野中マデ	仝	拾壹町五拾八間
仝 第二號	字上川原ヨリ仝畑三十番ノ二マデ	仝	五町貳拾八間

仝 第三號	字上川原ヨリ仝宅地百參拾參番地マデ	仝	貳拾壹間
仝 第四號	字上川原ヨリ仝畑八十八番ノ一マデ	仝	壹 町
仝 第五號	字上川原ヨリ仝畑百四十四番地マデ	仝	參町參間
仝 第六號	字上川原ヨリ仝宅地百二十番マデ	仝	貳拾間
仝 第七號	字上川原ヨリ赤川マデ	仝	貳拾間
仝 第八號	字上川原ヨリ仝宅地百十五番マデ	仝	拾九間
仝 第九號	字上川原ヨリ仝宅地百五番地マデ	仝	壹町貳拾八間
合計六十一線		延長四里拾六間	

但總延長ノ內道路延長參里參拾五町五拾壹間橋梁延長貳拾五間

外 ニ

一、東郷村大字善阿彌ヨリ仝村大字青山ニ通ズル道路

（榮村大字湯野澤分） 長百拾壹間五分ノ道路ハ本町村道ニ昭和三年十一月二日編入セリ

以上ノ如クニシテ益々道路交通ノ便ヲ圖リ遂年道路ノ砂利敷等ヲナシ昭和二年度ニハ本村大字中京田地內縣道大山、藤島線百三十間幅員三間ヲ壹千五百九拾四圓ヲ投ジ改修シ仝四、五年度ニハ道路擴張費壹萬參千八百九拾壹圓ヲ計上シ小學校前ヨリ鶴岡市ニ通ズル町村道ノ幅員ヲ擴張シ盛立ノ上幅三間ニ改修セリ

昭和七年度ニハ農村振興土木事業トシテ工費金七千圓ヲ投シ大字播磨ヨリ大字平田ニ通ズル道路延長

一千九百九十二米二幅員四米五ニ改修仝年十二月竣工セリ引續キ昭和八年度ニハ工費金九千圓ヲ投ジ播磨線延長一千四百七十一米幅員四米五小京田線一千三百十七米幅員四米五本田線百八米六幅員四米五ニ昭和九年度ニハ工費金七千七百九拾八圓ヲ投ジ湯野澤中京田播磨馬塲添線延長一千四百八十九米ヲ改修セリ

仝年凶作應急施設土木事業トシテ播磨線延長二百五十六米九幅員四米ヲ改修シ此工費金七百八拾圓ヲ要シタリ尚引續キ仝年度農村振興耕作道トシテ大字中京田ヨリ平田ニ通ズル延長七百五拾米幅員三米ヲ金壹千六百拾四圓ヲ以テ改修シ又凶作應急耕作道路改修事業トシテ大字播磨字小瀨京田ヨリ播磨線ニ通ズル延長六百五拾米幅員四米大字本田部落ヨリ鶴岡市ニ通ズル延長貳百米幅員　米大字中京田部落ヨリ平田線ニ通ズル幅員四米ヲ金壹千五百五拾四圓ニテ改修シタリ

昭和十年度凶作應急事業トシテ工費金貳千百圓ヲ投ジ中京田、小京田線延長九百八拾壹米四幅員四米ニ改修シ尚農村振興耕作道改修事業トシテ大字小京田部落ヨリ京田村ニ通ズル延長壹千參百米幅員三米大字湯野澤地内貳百米幅員參米ヲ改修セリ

以上ノ如ク近時勃興セル土木事業ノ爲本村内道路線ハ面目ヲ新タニシ眞ニ四通八達村交通史上一新紀元ヲ畫セリ

從來本村民ハ道路愛護觀念旺盛ニシテ殊ニ齋藤金吾ハ土木行政ニ對シ熱心ニシテ道路交通ノ完備ハ村産業ノ開發文化ノ發展上缺クベカラザルヲ認識シ右ノ如ク昭和七年度以來巨額ノ費用ヲ投ジ之ガ改良ニ努メ又道路改良會通常會員タリ。

之ガ維持修繕ニ付テハ例年道路工夫ヲ傭入レ或ハ青年團員出動、路面ノ凹凸ヲ均ラシ排水ニ努メ又本縣主催ノ道路共進會ニハ本村青年團ニ於テ進ンデ之ニ加入シ昭和九年ニハ壹等賞昭和十年ニハ優等賞昭和十一年ニハ二等賞ヲ獲得セリ

第七欵　通信

第一章　通信機構

第一節　郵便局設置

本村ハ明治初年ヨリ明治二十一年マデノ間當村播磨ニ五等郵便局アリシモ其ノ後廢局トナリ横山郵便局ノ配達區域トナリシモ通信上ノ不便勘カラズ村民ハ大ニ郵便局ノ設置ヲ希望セシガ當時齋藤金吾ハ衆議院議員タリシヲ以テ其ノ筋ニ交渉ノ便アルヲ以テ仙臺監督局及ビ遞信省トノ間ニ奔走其ノ歩ヲ進メ一面村會ヲ開キ請願ノ道ヲ講ゼシメ大正十四年二月十四日付ヲ以テ時ノ村長須田治兵衛ヨリ遞信大臣ニ請願書ヲ提出シ仝年三月三十日許可ヲ得再ビ村會ヲ開キ局舍ノ建設ヲ議定シ六月十一日ヨリ仮事務所ニ於テ事務ヲ開始セリ局舍ハ大字播磨地内ニ大正十四年四月十五日起工仝年七月三十日竣工本局建物總坪數拾六坪七合七勺經費金貳千五百拾七圓七拾壹錢ヲ要セリ尚五ケ年間ノ維持費金參千七百五拾圓ハ齋藤金吾ニ於テ個人寄附ヲ爲セリ茲ニ於テ榮郵便局ノ新設トナリ通信事務ノ便宜ヲ得ルニ至レ

リ

第二節　電話及電信開始

本村ハ郵便局ノ新設ヲ見ルニ至リタルモ電信電話ノ架設ナキニヨリ一段ノ不便ヲ感ゼリ爰ニ於テ當時代議士タリシ齋藤金吾ハ村當局ト圖リ之ガ實現ニ努メ大正十四年十月九日付ヲ以テ村ヨリ電話通信事務ノ開始ヲ遞信大臣ニ請願シ仝年十一月十日電話通信事務開始ノ許可ヲ得創設設備ニ要スル物件委託費金參千參百九拾參圓五拾四錢ヲ寄付シ大正十五年一月一日ヨリ通話開始トナレリ而シテ電話維持費トシテ一ケ年金參百五拾圓ツヽ大正十四年度ヨリ五ケ年間村ヨリ寄付スルコトヽナレリ而シテ本寄附金ハ賦課ニ依ラズ村内有志ヨリ個人寄附セリ

大正十五年十一月八日電信事務ノ開始ヲ村ヨリ遞信大臣ニ請願シタリシカ之レ又昭和二年二月三日許可セラレ仝月二十一日ヨリ電信事務ノ開始ヲ見、村ヨリハ一ケ年金九百五拾圓ツヽ昭和二年度ヨリ五ケ年間寄附スルコトヽナレリ而シテ本費ハ仝シク賦課ニ依ラズ村民有志ノ寄附トセリ

第三節　特設電話

昭和六年十一月一日當時村長齋藤金吾上京其ノ筋ニ交渉ノ結果大ニ功ヲ奏シ隣村東郷村ノ一部ヲ本村電話區域ニ編入セラレ昭和七年二月十六日ヨリ以テ特設電話加入ノ受理トナリ

最新ノ自動電話「リレサツテライトエクスチエンジ」式特設電話ノ架設トナリ仝年三月三十一日ヨリ電話試驗通話施行セラレ六月五日開通式ヲ行ヒ七月一日ヨリ交換事務ノ開始トナリ金參百六拾圓七拾

五錢ヲ寄附セリ

叙上ノ如ク郵便局ノ設置電話電信ノ開始特設電話等通信機關ノ完備ヲ見、通信上便宜ヲ得タルハ一ニ齋藤村長努力ノ賚ナリ

第八款　警備並救濟

第一章　警備救濟消防組

第一節　消防組

本村ハ藩政時代ノ舊慣ニヨリ各部落ニ自身番ヲ置キ或期間夜中部落内ヲ巡警シ又監督委員ヲモ設ケ警戒ニ盡瘁シ來リシカ明治二十九年六月二十一日消防組ヲ組織シ七部ニ分チ組頭一名小頭一名部長及部長代理者各七名ヲ置キ消防ニ活動セリ、大正三年三月三十日本村ヲ六區ニ改メ部長及部長代理者ヲ各六名ト變更セリ其ノ後五部ニ變更シ消防手百四、五十名ニシテ必要器具、器械ヲ設備シ出動上遺憾ナキヲ期セリ然ルニ火防上尚一段ノ迅速ヲ期スル爲メ昭和十二年ニ於テ金七千余圓ヲ投シ自動車ポンプ並ニ警鐘臺ヲ設備セリ又常ニ火災豫防上ニ努力ノ結果昭和九年六月ニ本縣知事ヨリ無火災村トシテ表彰セラレ亦仝十年十月十日ニ規律節制嚴守消防各般ノ訓練ニ勵ミ施設亦整ヒ平素克ク水火災ノ警防ニ努メ成績優秀ノ廉ヲ以テ竿頭章ヲ授與セラレタリ

第二節　水防施設

本村ハ水防組合ナルモノナシト雖モ湯野澤部落ハ赤川ノ沿岸ニシテ又青龍寺川ノ下流ニ接續介在シ逆水ノ恐アルヲ以テ湯野澤消防組ニ附帶シ水防用土俵及ビ打杭、鍬、脊負籠ヲ準備シ一朝溢水若ハ滯水ノ場合ヲ考慮シ恒ニ之ガ準備ヲ爲シ置ケリ

第二章　震災救濟

明治二十七年十月縣下大震災ニテ莊內ハ其ノ中ノ中心ナリシニ幸ニ榮村ハ被害少ナク不幸中ノ幸ナリキ、其ノ被害概況左ノ如シ

榮村被害調

大字	家屋大破	土藏大破	社寺堂大破	損害概算
本田				
小京田				
播磨				
中京田	二			三二〇
平田	一五			五二六〇
湯野澤	一			五二八九三
計	一八棟			四二二三五

以上ノ如クニシテ本村ハ大被害ナキヲ以テ劇震地本郡袖浦村東鄉村及ビ飽海郡東田川郡ニ對シ多少ノ金穀ヲ寄贈シタリ。

第三章　凶作地租延納並免除

明治四十四年莊內三郡凶作ニ罹リ地方農家多大ノ恐慌ヲ來タシ民心動搖ノ傾向アリ榮村モ其ノ災害甚シク默視スルニ忍ヒズ齋藤村長ハ其ノ實況ヲ所轄稅務署ニ陳狀シ田租ノ延納ヲ請願スルニ至レリ稅務當局ハ實査ノ結果其ノ事實ヲ認メ主務官廳ニ稟議ノ末其ノ被害ニ對シ仝年十一月十八日附ヲ以テ十ケ年間延納ノ許可ヲ受ケタリ其ノ反別田四百四拾七町壹反壹畝拾參步地價金拾六萬七千八百六拾壹圓拾七錢ニシテ其ノ後大正三年ニ至リ六千餘圓ノ地租免除ヲ得ルニ至レリ是ニ於テ被害民ハ始メテ愁眉ヲ開クニ至レリ

然ルニ附近町村ニ於テモ仝樣ノ被害アリシモ躊躇遷延請願ノ期ヲ失シ遂ニ其ノ惠澤ニ浴セザリシニ本村ノミ村長ノ挺身機敏ノ處置ニヨリ其ノ恩典ニ浴スルコトヲ得タリ

第九欵　社會事業

第一章　社會事業

本村ハ立村以來協同一致共存共榮ノ實ヲ擧ゲツヽアルヲ以テ特ニ社會事業トシテ施設スベキ事項少ナ

ク唯僅カニ救護法ニヨル救護ト出征家族ニ對シ勞力奉仕ヲ爲セリ又小學校ニ於テハ給食並ニ學用品ノ給與ヲナセリ。

第二章　隣保共助

人世共存上隣保相扶ハ缺クベカラザルヲ以テ大正十三年十二月戸主會創立ノ後左ノ事項等ヲ協定シ火災ノ場合ハ罹災者ニ對シ村民應分ノ義捐金品ヲ贈リ昭和十一年冬大雪ノタメ水湛ヘトナリ水害ヲ蒙リタル時ノ如キハ隣保出夫除雪疎水ヲ圖リ災害防除ニ勗ムル等共助ノ實ヲ擧ゲツヽアリ

記

一、村民ノ天災地變ニ逢ヒタルモノニ對シ村民ヨリ義捐金品ヲ贈ルコト

但シ金品ハ任意トシ一週間内ニ各分會長之ヲ取リマトメ戸主會長之ヲ罹災者ニ贈呈スルコト

一、建物築造ノ場合人夫ヲ要スルトキ隣保出夫共助スルコト

一、冠婚葬儀ノ場合ハ隣保相扶共助スルコト

以上各部落ニテ協定セルモノ

第三章　敬老會

年々七十歳以上ノ高齢者ヲ小學校ニ招待シ小學校兒童ノ學藝會、運動會等ヲ觀覽セシメ尚講談落語等ノ餘興ヲ催シ併セテ簡素ナル饗宴ヲ開キ慰安ノ道ヲ講ジ敬老ノ意ヲ表シ來レリ招待スル老人年々四十名乃至五十名ナリ

第四章　僕婢勤續者表彰

本村内ニ五年以上勤續セル僕婢ヲ表彰シ以テ忠勤並ニ愛撫ノ至情涵養ニ努メ來レリ勤續最高四十年以上ナリ而シテ村ヨリ表彰ヲ受クルモノ毎年三十名前後アリ斯ノ如キ狀態ニ在ルヲ以テ本村大字平田佐藤亀藏ナルモノ主家五十嵐彌市郎方三代ニ仕ヘ四十七年間忠勤ヲ勵ミタル廉ヲ以テ昭和十二年二月十一日紀元ノ佳節ニ於テ本縣知事ヨリ金貳拾圓ノ表彰ヲ受ケタリ

第五章　兒童給食ノ施設

本村ハ由來貧富ノ差他ニ比シ甚シカラズ極貧ナル者稀少ナリシモ昭和六年急激ナル財界ノ變動ニヨリ小學校兒童中給食ノ必要ヲ認ムルモノ若干アルベキヲ慮リ齋藤村長ハ小學校ノ職員ヲシテ之ガ調査ヲナサシメタルニ其ノ兒童數十八名アリタルヲ以テ昭和八年度ヨリ仝十年度ニ亘リ年々九拾圓以上壹百參拾圓ノ村費ヲ支出シ之ガ給養ニ努メタリ斯クシテ三ケ年間ノ延日數百六十日兒童延數二千八百八十人ニ達シ兒童ノ營養保健成績甲乙ナキノ現象ヲ呈セリ村長ハ此ノ成績ニ鑑ミ尚年々相當額ヲ豫算ニ計上シ將來共斯道ノ普及徹底ヲ企劃シ以テ益々健全ナル村民ノ育成ニ盡ス所アラントセリ

第十欵　選擧肅正

第一章　選擧肅正施設

本村ハ町村制施行以來立村ノ精神ニ則リ村長ヲ中心トシテ各種ノ選擧ニ順應シ擧村一致一系不亂ノ統制確立セルヲ以テ何レノ選擧ニ於テモ選擧プロ―カ―等ノ浸入ノ餘地ナク毎選擧何レモ適正ニ行ハレツヽアルノミナラズ其ノ棄權率モ亦甚ダ少ナキヲ以テ常例トナス

昭和十年選擧肅正運動ノ檜頭スルヤ當村有權者集合シテ左記ノ如ク協定ヲナシ選擧ヲシテ益々公明正大ナラシメンコトヲ期セリ。

(一) 選擧肅正ニ關スル決議

昭和十年有權者集會ノ上左ノ如キ決議ヲ爲セリ

決　議

正シキ選擧ハ立憲政治ノ根源ニシテ百政ノ改新社會ノ淨化總テ源ヲ茲ニ發ス、我等ノ清キ一票ハ天皇ノ政治ニ翼贊シ大御心ニ副ヒ奉ル所以ナルコトヲ深ク顧ミ心ヲ洗ヒ節ヲ守リ神明ニ誓テ選擧ノ公明投票ノ純潔ヲ持シ以テ忠君愛國ノ道ヲ貫徹センコトヲ期シ左ノ實行ヲ誓約ス

一、買收饗應利益ノ供與ノ如キ不正行爲ハ如何ナル誘惑アルモ絶對ニ應セザルハ勿論人ヲ誘惑スルガ如キ行動ハ決シテ爲サザルコト

二、運動ノタメ訪問面接等ヲナサズ又斯ノ如キ運動アル場合ハ斷然拒否スルコト

三、投票勸誘ノタメ內密ノ公會ヲ催サズ又斯カル催ニハ參加セザルコト

四、其他選擧法規ヲ遵守シ違反行爲ヲナサザルコト

以　上

(二) 選擧肅正申合規約ノ締結

自治體ハ立憲政治ノ基礎團体ニシテ其ノ構成分子タル公民ガ自己ノ公權ヲ適正ニ運用スルハ獨リ自治團体ノ相互依存ニ於テ重大ナル關係ヲ有スルハ勿論選擧權ヲ適正ニ之ヲ行使スルハ立憲政治ノ下ニ生活スル國民トシテ尤モ重要ナル責務ノ存スルコトハ言ヲ俟タザル所ナリ然ルニ從來動モスレバ之等公權ノ運用ニ公明ヲ缺キ世ノ非難ヲ享ケタルノ例ニ乏シカラザルハ甚タ遺憾トスル所ナリ今ヤ政府ハ內外非常時ノ重大性ニ鑑ミ官民協力一致シテ一大國民運動ヲ起シ以テ大ニ覺醒ヲ促シ立憲政治ノ基礎確立工作ニ銳意努力セントスルハ尤モ機宜ヲ得タル處置ナリト信ズ、此ノ秋ニ方リ自治團体モ大ニ政治教育ヲ高調シ併セテ自治共同生活ニ於ケル相互依存並ニ政治ノ道義心ヲ高メ以テ大ニ選擧界ヲ淸淨ナラシメ將來ノ禍根ヲ絕タントス依テ茲ニ選擧肅正申合セ規約ヲ結ビ現在及將來ニ於ケル自治住民ノ責任ヲ明徵ナラシメ併セテ健全ナル自治ノ平和鄕ヲ確立センコトヲ期スル所アラントス有權者會合同時ニ左ノ申合規約ヲ締結セリ

西田川郡榮村大字何々選擧肅正規約

第一條　本規約ハ各種公法上ノ選擧アル場合ニ於テ公明正大ナル選擧ヲ行ヒ立憲政治ノ本旨ヲ徹底セシムル目的ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス

第二條　總テ選擧ニ關シテハ自治共同生活ニ於ケル相互道德上ノ責任ヲ強調シ各人ハ左ノ各號ニ留意シ之ヲ嚴守スルコト

一、選擧人ハ何等他ノ束縛ヲ受クルコトナク自由意志ニ基キ適正ナル選擧ヲ行フコト

二、選擧法ニ違背シ又ハ諸種ノ弊害ニ陷ルコトナキ樣互ニ警戒スルコト

三、被選擧人候補者ノ政見發表又ハ公報等ヲ批判シ公明ナル判斷ニヨリ選擧ヲ行フコト

第三條　自治住民ニシテ選擧法ニ違犯セントスル者アルトキハ互ニ警告スルコトアルベシ

第四條　選擧運動又ハ政爭ニヨリ自治共存ノ平和ヲ破リ自治ノ本旨ニ悖ルモノアルトキハ强ク之ヲ警告シ矯正ニ努ムルコト

第五條　此ノ規約ヲ恪守スルタメ各戶主ハ左ニ連署シ一通ハ村長ニ一通ハ大字區長規約者一同代表者ニ於テ之ヲ保管ス

昭和十年　月　日

榮村大字何々

何ノ誰　㊞

第十一欵　民力涵養及生活改善

第一章　民力涵養

勤勞勞役ヲ厭ハズ零碎ヲ蓄積シテ村民ノ福利ヲ增進スルハ立村ノ大精神ナルヲ以テ明治二十六年齋藤金吾村長ニ就職スルヤ直ニ基本財產ノ造成ヲナシ財政ノ基礎ノ安固ヲ計ル、即チ仝年十月ニ「村基本財產積立及管理規程」「學校基本財產積立及管理規程」ヲ作リ其ノ積立ヲナシタル外各種團体ニモ基本財產ノ造成ヲ奬勵シ財政ノ基礎ノ安固ヲ計ラシム。

現今多キハ參千圓少ナキモ參百圓ノ蓄積ヲ見ルニ至レリ

又公民敎育トシテ村民ニ配布スル文書ヲ昭和初年ヨリ小學校兒童ニ託送方法ヲ講ジタリ即チ「ズック」製ノ袋ニ各部落名ヲ記シ文書ヲ入レ小學校退校前ニ小學校ニ送リ小學校ニ於テハ各部落上級生ニ渡シ之ヲ各部落ニ届ケシム而シテ今日ニ至ルマデ其ノ託送頗ル確實ニシテ未ダ曾テ忘却、遺失等ノ故障ヲ生ジタルコトナシ。

第二章　生活改善

本村ハ鶴岡市ヲ距ルコト僅カニ一里餘ナルヲ以テ多少都市ノ弊風ニカブレ其ノ生活上冗費少ナカラズ今ニシテ其ノ矯正ヲ圖ラザレバ將來憂フベキモノナシトセズ因テ戶主會ニヨリ其ノ改善ヲ圖ラシム戶主會ニ於テ改善上協定セルモノ左ノ如シ

記

一、大字全般ニ關スル普請ノ外、部分的ノ普請ニハ集會飮酒セザルコト

一、婚禮ノ外鰒ヲ使用セザルコト

一、酒宴ハ可成催サズ盃ノ献酬ハ廢止スルコト

一、買物ハ成ルベク現金ノコト

一、娶婿ノ初節、田植行、秋行等ノ土産餅配リヲ廢止スルコト

一、七歳及ビ還暦祝ノ外ハ配リ餅全廢スルコト

一、婚禮ニ關シテハ左記ノ事項ヲ確守スルコト

イ、娶婿ノ衣裳ハナルベク質素ヲ旨トシ當時必要品ニ止メ徒ニ華美數量ノ多キヲ望マザルコト

ロ、婚禮ニ際シ賄ハ親族一戸ニ付一人賄トシ其ノ費用ハ双方分限ニ應ジテ節約シ左ノ制限ヲ超ヘザルコト

	一人分賄費	簞笥	夜具
一ケ年所得額			
壹萬圓以上	玄米二斗五升	三	二
壹萬圓以下	玄米 二 斗	二	二
五千圓以下	玄米一斗五升	二	二
參千圓以下	玄米 一 斗	二	二
千 圓以下	玄米 七 升	一	一
五百圓以下	玄米 五 升		

ハ、從來ノ關係等ニ係ラズ招待者ハ親族並特別緣故者ニ止ムルコト

ニ、從來ノ村祝茶及振舞等ハ一切廢止スルコト

一、葬祭並法事等ニ關シテハ左ノ事項ヲ確守スルコト

イ、葬具ハナルベク節約ヲ守リ質素ニスルコト

ロ、一家ヨリ數人來會スルモ賄ハ一人分ツヽトシ其ノ費用ハ分限ニ應ジ節約シ左ノ制限ヲ超ヘザルコト

	一人分賄費
一ケ年所得額	
壹萬圓以上	玄米一 斗
一萬圓以下	〃 八 升
五千圓以下	〃 六 升
參千圓以下	〃 五 升
千 圓以下	〃 四 升
五百圓以下	〃 三 升

ハ、死亡ノ爲知ハ親族及特別ノ緣故者ニ止メ贈リ膳ハ一切廢止スルコト

御布施ノ標準一等參圓以上二等貳圓以上參等壹圓以下

ニ、夜食餅及茶ノ子餅等ハ全廢スルコト

ホ、葬祭初七日念佛、法事共一切酒ヲ用ヰザルコト

以　上

第十二欵　村民ノ氣風及慣習

第一章　氣風

一、生活ガ規律的ニシテ節度アル点ハ濶大粗放ノ農村ニハ稀ニ見ル所ナリ之ル稻作ノ單一農業ニシテ然モ一戸平均ノ耕作面積大ナルタメ古來ソノ年中行事季節行事一日ノ仕事配分等殆ント型ノ如ク而モ極メテ合法化サレ且ツ確實ニ嚴守スベキ必然性ヨリ來リタルモノナリ。

子供ノ勞働等殆ト顧ラレズ之レ前述ノ條件ニヨリ定不定ノ子供ノ勞力等ニ依リ依存スル時ハ家業遂行ニ支障多キヲ以テ最初ヨリ之ヲ顧ミザル程ニ合理化セラレタルモノナリ、男女各一人前ノ仕事分量等モ大体定マレリ之ガタメ仕事ニ怠慢ナルモノ或ハ法外ノ勤勉ナル者等ハ稀ナリ

二、傳統的精神強ク自尊心高ク嚴然トシテ物ニ動ゼズ時流ニ動カサレヌ所アリ從ヒテ稍保守的ニシテ自我強ク情熱的ナラズ爭鬪的ナラズ

三、社會的秩序機構嚴然ト強固ニシテ附和雷同ノ余地ナク相誡メテ輕擧ヲ謹シミ勢ヲ驅リテ事ヲ擧グルヨリモ實力ヲ以テ持久善戰スルノ風アリ

四、積極的ニ隣保協力スル等ノ風少キモ己ヲ持スルコト謙虚、全体統制共同ノ理想ニ向ヒテ力ヲ致

ショク強力ナル建設的事業ニ成功スル特色ヲ有ス

從ツテ公共事業協同事業ニハ進ンデ寄附ヲナシ其ノ額ノ多キコト實ニ稀ナリトス

五、粗野ノ風ナク容儀身嗜端正清楚趣味高尙ニシテ或ハ飲酒シテ放歌高吟シ或ハ多數相集リ談論風發悲憤慷慨スル等ノ喧騷活氣等ナシ所謂安價ナル質實剛健ノ風ナシ、之レ前揭ノ條件ニ加ヘテ教育教養ノ高キ所ニ依ルモノナリ

六、理財ノ念ヨリ發達シ蓄財ノ念強キモ守錢的ノ風ナク鷹揚ナル所アルモヨク經濟界ノ變動ニ順應ス

七、敎育尊重ノ念慮深ク働ケバ之レ足リ富メバ即チ滿足スト云フ如キ野人的風ナキ所ハ極メテ特色アル所トイフベシ從ツテ單ニ村事業トシテ壯麗ナル學校ヲ有スト云フニ非ズ內容ノ充實ト成績ノ良否等ハ最大關心事ナルノミナラズ他家庭敎育ニツキテモ一般深甚ノ考慮ヲ拂ヒ居ルノ長所アリ、卒業生ノ二割以上モ中等學校ニ入リ入營兵ノ成績群ヲ拔キ合種團体ノ活動穩健中正ナル如キハ皆一般敎育程度ノ高キ賜ナリ

第二章　慣習

一、古來ノ傳統的慣習行事等ハ漸次廢レタルハ何處モ同樣ナルガ世界大戰後急激ナル變化ヲ來シ由緒アル農家行事等ハ字野中ヲ除キ其ノ多クハ實施スル所少ナク其ノ他一般慣習皆現代化セラレ趣味娛樂モ悉ク變化セルノ趣アリ、冠婚葬祭亦特異ナル所ヲ認メズ更ニ經濟方面ヲ觀ルモ小作慣行ニ於テ或ハ交換法ニ於テ何等ノ特色ナク寧ロ最モ早ク現代經濟機構ニ順應セルノ点ヲ以テ

近接町村ト異ナルヲ見ル

第十三欵　村振興計畫

第一章　村是ノ確立

立村ノ精神ハ既ニ明白ニシテ立村以來現今ニ至ルマデ五十年之ヲ實現シツヽアルモ時勢ノ進運ニ伴ヒ現代化シ之ヲ村民ニ示シ村民ト共ニ其ノ實現ヲ圖ラザルベカラザルヲ感ジ左ノ如ク制定セリ

一、尊皇ノ大義ヲ明カニシテ敬神崇祖ノ美風ヲ作ルコト

二、立村ノ精神ニ則リ協同輯睦村民一体トナリ共存共榮ノ實ヲアグルコト

三、教育ノ振張普及ヲ圖リ教化ノ實績ヲアグルコト

四、進ンデ勞役ニ就キ產業ノ振興ヲ圖ルコト

五、冗費ヲ省キ財力ヲ善用シ質素節約ノ美風ヲ作ルコト

六、納稅義務ノ重大責務ナルコトヲ自覺シ納稅成績ノ完全ヲ期スルコト

七、衛生保健ニ留意シ惡疫ノ絶滅ヲ期スルコト

以　上

第二章　經濟更生計畫ノ樹立

現下我國ノ農村ハ經濟的ニ行詰リヲ來シ本村ハ村長立村ノ精神ニ則リ指導經營ヲナセルモ其ノ大勢ニ抗スル能ハズ且大正九年ノ大凶作ニ遭遇シ多大ノ損害ヲ受ケタルヲ以テ根本的ノ更生策ヲ講ゼザルベカラザルニ本縣亦此ニ見ルトコロアリ今茲昭和十一年七月ヲ以テ縣ノ指示ニヨリ直ニ振興委員會ヲ組織シ又調査員ヲモ囑託シ村民一致協力其ノ基本的調査ヲ爲シ愼重審議ノ上經濟更生ノ計畫ヲ樹立セリ爾今縣ノ適正ナル指導ノ下ニ村民擧テ不屈不撓ノ意氣ヲ以テ本計畫ノ遂行ヲ圖ラントス昭和十二年三月三日委員會ヲ招集シ本村振興計畫項目ヲ左ノ如ク決定シ之ニ據リ邁進セントス

榮村振興計畫項目

第一　精神更生ニ關スル事項

（一）精神更生

1　村振興委員會

2　全村學校

3　部落常會

（二）學校教育

（三）各種團体

婦人會

男女青年團

第二　協同組織ノ整備擴充ニ關スル事項

（一）部落振興委員會

（二）伍十人組ノ組織

第三　農業要素整備ニ關スル事項

（一）土地

1　用排水路ノ改修

2　土性調査

3　耕作道ノ整備

第四　農業經營組織ノ改善ニ關スル事項

（一）農業簿記ノ奬勵

（二）自給肥料ノ增産

堆肥

綠肥

（三）家畜ノ飼育

鷄、豚、兎

（四）副業ノ奬勵

農產物ノ加工

（五）桑園整理改植

（六）畑作奬勵

1　砂丘地畑作改善

2　果樹栽培

3　蔬菜栽培

（七）宅地ノ利用

果樹其ノ他栽培

第五　生產方法改善ニ關スル事項

（一）產米改良增殖

1　良種ノ普及並統制

2　苗代改良

3　金肥ノ合理的配合施用

4　病虫害ノ驅除豫防

（二）養蠶經營ノ改善

1　優良品種ノ普及

2　飼育ノ改善

第六　經濟金融並ニ販賣購買ニ關スル事項
（一）産業資金ノ貯金奬勵
1　販賣購買ノ合理化
2　産業組合ノ設立
（二）金融ノ改善
1　負債ノ整理
第七　生活改善ニ關スル事項
（一）記帳生活ノ普及
（二）分度生活ノ確立
（三）生活様式ノ改善
（四）消費經濟ノ改善
（五）社交儀禮ノ改善
第八　社會施設ニ關スル事項
（一）衛生保健施設
（二）警備施設
（三）表彰施設
（四）娯樂慰安施設

以上

第三章　負債整理組合ノ設立

本村經濟更生計劃基本調査ノ結果借入金ヨリ貸金少ナク多大ノ負債ナルヲ以テ本組合設立ノ進行中ニ屬ス

第十四款　社寺宗教

第一章　社寺宗教ニ關スル施設

齋藤村長ハ敬神崇祖ノ念厚ク榮村大字播磨鎭座村社々殿明治三十年十月火災ニ罹リ假社殿建設ノ處狹隘ノタメ金參千圓ヲ投ジ擴張改築ニ着手シ大正三年八月完成セリ尙基本金貳千參百圓ヲ造成シ以テ指定神社ニ請願シ昭和四年十月廿九日ヲ以テ昇格セラレタリ昭和六年ニハ境内ノ擴張ヲ圖リ同八年ニハ參道九尺ヲ二間ニ擴張セリ其ノ工費ハ齋藤金吾自ラ出資セリ其ノ他鶴岡市鎭座縣社莊内神社及酒田市鎭座鄕社光丘神社等ニ寄附ハ勿論崇敬人總代若ハ世話人トシテ施設經營ニ多年干與シ來レリ。

昭和十二年六月二十五日本村大字湯野澤鎭座村社皇大神社ヲ神饌幣帛料供進神社ニ指定出願ノ末仝年八月九日付山形縣告示第六一五號ヲ以テ指定セラレタリ仝神社社殿ハ本殿銅板葺二坪幣殿瓦葺三坪拜殿草葺二十一坪三合余基本財産トシテ田壹町貳反貳畝拾歩基金四百貳拾圓アリ境内五百三坪ニシテ祭

神天照大御神ナリ
又神社境内及墳墓地ヲ村民及小學校兒童ヲシテ常ニ掃除セシメ敬神崇祖ノ念ヲ涵養セリ

第十五欵　財政

第一章　納稅

第一節　諸稅及負擔

本村造成當時ノ土地面積及納租額並村費及負擔ト現今ノ分トヲ揭ゲ財政狀態ヲ示ス

明治二十二年末土地並納租額

地目	種別	本田	小京田	播磨	中京田	平田	湯野澤	計	納租額
田	反別	九八五、六一八反歩	六一三、〇二九	一五一五、一二六	八二五、八一五	六八三、五〇六	七八三、四二五	五四〇六、七二五	五、円 一一七・七九八
	地價	三四、六一八・一五〇円	二一、五三四・二三四	五八、六一九・二三〇	三一、九四一・五八〇	二七、〇五九・六一〇	三〇、九二一・二七〇	二〇四、六九四・〇七〇	
畑	反別	八三、五一七	七、六一一	二〇、二二九	八、九〇八	三一、六一三	一六六、二一三	三一八、三〇一	一四八・七二九
	地價	一、五四六・四一八	一四一・二二五	三七六・六六二	一六四・二五四	五八一・四九八	三、一三八・四二九	五、九四八・四八六	
宅地	反別	三二、〇一二	一一、一〇一	六七、一一七	二六、五一五	三〇、六〇一	三八、三一七	二〇五、八〇三	一一九・七二六
	地價	七四五・四〇二	二五八・二九七	一、五六二・三五九	六一七・六九九	七一一・九六九	八九二・三三三	四、七八八・〇五九	
山林	反別					、〇一六		、〇一六	・〇〇四
	地價					・一六〇		・一六〇	
原野	反別	五二、四〇八		五、七〇九	二一、九〇六	一九、〇〇四	三七、六二四	一三六、七二一	八・八五九
	地價	一六六・一四七		一八・九四四	二六・五九九	三一・〇四八	一一一・三九四	三五四・一三二	
雜種地	反別	、一一九		、二〇〇	、〇一八	、二一〇	、〇一〇	、六二七	・〇〇三
	地價	・〇四〇		・〇五〇	・〇一〇	・〇五〇	・〇〇九	・一五九	
計	反別	一一五三、六二五	六三一、八一一	一六〇八、三二一	八八三、二一四	七六四、八一〇	一〇二五、七一九	六〇六七、七一〇	五、三九五・一一九
	地價	三七、〇七六・一一七	二一、九三三・七五二	六〇、五七七・一九五	三二、七五〇・一三二	二八、三八四・二八五	三五、〇六三・四二六	二一五、七八四・九〇七	

昭和十一年末土地並納租額

地目	種別	本田	小京田	播磨	中京田	平田	湯野澤	計	納租額
田	反別	一〇二四、八二二反歩	六一八、六二二	一五一六、〇一八	八四二、四一八	七〇四、〇二七	八〇七、六一三	五五一三、八〇三	六、九〇四・二二
	賃貸價格	三〇、七五六・八〇円	一九、六七三・二四	五〇、一〇九・八八	二八、二二九・〇一	二五、三七六・六六	二七、五四四・五七	一八一、六九〇・一六	

	畑		山林		原野		雜種地		計	
	反別	賃貸價格	反別	賃貸價格	反別	賃貸價格	反別	賃貸價格	反別	賃貸價格
	六一、二二八	八六一・五三	、二〇三	・二〇	四三、四二一	三八・一九	、一一九	・〇五	一一六七、〇一六	三二、九九〇・二九
	五、九〇三	七六・七七			一、二〇六	一・六八			六四〇、二〇七	二〇、一八四・二五
	二一、七一三	三三一・三一			二、〇二〇	二・八三	、七二五	・二五	一六一四、六二三	五三、〇一八・一一
	一一、〇一六	一五四・六七			六、四〇三	四・一三	、〇一八	・〇二	八九三、〇〇七	二九、五七六・三六
	二二、三二八	二八九・七七	、〇一六	・〇四	一四、一〇七	二三・六〇	、二一〇	・〇七	七七六三、〇九	二六、九六五・八四
	一五三、八二五	二、一四二・六四			三二、三〇〇	九一・九九	、一一〇	・〇四	一〇四一、三〇六	三一、四八四・一七
	二七六、二二三	三、八五六・六八	、二一八	・二四	九九、五二七	一六二・四二	一、三三三	・四三	六一三二、六〇八	一九四、二一九・〇二
	一四六・五五		・〇一		六・一七		・〇一		七、三八〇・三〇	

備考

納租額ニ於テ新村造成當時ニ比シ壹千九百八拾五圓余ノ増トナレリ

面積ニ於テ六町四反八畝歩余ノ増ニシテ宅地ニアリテハ壹萬六百五十七坪ノ増加トナレリ

明治二十二年度村費負擔調

區分	村費		播磨學校費		湯野澤學校費		郡全村費		計	
	賦課額	課率	賦課額	課率	賦課額	課率	賦課額	課率	賦課額	課率
地價割	七七〇・六三三円	地租壹圓當 一四二厘八五七					一九七・八九〇	〃 三三厘五	九六八・五二三円	〃 一六四厘九
戶數割	一三七・八〇〇円	一戸當 ・六〇〇厘	一二八・六四〇	〃 ・七五〇			四二・六〇〇	〃 ・二〇〇	二九九・〇四〇	〃 一・四〇〇厘
授業料			五三・四一〇		六〇・一一〇				一一三・五二〇	
其他	一〇・二二〇		九〇・九二九		八五・四七〇				一八六・六二三	
計	九〇八・六五三円		二七二・九七九		一四五・五八四		二四〇・四九〇		一、五六七・七〇六	

備考

町村制實施ノ明治廿二年度ハ一周年間ニ渉ラザルヲ以テ次年度決算額ト現今ノ昭和十年度決算額トヲ掲ケ對照セリ明治二十三年度當時ハ學校費ハ村費ト同一編成ニアラサルヲ以テ特ニ計上ス西田川郡聯合全村費ハ本村ノ負擔額ヲ計上ス

昭和十一年度村費負擔調

區分	村税 地税附加税	村税 特別地税附加税	村税 特別税戸數割	村税 縣税家屋税附加税	村税 營業税雜税其他	村税 計	其他收入	計
村費 賦課額	六、〇〇七・二五〇	六〇・六二〇	四、九七二・〇八〇	四三五・四三〇	一、九一九・七七〇	一三、三九五・一五〇	九、三二三・八一〇	二三、七一七・九六〇
村費 課率	地租壹圓當・八三一厘	本税百分ノ三、一ノ百分ノ八十	一戸平均二〇円・七一三	本税壹圓當・五〇〇				
計	六、〇〇七・二五〇	六〇・六二〇	四、九七二・〇八〇	四三五・四三〇	一、九一九・七七〇	一三、三九五・一五〇	九、三二三・八一〇	二三、七一七・九六〇

明治二十二年度水利費負擔調

區分	地價割	反別割	其他	計
青龍寺川水利土功費 賦課額	一九四・四一一円			一九四・四一一
青龍寺川水利土功費 課率	地租壹圓當・〇四〇			
赤川水利土功費 賦課額	二二五・一〇八			二二五・一〇八
計	四一九・五一九			四一九・五一九

昭和十一年度水利費負擔調

區分	地價割	特別地税割	反別割	計
青龍寺川普通水利組合費 賦課額	九八四・八一	一〇・七九	九七三・八六	一、九六九・四六
青龍寺川普通水利組合費 課率	地租壹圓當・一四四	本税百分ノ三、一ノ百分ノ一七、六五	一反歩當・〇一六	
赤川普通水利組合費 賦課額			五、一五九・三八	五、一五九・三八
赤川普通水利組合費 課率			全關係一反歩當・八二八	
赤川普通水利組合費			五分關係一反歩當・四一四	
計	九八四・八一	一〇・七八	六、一三三・二四	七、一二八・八四

第二節　納税狀態

齋藤村長ハ本村創立ノ責任者ニシテ就職當時ヨリ納税ノ完納ヲ期シ先ヅ納税思想ノ涵養ニツトメタルガ特ニ施設等ヲ設クルコトナク未納者即チ未納セザルベカラザル貧困者及ビ怠納者生ジタル時ハ先ヅ怠納者ニツキテハ納税義務ノ國家及ビ村ニ對スル關係ニツキ淳々トシテ其ノ說得ヲナシ未納者ニ對シテハ一時立替ヲナスノミナラズ其ノ家族ノ生活ヲ指導シ其ノ完納ヲ圖リシヲ以テ現今ニアリテハ納税ノ主旨普ク村民ニ徹底シ村民ハ完納スルコトヲ以テ當然ノコト、ナシ更ニ奬勵等ヲ加フル必要ナキ現狀ナリ立村以來四十九年間國税ハ勿論縣税村税其ノ他水利組合費等ニ至ルマデ盡ク完納シテ遺ルトコロナシ

第三節　完納表彰

前節ニ於テ叙述セシ如ク國稅ハ勿論縣稅及村稅水利組合費等ニ至ルマデ本村創朔以來悉ク完納セシヲ以テ國縣稅ニ就テハ毎回其ノ表彰ヲ受ケタリ昭和九年九月十三日榮小學校ニ於テ納稅四十五年間完納祝賀會ヲ擧行セリ其ノ席上ニ於テ仙臺稅務監督局長ヨリ租稅四十五年間完納ノ表彰セラレ鶴岡稅務署長ヨリハ縣稅四十四年間完納ノ表彰アリ當日臨席ノ石原山形縣知事ハ口ヲ極メテ村長ノ德ヲ讃ヘ納稅ハ勿論學校モ道路モ立派ニ水道亦地方ニ冠タリトテ賞讃セラレタリ當日來賓ノ重ナルモノハ石原本縣知事、元尾仙臺監督局長及木幡本縣土木課長吉松商工水產課長淺沼文書課長、沼田鶴岡稅務署長吉村鶴岡警察署長、熊田鶴岡市長、長坂鶴岡財務出張所長等其ノ他村內名譽職一般村民等凡ソ五百名之ニ參列シ地方稀ニ見ル盛儀ナリ今納稅ニ關スル實態ヲ縷陳センヨリ表彰狀（卷頭ニ揭グ）並ニ祝詞ノ二三ヲ錄シ之ニ換ユト云爾

祝辭

本日茲ニ西田川郡榮村諸稅完納四十五年表彰式ヲ擧行セラルニ當リ祝意ヲ表スルノ機會ヲ得タルハ洵ニ欣快トスル所ナリ

惟フニ租稅ハ國家公共團體活動ノ原動力ニシテ納稅成績ノ良否如何ハ國家本來ノ目的達成上至大ノ關係ヲ有シ特ニ近時非常時局ニ當リ國家公共ノ健全ナル發達ヲ期センガ爲ニハ愈納稅成績ノ優秀ナルヲ要スト謂ハザルベカラス茲ニ當村當局カ夙ニ租稅道德ノ昂上ト納稅思想ノ涵養トニ努メ諸稅完納ノ美

績ヲ擧ケラルヽコト四十有五年ノ久シキニ及ビ東北六縣中第一位ノ好成績ヲ擧揚セラレツヽアルハ廣ク他ノ模範トスルニ足リ邦家ノ爲メ洵ニ慶賀ニ堪ヘザル處ナルト共ニ之レ偏ニ當村當局ノ絕大ナル努力ト納稅者各位ノ自覺至誠ノ賜ナリト謂フヘク深ク敬意ヲ表スル處ナリ希クハ爾今益々協力一致此ノ美風ヲ永遠ニ保持シ以テ國家公共ノタメ一層貢獻セラレンコトヲ一言所懷ヲ叙ヘテ祝辭トス

昭和八年九月十三日

仙臺稅務監督局長正五位勳四等　元尾光輝

祝辭

嘉穀穰々瑞雲靄靄タリ此ノ日西田川郡榮村々民一般ニ對シ諸稅完納表彰式ヲ擧行セラレ、洵ニ天下ノ美談ト謂フベシ夫レ納稅ハ立憲治下ノ民トシテ固ニ義務ノ最タルモノナルニ拘ラズ延滯ノ惡習容易ニ除ク能ハズ到ル所自治体ノ痼疾トシテ爲政者ヲ惱マシ施政ノ遂行ヲ妨グルコト尠カラズ然ルニ本村ガ挺然時弊ヲ脫シテ町村制施行以來四十五年ノ久シキ完納ノ美績ヲ擧ゲラレタルハ健美ニ堪エザルナリ蓋シ本村ハ米作本位ノ純農村ニシテ戶口多カラズト雖民風淳撲勤儉產ヲ治メ富力充實シ義務奉仕ノ精神旺盛ニ齋藤村長四十余年ノ治績ト相俟ッテ村治圓滿民心一和曾テ政爭ノ累ヲ受ケス住民福利增進ノ施設著々實現シ共存共榮眞ニ榮村ノ名ニ負カス所謂一村一德和合欣々東北唯一ノ平和鄕ヲ鍛成セルモノニシテ仰テ以テ町村自治ノ範トナスニ足ル

今ヤ我國非常ノ時艱ニ遭遇シ農村經濟困難特ニ深刻ナルモノアリ國ヲ擧ケ力ヲ盡シテ之ガ對策ヲ講スルニ維レ日モ足ラザルノ時本村ガ此ノ重大問題ニ就テモ更生ノ好模範ヲ示シテ一世ヲ指導セラレンコ

トヲ望ム

我ガ鶴岡市ハ近ク本村ト接壤シ利害休戚ノ關係緊切ナルモノアリ不肖今日席末ニ陪スルヲ得市民ヲ代表シテ謹テ祝賀ノ意ヲ表シ併セテ本村々治ノ益々發展シテ一層村民ノ福祉增進ニ資スルアランコトヲ祈ル

昭和八年九月十三日　　鶴岡市長正七位　熊田周八

第二章　基本財産

財政ノ安固ヲ圖リ民力ノ涵養即チ村民ノ福利ヲ增進スルハ立村當時ノ精神ナルヲ以テ齋藤村長就職スルヤ直ニ其ノ根本策トシテ基本財産造成ヲ企テ明治二十六年十月七日（村長就職仝年六月）村基本財産蓄積並管理規定ヲ定メ明治四十一年十二月七日ニハ小學校基本財産蓄積並管理規程ヲ定メ其ノ後蓄積條例並管理規程ニ改メ基本財産ヲ造成シ以テ今日ニ至レリ以下各節ニ叙述ス

第一節　村基本財産

基本財産ノ蓄積

齋藤村長ハ榮村創立早々村治ノ圓滿村民ノ福利增進ヲ期スルニハ村基本財産ヲ造成シ村財政ノ緩和ヲ圖ルノ緊要ナルニ着眼シ綱領トシテ左記五項目ヲ提ケ村民ヲ迎ヘタリ

（イ）自主獨行ノ樹立

（ロ）村内政黨政派ノ存在絶對的否認

（ハ）公共的負擔ハ有產階級ニ於テ主トシテ出資スルコト

（ニ）共存共榮ノ大精神ヲ徹底セシムルコト

（ホ）用ヲ節シ冗ヲ省キ苟クモ奢侈ニ陷ラザルコト

本綱領ニ基キ齋藤金吉ハ明治二十六年村長ニ就職スルヤ直チニ仝年六月榮村基本財産蓄積規程ヲ設定シ其額拾萬圓ニ達スルヲ目標トシ

（イ）毎年度村歳計剩餘金ノ二分ノ一ヲ蓄積スルコト

（ロ）村内有產階級ヨリノ指定寄附金ヲ申受クルコトト定メ明治二十六年七月五日ヨリ左記ノ通リ之ヲ實施セリ

イ　ノ　部

金貳拾七圓

金拾貳圓

金貳拾壹圓

金參拾九圓

金四拾壹圓

金參拾圓

金六拾圓

明治卅二年ヨリ仝卅五年度マデ四ケ年間村經濟ノ都合ニヨリ中止

明治二十五年度村歳入出殘金ノ半額積立

仝　二十六年度　仝　上

仝　二十七年度　仝　上

仝　二十八年度　仝　上

仝　二十九年度　仝　上

仝　三十年度　仝　上

明治三十一年度　村歳入出殘額ノ半額積立

金七拾五圓
金百五拾圓
金百七拾圓
金貳百拾五圓
金七拾九圓
金百　六圓
金百八拾四圓五拾錢
金百參拾圓

明治四十四、五年度ハ未曾有ノ大凶作ニ付中止ス

金七拾五圓
金參百八拾九圓
金貳百八拾貳圓六錢
金貳百六拾五圓
金壹百四拾九圓
金貳百八拾八圓
金參百貳拾壹圓六拾六錢

明治三十六年度村歳入出殘金ノ半額積立

仝　三十七年度　仝　上
仝　三十八年度　仝　上
仝　三十九年度　仝　上
仝　四十　年度　仝　上
仝　四十一年度　仝　上
仝　四十二年度　仝　上
仝　四十三年度　仝　上
大正　二年度　仝　上
大正　三年度　仝　上
仝　四　年度　仝　上
仝　五　年度　仝　上
仝　六　年度　仝　上
仝　七　年度　仝　上

（大正十年度一時運用金八千五百七拾七圓七拾八錢ノ利子）

金九百貳拾參圓
金七百拾四圓
金壹千六百八拾貳圓
金六百五拾圓
金五百四拾壹圓
金壹千八拾九圓
金壹千九拾四圓
金四百四拾六圓
計金壹萬壹千百八拾參圓貳拾貳錢

大正十年度村費歳入出殘額積立

仝　十一年度　仝　上
仝　十二年度　仝　上
仝　十三年度　仝　上
仝　十四年度　仝　上
仝　十五年度　仝　上
昭和二年度　仝　上
仝　三年度　仝　上

ロ　ノ　部

大正六年偶加茂町ニ於テ高館山背面山麓五拾五町歩余ノ官有地ノ拂下ヲ一般民ニ競賣スルノ告示アルヤ齋藤村長之ヲ機トシ以テ之ヲ競落シ村有財産トシテ造林シ又ハ堆肥ノ原料若ハ秣場トシテ牛馬ノ飼料ニ供給セント企テ之ヲ村民ニ謀リタルモ村民肯ゼズ、故ニ仝村長ハ寧ロ金員ヲ醵出シ積ミ立スルノ安全ナルコトヲ示シタルニ村民ハ齋藤村長ノ指示ヲ應諾シタリ、然ルニ加茂町ヨリ懇望アルニ因リ村長ハ金貳千五拾圓ヲ以テ該山林ヲ自ラ買得シ榮村ニ於テ仝目的額ニ達スル迄年々金壹千圓ツヽ、大正六年度ヨリ昭和四年度迄積立ヲナシタリ

本項申合セニ依ル大正六年度前半期分ノ積立
金五百圓拾五錢

金五百圓拾五錢　大正六年度右同上造成金後半期分積立
金九百九拾九圓六拾八錢　大正七年度右仝上造成金積立
金九百九拾九圓六錢壹錢　大正八年度仝　上
金壹千參圓五拾八錢　大正九年度仝　上
金壹千圓參拾貳錢　仝　十年度仝　上
金壹千貳圓四拾四錢　仝　十一年度仝　上
金壹千圓九拾錢　仝　十二年度仝　上
金壹千貳圓五拾錢　仝　十三年度仝　上
金壹千圓參拾八錢　仝　十四年度仝　上
金壹千壹圓參拾八錢　仝　十五年度仝　上
金壹千五圓參拾錢　昭和二年度仝　上
金壹千六圓四拾錢　昭和三年度仝　上
金壹千六圓九拾錢　仝　四年度仝　上
計金壹万參千貳拾九圓六拾九錢

其　ノ　二

金貳百壹圓六拾錢

大正元年十二月廿五日大字本田、小京田、播磨、平田、中京田、湯野澤、六部落ノ有志者ヨリ寄附

附言本寄附申出ノ原因ハ明治四十四年庄内地方一般的ニハ稻熱病ニ罹リ其ノ中榮村ハ被害殊ノ外甚シカリシ故ヲ以テ齋藤村長ハ深ク之ヲ憂ヒ所轄稅務署ニ陳情シ掛官ノ實地踏査ヲ仰ギ四十四年ニ屬スル地租延納許可アリタル處恰モ大正元年度ノ帝國議會ニ於テ天災地變ノ外更ニ病蟲害ニヨル田畑作物ノ被害ニ關シテモ地租延納又ハ免稅ノ恩典ニ與カルコト、ナリタル結果榮村延納ニ關ル四十四年度分田地租金六千余圓ハ悉ク免租ノ特典ニ浴シタリ隣接各町村モ本村ト稍同樣ノ被害ヲ蒙リタル處勘カラザリシモ躊躇遷延請願期ヲ逸シタルヲ以テ惠澤ニ浴スル能ハザリシニ獨リ本村ノミ其ノ恩典ニ與カリシハ全ク齋藤村長ノ挺身機敏ノ處置ナリシコトニ感激シ村民ハ其ノ前記金額ノ半額ヲ醵出シタルモノニシテ齋藤村長ノ功績偉大ナルモノアリ

金貳百圓　大正二年七月十六日　居村加藤三右衛門氏寄附
金　拾　圓　大正三年四月六日　鶴岡市佐藤善藏氏寄附
金六百圓　仝　八年八月十五日　齋藤金吾氏ヨリ還曆記念寄附
金貳百貳拾圓　仝　八年八月廿二日　居村小南末吉氏寄附
金參拾圓　昭和四年十二月廿五日　元榮村書記佐藤義春氏死亡ニ付香奠返禮トシテ寄附

計金壹千貳百六拾壹圓六拾錢
合計金貳萬五千四百七拾四圓五拾壹錢
右ノ內土地其ノ他ニ組換目下正金トシテ金貳萬貳千六百貳拾貳圓五厘外土地貳町貳畝貳拾貳

歩ヲ有シ小作米八石貳斗五升ヲ納入スルニ至レリ尚利殖ノ方法ヲ講ジツヽ其ノ金額等左ノ如シ

昭和十二年十二月末日現在

一金貳萬參百參拾參圓參拾錢五厘

内

金七千九百圓　村基本金

金壹万貳千四百參拾參圓參拾錢　土木事業費等ノ爲一時村費ニ繰入

金五厘　銀行預金

外　現金

田貳町貳畝貳拾貳歩

此作徳米拾八石貳斗五升

此拂込金壹千五百圓

此拂込金六百貳拾五圓

以上

一、東北振興電力株式六拾株

一、東北振興興業株式五拾株

第二節　小學校基本財産

本小學校基本財産ハ有志ノ寄附ヲ勸奬シ明治二十五年一月七日初メテ基本金ヲ造成シ亦小學校費ノ剰余金ヲ村會ノ議決ニヨリ蓄積セリ本村五十嵐彌市郎ヨリ父七十七歳ノ喜壽並ニ父母七十歳以上ニ達シ金婚式記念トシテ公債証書額面壹千圓ノ寄附アリ（後ニ金圓ニ換フ）齋藤村長自身ニ於テモ寄附シ須田治兵衛ヨリハ金貳百圓小學校卒業生ヨリモ寄附アリ基金ニ積立テ利殖ノ方法ヲ講ゼリ其ノ他須田治兵衛小南善右衛門ヨリ農業實習用地トシテ田壹反六畝拾歩ヲ寄附セラレタリ現在財産左ノ如シ

昭和十一年十二月末日現在

一金壹萬壹千八百拾壹圓四拾六錢六厘

内

金八千七百九拾六圓八拾六錢　小學校基本金

金六厘　銀行預金

金參千拾四圓六拾錢　現金

村費ヘ繰入金

土地ノ部

所在	地目	反	別	用途	摘要
榮村大字播磨字若松百十四番	田	壹反六畝拾歩外畦畔壹畝拾八歩		小學校農業實習用地	昭和二年一月五日須田治兵衛小南善右衛門ヨリ寄附

第十五款　各種團体

第一章　團体ノ狀勢

第一節　戸主會

大正十三年十二月三日戸主會創立委員會ヲ開キ仝月九日榮小學校ニ於テ發會式ヲ擧行シ會則ヲ協定スル等大ニ村治ノ發展ヲ圖リ民人ノ禮祉ヲ增進スルコトヲ目的トセリ、而シテ五年以上勤續セル僕婢ヲ毎年表彰シ主從忠勤愛撫ノ至誠涵養ニ努メタリ、會長ハ村長齋藤金吾ニシテ組織以來本總會ニ於テ協定セル事項左ノ如クニシテ目的ノ達成ニ努力シツヽアリ

記

敎化部

一、集會約束ノ時間ヲ恪守スルコト

二、本村内ノ女子修養團体ヲ設立スルコト

經濟部

一、御成婚記念トシテ貯金規定ニヨリ各自應分ノ貯金ヲナスコト

二、軍人入退營及三山、鳥海山、伊勢、古峯ケ原等下向ノ際土產物仝廢ノコト但前記ノ場合個人餞

別仝廢ノコト

但シ軍人入營ノ場合大字ヨリ餞別ヲナスコト

又ハ講員關係ノ祈禱札ノ配付ハ此ノ限リニ在ラズ

三、大字仝般ニ關スル普請ノ外部的普請ニハ集會飲酒セザルコト

四、婚禮ニ關シテハ左ノ事項ヲ確守スルコト

イ、娶婿ノ衣裳ハナルベク質素ヲ旨トシ當時必要ナル品ニ止メ徒ニ華美並數量ノ多キヲ誇ラザルコト

ロ、婚禮ニ際シ賄ハ親族一戸ニ付一人賄ニシ其費用ハ双方分限ニ應ジ節約シ左ノ制限ヲ超ヘザルコト

一ケ年所得額	一人分賄費	簞笥	夜具
壹萬圓以上	玄米二斗五升	三	二
壹萬圓以下	仝　二斗	二	二
五千圓以下	仝　一斗五升	二	二
參千圓以下	仝　一斗	二	一
千　圓以下	仝　七升	一	一
五百圓以下	仝　五升		

ハ、從來ノ關係等ニ係ラズ招待者ハ親族並特別緣故者ニ止ムルコト

ニ、從來ノ村稅及御茶振舞等ハ一切廢止スルコト

五、葬祭並法事等ニ關シテハ左ノ事項ヲ確守スルコト

イ、葬具ハナルベク節約ヲ守リ質素ニスルコト

ロ、一家ヨリ數人來會スルモ其ノ賄ハ一人分ツヽトス其ノ費用ハ分限ニ應ジ節約シ左ノ制限ヲ超ヘザルコト

一ケ年所得額	一人分賄費
壹萬圓以上	玄米一斗
壹萬圓以下	仝八升
五千圓以下	仝六升
參千圓以下	仝五升
千圓以下	仝四升
五百圓以下	仝三升

ハ、死亡ノ知ラセハ親族及特別緣故者ニ止メ贈リ膳等ハ一切之ヲ廢止スルコト

御布施　一等　金參圓以上

三等　金壹圓以下

ニ、夜食餅及茶ノ子餅等ハ之ヲ全廢スルコト

葬祭初七日念佛、法事共一切酒ヲ用キサルコト

六、防急貧並家庭改善奬勵規定ヲ設定スルコト

七、前項ノ奬勵金ハ一人ニ對シ金貳拾圓位ノコト

保健部

一、病家ヲ見舞フ際ミダリニ患者ノ室ニ出入セザルコト

二、下水汚水ヲ衛生上有害ナラザル様適當ノ處置ヲナシ之ヲ利用スルコト

庶務部

一、道標ハ降雪前約五間位ツヽヲ隔テ、竹木其ノ他適當ノ物ヲ立ツルコト

二、吹雪山ハ各支部（各大字）ニ於テ通行困難ト認メタル場合ハ適宜之ヲ排雪シ公衆ノ便ヲ計ルコト

三、冬期間堆肥ヲ田ニ運搬堆積スルトキハ路傍ヨリ五間以上ヲ離スコト

四、春期ニ至リ吹雪ナシト認メタルトキハ各支部同日ニ吹雪山ヲ掘リ割リ公衆ノ便ヲ圖ルコト

五、村民ノ天災地變ニ逢ヒタルモノニ對シ村民ヨリ義捐金ヲ贈ルコト

但シ金額ハ任意的トス一週間內ニ各分會長之ヲ取マトメ戶主會長之ヲ罹災者ニ交付スルコト

六、村道兩側ノ草ハ通行妨害ニナラザル様數次刈取ルコト

七、道路ノ排水ヲ能クスルコト

八、年ニ一回必ズ小路拂ヒヲナスコト

九、建築物ハ法令ニ違反セザル様建築スルコト

一〇、既設建築物ニシテ危險及妨害アリト認メラルヽ物ハ充分ノ豫防設備ヲナスコト

第二節　帝國在鄉軍人榮村分會

本分會ハ明治四十三年十一月三日ノ創立ニシテ事務所ハ榮村役場内ニ置キ山形支部ノ監督下ニアリ本會ハ專ラ在鄉軍人ノ品位ヲ高メ國民ノ軍事思想ヲ啓發シ兼ネテ軍人勅諭ノ精神ヲ奉体シ國民ノ儀表タランコトヲ期セリ

其ノ擧行事業ノ主ナルモノハ武術練習、仝競技會、射撃會、軍事講演、壯丁並ニ補充兵ノ準備敎育、簡閲点呼豫習、入退營者歡送迎、出征並ニ軍人遺族慰安戰死病沒者追悼、青年學校援助、銃後援助、防空後援、總會事業等ニシテ會員現在將校七名下士七名兵三十四名補充兵五十一名アリテ分會ヲ六班ニ分テリ而シテ會員一致協力、成績優良ノ廉ヲ以テ昭和九年十一月三日山形縣支部ヨリ仝十年四月廿九日帝國軍人會ヨリ表彰セラレタリ現在基金參千參百ヲ有セリ

第三節　榮村敎育會

本村敎育ノ發展並ニ就學ノ普及ニハ常ニ公私協力スルニアラザレバ良策ヲ期シガタシトナシ西田川郡私立敎育會トモ聯繫シ村長ハ明治三十二年一月西田川郡敎育會第二支部會長ニ擧ゲラレ盡力シ來レリ仝人ハ切リニ榮村敎育會ノ設立ヲ主唱シ來リ明治四十四年三月偶々郡ヨリ敎育會準則ノ發布アリタルヲ以テ村長ハ直ニ區長學務委員等ヲ會シ設立ノ議ヲ進メ仝年五月四日小學校ニ於テ發會式ヲ擧行セリ當日ノ參集者九十余名ニシテ齋藤村長座長ニ推薦セラレ會則等ヲ決定シ會長ニハ五十嵐彌市郎副會長

ニハ小南末吉幹事ニハ須田幸久、山内鎭平、山岸直士評議員二十名ヲ選定シ後村長ノ祝辭アリテ仝ク式ヲ了ヘ本會ノ組織ヲ見ルニ至レリ爾來本村敎育事業ノ改良進歩發展ニ資スル處アリ會員的百廿名ヲ下ラズ昭和二年二月ニハ基本金積立ノ協議會ヲ開キ之ガ計劃ヲ進メ基本金千八百七拾圓ヲ算スルニ至レリ、其後役員ノ異動等アリ現今ハ會長ニハ須田治兵衛ナリ。

第四節　榮村青年團

本村青年團ハ明治四十四年四月九日村長齋藤金吾ノ創立スル處タリ其目的ハ主トシテ地方青年ノ智德ノ修養、風俗ノ矯正、產業ノ進歩改善ヲ圖ルニアリ

爾來團員ノ一致協力ニヨリ遂年進歩發展ヲ來タセシガ大正七年四月縣訓令ニ基キ規約ノ變更ヲナシ其後二回一部ノ改正ヲナシタリ而シテ團長一名副團長二名幹事六名評議員二十四名顧問九名最近團員二百二十五名內少年組百三十七名青年組八十八名ニシテ最高年齡二十五歲最低十四歲ナリ其ノ擧行事業ノ概要ハ智德修養方面ニアリテハ講演、講習會、團員辨論會、雜誌購讀、見學旅行、農業指導、体育娛樂ニハ聯合運動會、農繁休旅行、競技、柔道、余興等產業及經濟事項ニハ試作田、農產藁工品品評會、團員貯金、馬耕競犁會後援、公益事業トシテハ道標設置、夜警番、道路普請雪中風除場設置祭典風紀取締、重要事項揭示等ナリ大正六年ニハ推サレテ齋藤金吾、團長トナリ、又基本財產ノ造成ニ意ヲ用キ自ラモ多少ノ寄附ヲナシ勸誘ノ結果現在金六百五拾六圓ヲ有セリ　團員大ニ道路ノ愛護ニ努メ又雪中ニハ吹山ヲ除雪シ交通ノ便ヲ圖レリ、昭和十年ニハ道路ヲ山形縣共進會ニ出品シ一等賞ヲ得昭和十一年ニハ優等賞昭和十二年ニモ賞ヲ授與セラレタリ

第五節　榮村女子會

本會ハ大正十五年二月十一日ノ組織ニシテ其目的ハ本村女子ヲシテ智德ヲ涵養シ身体ヲ鍛練シ健全ナル國民善良ナル主婦タルノ素養ヲ深カラシムルニアリ其ノ機構タルヤ、會長一名副會長一名評議員八名幹事九名顧問若干名ニシテ最近會員八十七名最高年齡二十六歳最低十四歳ナリ其擧行事業ノ重ナルモノハ智德家事產業方面ニアリテハ知名ノ士ヲ招聘シ講話會等ヲ催フシ女子智德ノ增進及品性ノ修養裁縫、禮式、割烹、家事、技藝練習ヲナサシメ圖書新聞雜誌、娛樂用ノ器具ヲ備ヘ付ケ會員ノ修養研鑽娛樂ノ便ニ供ス、亦技藝產業展覽品評會ヲ開催ス矯風体育ニ關シテハ地方風俗ノ改善、公德心ノ涵養ニ努メ公共事業ヲ幇助シ又軍人遺族廢兵並入營ノ家族慰問救護ヲナス、尙會員相互ノ慰籍奬勵ニ力ムルコトトセリ會長ニハ小學校長ヲ充テツヽアリ

第六節　赤十字社榮村分區

本村ハ明治二十九年一月十一日榮村分會創立セラレタルガ當時ハ會員數僅々十二名ノ通常會員ナリシ處齋藤分區長ハ分區ノ擴張ニ努メ明治四十年ニ至リ通常社員七十三名昭和十年ニハ有功社員二名終身正社員七十三名特別社員十九名正社員十名計壹百四名トナリ、基本金亦壹百九拾余圓ヲ算スルニ至ル斯クテ齋藤金吾ハ赤十字社多年ノ功勞ニ依リ昭和九年有功章ヲ授與セラレタリ

第七節　愛國婦人會榮村分會

本村ハ明治三十四年愛國婦人會ノ誕生スルヤ同時ニ之ニ入會シタル者其ノ數三十二名ナリシガ爾來婦

人會ノ任務ニ重要性ヲ來タシ昭和七年ニ至リ市町村分會設置セラレ村長夫人會長トナリ終始一貫會員ノ募集ニ勉メ戰沒者ノ慰靈祭、又ハ遺族ノ慰安會等ヲ催フスノ外乳幼兒ノ愛護週間、產婦保護、學童保護、缺食兒ノ補食、兒童榮養改善等ノ斡旋ヲナシ來レリ

且又當村分會ハ每年春一回小學校々庭ニ於テ總會ヲ開キ又ハ座談會等ヲ開キ會員ノ親睦ヲ厚フシ共存共榮ノ途ヲ啓キ會員ニ不幸者アル場合ハ之ヲ慰籍シ且之ヲ弔フヲ常トセリ

或ハ守備遠征ノ兵士ニ慰問品ヲ送リ其ノ勞苦ヲ慰ムル等其ノ活動成績顯著ナリトシテ大正十三年二月十九日規定ノ彰功旗ヲ授與サル昭和十年畏クモ總裁宮殿下ヨリ規定ノ竿頭章ヲ賜リタリ、當時會員壹百參拾七名ニシテ內特別會員四名有功章會員八名通常會員參拾貳名終身會員參拾貳名ニ達シタリ尙昭和十二年ニハ九十二名ノ入會アリ現在貳百貳拾九名ナリ本會維持基金トシテ蓄積シタル金額亦百五拾余圓ニ達セリ齋藤金吾ハ顧問トシテ盡瘁シツヽアリ。

第八節　國防婦人會榮村分會

本村ニ於テハ日本婦德ヲ基調トシ家庭ヲ整ヘ世ノ惡風並不良思想ニ染マス婦人トシテノ護國ノ大義ヲ實踐シ國防上銃後ノ務ヲ全フセンカ爲昭和十二年十月二十五日大日本國防婦人會榮村分會ヲ設置セリ會員ハ二百二十余名ニシテ擧行事業ノ重ナルモノハ左ノ如シ

一、家庭敎育ノ本義ニ立チ心身共ニ健全ニ子女ヲ養育シ皇國ノ御用ニ立テシムルコト

一、兵役ニ服スル夫子兄弟ヲシテ精神的並物質的ニ後顧ノ憂ナク國防ノ第一線ニ立チ得ル樣家事ヲ整ヘシムルコト

附錄

一、一旦緩急ノ場合ニ際シ慌テ迷フコトナクヨク善處シウル精神的敎養並訓練ヲ遂ケシムルコト

一、勤儉貯蓄ヨク家計ヲ整ヘ非常時ノ長期ニ亘ルコトアルモ苟モ家庭臺所ヨリ悲鳴ヲ擧クルカ如キコトナカラシムルコト

一、皇軍將兵ニ對シ婦人トシテ後援ノ誠ヲイタシコト

一、傷痍軍人及其ノ家族戰病死者遺族竝皇軍將兵ノ家族ニ對シ母性愛ノ心ヲ以テ慰恤スルコト

一、其ノ他國防思想ノ涵養等本會ノ目的ニ適合スル事業

會員ハ年會費拾錢ヲ醵出シ其ノ他村費ノ補助寄付金ヲ以テ經營セリ創立日未タ淺キヲ以テ講演會及出征軍人ノ歡送迎並慰問品ヲ贈リタルノミ尚今後前記事業ノ執行ニ邁進スル次第ナリ

附錄目次

一、歷代村長ノ部……頁一
二、村吏員ノ部……二
（一）助役
（二）收入役
（三）書記
三、區長及代理者ノ部……六
（一）區長
（二）區長代理者
四、村會議員ノ部……一五
五、常設委員ノ部……二五
（一）土木委員
（二）學務委員
（三）自作農創設維持資金貸付審查委員

六、小學校長ノ部……三二
七、農業補習學校長ノ部……三四
八、青年訓練所主事ノ部……三六
九、青年學校長ノ部……三六
一〇、消防組頭ノ部……三七
一一、村醫ノ部……三七
一二、トラホーム豫防醫ノ部……三七
一三、小學校醫ノ部……三八
一四、青年學校醫ノ部……三八
一五、本村民人ノ建設シタル齋藤金吾氏ノ頌德碑……四一
一六、地方人士ノ樹立シタル本村長タリシ齋藤金吾翁ノ銅像……四三
一七、本村人故工藤掃部青龍寺川疏水事蹟……四四
以上

一 歷代村長ノ部

就職年月日	退職其他	事由	名譽ノ有給ノ別	位勳	氏名
明治二十二年六月十九日	明治二十六年六月十六日	滿期	名譽職		工藤掃部
仝　二十六年六月十六日	仝　三十年六月十五日	仝	仝		齋藤金吾
仝　三十年六月十六日	仝　三十年十二月十一日	死亡	仝		工藤掃部
仝　三十一年二月一日	仝　三十五年一月卅一日	滿期	仝		齋藤金吾
仝　三十五年二月一日	仝　三十六年七月二十日	退職	仝		仝
仝　三十六年十月十六日	仝　四十年十月十五日	滿期	仝	勳七等	仝
仝　四十年十月十六日	仝　四十四年十月十五日	仝	仝		仝
仝　四十四年十月廿四日	大正四年十月二十三日	仝	仝		仝
大正四年十月十七日	仝　六年十月十七日	退職	仝		仝
仝　六年十二月三日	仝　八年八月十五日	仝	仝		仝
仝　八年十一月二十一日	仝　十二年十一月二十日	滿期	仝		齋藤金吾
仝　十四年五月八日	昭和四年五月七日	仝	仝		須田治兵衛

昭和四年五月八日	仝八年五月七日	滿期	名譽職	勳四等	齋藤金吾
仝八年五月八日	仝十二年五月七日	仝	仝	仝	仝人
仝十二年五月三日選擧 仝年五月八日就職	仝十二年七月二十二日	退職	仝	仝	仝人

二 村吏員ノ部

(一) 助役

就職年月日	退職其他年月日	事由	名譽有給ノ別	氏名
明治廿二年六月十九日	明治廿六年六月十六日	滿期	名譽職	齋藤金吾
仝廿六年六月十八日	仝三十年六月十五日	仝	仝	工藤掃部
仝三十年六月十六日	仝卅四年六月十五日	仝	仝	加藤三右衛門
仝卅四年六月十九日	仝卅八年六月十八日	仝	仝	仝人
仝卅八年六月十九日	仝四十二年六月十八日	仝	仝	仝人
仝四十二年六月十九日	大正二年六月十八日	仝	仝	仝人
大正二年七月廿四日	仝六年七月廿三日	仝	仝	金子伸行
仝六年七月廿四日	仝十年七月廿三日	仝	仝	仝人
大正十年八月十九日	大正十四年八月十八日	滿期	名譽職	須田幸久
仝十四年八月廿六日	昭和四年八月廿五日	仝	仝	須田幸久
昭和四年八月三十日	仝八年八月廿九日	仝	仝	工藤掃部
昭和十一年四月二十日			有給	土門文吉

(二) 收入役

就職年月日	退職其他年月日	事由	氏名
明治二十二年六月二十四日	明治二十六年六月二十三日	滿期	須田治郎右衛門
仝二十六年六月二十三日	仝二十八年三月二十八日	退職	仝人
仝二十八年四月四日	仝三十年六月十六日	仝	加藤三右衛門
仝三十年六月二十八日	仝三十四年六月二十七日	滿期	須田幸久
仝三十四年六月二十八日	仝三十八年六月二十七日	仝	仝人
仝三十八年六月二十八日	仝四十二年六月二十七日	仝	仝人
仝四十二年六月二十八日	大正二年六月二十七日	仝	仝人
大正二年六月二十八日	仝六年六月二十七日	仝	仝人

(三) 書記

就職年月日	退職其他年月日	事由	氏名
明治廿二年六月廿四日	明治廿八年四月三日	辭任	加藤三右衛門
仝 廿三年五月十八日	仝 廿四年五月廿六日	仝	長谷川信成
仝 廿四年十一月十日	仝 卅一年二月廿八日	仝	五十嵐慶一郎
仝 廿五年五月二日	仝 廿六年六月十日	仝	秋葉信成
大正十年六月二十七日	大正十年六月二十七日	滿期	須田幸久
仝 十年六月二十八日	仝 十一年一月一日	死亡	今野金八
仝 十一年一月十四日	仝 十一年四月二十五日	退職	五十嵐慶一郎
仝 十一年五月一日	仝 十二年八月三十日	仝	須田治兵衛
仝 十二年九月十三日	昭和二年十月十日	滿期	富樫重治
昭和二年十月十一日	仝 六年十月十日	仝	仝 人
仝 六年十月十一日	仝 十年十月十日	仝	須田喜一郎
仝 十年十月十一日			仝 人

明治廿八年四月四日	明治四十年四月四日	辭任	秋葉信成
仝 廿八年四月四日	仝 三十年六月廿七日	仝	須田幸久
仝 三十年七月一日	仝 卅三年十二月四日	仝	富樫壽秀
仝 三十一年四月二十二日	仝 三十二年五月三十一日	仝	工藤掃部
仝 三十三年五月十七日	仝 四十一年二月二十九日	仝	村田良平
仝 三十三年十二月十五日	大正五年四月二十日	仝	渡會幹貞
仝 三十七年二月十三日	明治三十九年三月二十六日	仝	加藤悅太郎
仝 四十年十一月十一日	仝 四十四年一月二十一日	仝	內田維孝
仝 四十一年六月一日	仝 四十四年八月二十日	仝	金子仲行
仝 四十四年二月一日	大正四年四月二十日	仝	菊地善作
仝 四十四年八月二十一日	明治四十五年五月七日	仝	服部正德
仝 四十五年五月七日	仝 四十五年六月卅日	仝	高橋勝久
大正元年七月三十日	大正二年七月二十四日	仝	金子仲行
仝 二年八月廿二日	仝 四年五月十五日	仝	菊地錠太郎
仝 四年四月十七日	仝 六年十一月三十日	仝	服部正厚

就職年月日	退職其他年月日	事由	氏名
大正四年五月十四日	昭和三年八月廿六日	死亡	佐藤義春
仝五年五月六日	大正九年四月廿二日	退任	樋越定見
仝七年一月十日	仝八年八月一日	仝	砂山勘次郎
仝八年八月十一日	昭和十年二月廿日	退任	難波勘右衛門
仝九年四月十六日	大正九年五月十八日	仝	五十嵐慶一郎
仝九年五月八日	仝十五年九月七日	仝	武藤信夫
昭和二年十二月十四日	昭和十二年一月十六日	仝	庄司三男治
仝六年四月一日	仝十年二月廿八日	仝	阿部長之助
仝十年三月一日	仝十年十一月十九日	仝	阿部信雄
仝十年六月一日			砂田金吉
仝十二年一月十六日			從七位勳八等 酒井啓太郎
仝十二年十月二十二日			從七位 今野金八
仝			五十嵐庫之助

三　區長及代理者ノ部

（一）區長

就職年月日	退職其他年月日	事由	區名	氏名
明治廿四年十二月廿五日	明治廿八年十二月十四日	滿期	播磨	渡部彌兵衛
仝 廿二年十二月十五日	仝 廿六年十二月十四日	仝	仝	仝 人
明治三十九年四月十七日	仝 四十年十二月十四日	仝	今野金八	
仝四十四年十二月十五日	大正二年九月廿二日	退職	—	
大正二年九月廿三日	仝 四年十二月十四日	滿期	今野金八	
仝 八年十二月十五日	仝 十一年一月一日	死亡	—	
仝 十一年二月廿七日	仝 十三年十二月十四日	滿期	仝	仝 人
仝 十四年五月二日	昭和二年十二月十三日	仝	今野林治	
昭和六年十二月十四日	仝 十年十二月十五日	仝	昭和十年十二月十四日	仝 人
明治廿四年十二月廿五日	明治廿八年十二月十四日	仝	本田	菅原五郎右衛門
仝 廿三年十二月十五日	仝 廿六年十二月十四日	仝	—	
仝 廿六年十二月十五日	仝 四十年十二月十四日	仝	—	

明治四十年十二月十五日	明治四十四年十二月十四日	滿期	—	—	本田 菅原五郎右衛門
仝四十四年十二月十五日	大正四年十二月十四日	仝	大正四年十二月十五日	大正八年十二月十四日	滿期 仝 難波勘右衛門
大正八年十二月十五日	仝十二年十二月十四日	仝	—	—	仝 仝 人
大正十二年十二月十四日	昭和二年十二月十三日	仝	—	—	仝 工藤掃部
昭和二年十二月十四日	仝六年十二月十三日	仝	昭和六年十二月十四日	昭和十年十二月十三日	滿期 仝 小南熊治郎
仝十年十二月十四日	仝十二年八月三日	退職			仝 小南甚左衛門
昭和十三年二月廿五日					仝 菅原五郎右衛門
明治廿四年十二月廿五日	明治廿八年十二月廿四日	滿期	明治廿八年十二月廿五日	明治廿九年七月二日	退職 小京田 小南善右衛門
仝廿九年七月三日	仝卅二年十二月十四日	仝	明治卅二年十二月十五日	仝卅六年十二月十四日	滿期 仝 五十嵐安吉
仝卅六年十二月十五日	仝四十年十二月十四日	仝	仝四十年十二月十五日	仝四十四年十二月十四日	仝 仝 人
仝四十四年十二月十五日	大正四年十二月十四日	仝	大正四年十二月十五日	大正八年十二月十五日	仝 仝 人
大正八年十二月十五日	仝十二年十二月十四日	仝	仝十二年十二月十四日	昭和二年十二月十三日	仝 仝 人
昭和二年十二月十四日	昭和六年十二月十三日	仝	—	—	仝 仝 人
仝六年十二月十四日	仝十年十二月十三日	仝	昭和十年十二月十四日		仝 小南善治
明治廿四年十二月廿五日	明治廿八年十二月十四日	仝	明治廿八年十二月十五日	明治廿九年七月二日	退職 平田 五十嵐勇七

仝廿九年七月三日	仝卅二年十二月十四日	仝	—	—	平田 渡部助左衛門
仝卅二年十二月十五日	仝卅六年十二月十四日	仝	—	—	仝 五十嵐慶一郎
仝卅六年十二月十五日	仝四十年十二月十四日	仝	明治四十年十二月十五日	明治四十四年十二月十四日	滿期 仝 五十嵐民治郎
仝四十四年十二月十五日	大正四年十二月十四日	仝	大正四年十二月十五日	大正八年十二月十四日	仝 仝 五十嵐常太郎
大正八年十二月十五日	大正九年二月十八日	死亡	—	—	仝 五十嵐民治郎
仝十一年二月廿七日	仝十二年十二月十四日	滿期	大正十三年十二月十五日	大正十四年二月廿四日	退職 仝 五十嵐常太郎
仝十四年二月廿六日	昭和二年十二月十三日	仝	昭和二年十二月十四日	昭和六年十二月十三日	滿期 仝 五十嵐彌助
昭和六年十二月十四日	昭和十一年三月廿五日	死亡	—	—	仝 五十嵐彌五兵衛
仝十一年四月二十日	仝十二年十月二十二日	退職			仝 五十嵐庫之助
仝十三年二月廿五日					仝 正八位 五十嵐悅郎
明治廿四年十二月廿五日	明治廿七年五月廿二日	退職	—	—	中京田 佐藤佐左衛門
仝廿八年四月四日	仝卅二年十二月十四日	滿期	明治卅二年十二月十五日	明治卅六年十一月一日	退職 仝 須田治郎右衛門
仝卅六年十二月十五日	仝四十年十二月十四日	仝	仝四十年十二月十五日	仝四十三年六月三十日	仝 仝 須田治兵衛
仝四十三年七月一日	仝四十四年十二月十四日	仝	—	—	仝 須田茂延
仝四十四年十二月十五日	大正四年十二月十四日	仝	大正四年十二月十五日	大正八年十二月十四日	滿期 仝 須田治右衛門

(二) 區長代理者

就職年月日	退職其他年月日	事由	區名	氏名
大正八年十二月十五日	大正十二年十二月十四日	滿期		
仝 十二年十二月十四日	昭和二年十二月十三日	仝	中京田	須田治右衛門
昭和六年十二月十四日	昭和十年十二月十三日	仝		
仝 十年十二月十四日				
明治廿四年十二月廿五日	明治廿八年十二月十四日	仝	湯野澤	藤野末吉
仝 卅三年十二月十五日	仝 卅六年十二月十四日	仝		
仝 卅六年十二月十五日	仝 四十年十二月十四日	仝		
仝 四十四年十二月十五日	仝 四十五年二月二十日	退職		
仝 四十五年三月一日	大正四年十二月十四日	滿期		
大正四年十二月十五日	大正八年十月十七日	死亡		
仝 八年十二月十五日	仝 十三年十二月十四日	滿期		
昭和二年十二月十四日	昭和六年十二月十四日	仝		
仝 八年八月十四日	仝 十年十二月十三日	退職		
仝 十年十二月十四日	昭和十年十二月十四日	仝	須田安脩	
仝 十二年十二月十四日	昭和十二年十二月十三日	仝	須田金助	
仝 十三年十二月十五日	仝 十四年十二月十四日	仝		
仝 十四年十二月十五日	仝 十五年十二月十四日	仝		
仝 十五年十二月十六日	昭和十五年十二月十四日	仝		
仝 十五年十二月十七日	仝 十六年十二月十四日	仝		
仝 十六年十二月十五日	仝 十七年十二月十四日	仝		
仝 十七年十二月十五日	仝 十八年十二月十四日	仝		
仝 十八年十二月十六日	仝 十九年十二月十四日	仝		
仝 十九年十二月十六日	仝 二十年十二月十四日	仝		
仝 二十年十二月十六日	仝 二十一年十二月十四日	仝		
仝 二十一年十二月十六日	仝 二十二年十二月十四日	仝		
仝 二十二年十二月十六日	仝 二十三年十二月十四日	仝		
仝 二十三年十二月十六日	仝 二十四年十二月十四日	仝		
仝 二十四年十二月十六日	仝 二十五年十二月十四日	仝		
仝 二十五年十二月十六日	仝 二十六年十二月十四日	仝		
仝 二十六年十二月十六日	仝 二十七年十二月十四日	仝		
仝 二十七年十二月十六日	仝 二十八年十二月十四日	仝		
仝 二十八年十二月十六日	仝 二十九年十二月十四日	仝		
仝 二十九年十二月十六日	仝 三十年十二月十四日	仝		
仝 三十年十二月十六日	仝 三十一年十二月十四日	仝		
仝 三十一年十二月十六日	仝 三十二年十二月十四日	仝		
仝 三十二年十二月十六日	仝 三十三年十二月十四日	仝		
仝 三十三年十二月十六日	仝 三十四年十二月十四日	仝		
仝 三十四年十二月十六日	仝 三十五年十二月十四日	仝		
仝 三十五年十二月十六日	仝 三十六年十二月十四日	仝		
仝 三十六年十二月十六日	仝 三十七年十二月十四日	仝		
仝 三十七年十二月十六日	仝 三十八年十二月十四日	仝		
仝 三十八年十二月十六日	仝 三十九年十二月十四日	仝		
仝 三十九年十二月十六日	仝 四十年十二月十四日	仝		
仝 四十年十二月十六日	仝 四十一年十二月十四日	仝		
仝 四十一年十二月十六日	仝 四十二年十二月十四日	仝		
仝 四十二年十二月十六日	仝 四十三年十二月十四日	仝		
仝 四十三年十二月十六日	仝 四十四年十二月十四日	仝		
仝 四十四年十二月十六日	仝 四十五年十二月十四日	仝		
仝 四十五年十二月十六日	仝 四十六年十二月十四日	仝		
仝 四十六年十二月十六日	仝 四十七年十二月十四日	仝		
仝 四十七年十二月十六日	仝 四十八年十二月十四日	仝		
仝 四十八年十二月十六日	仝 四十九年十二月十四日	仝		
仝 四十九年十二月十六日	仝 五十年十二月十四日	仝		
仝 五十年十二月十六日	仝 五十一年十二月十四日	仝		
仝 五十一年十二月十六日	仝 五十二年十二月十四日	仝		
仝 五十二年十二月十六日	仝 五十三年十二月十四日	仝		
仝 五十三年十二月十六日	仝 五十四年十二月十四日	仝		
仝 五十四年十二月十六日	仝 五十五年十二月十四日	仝		
仝 五十五年十二月十六日	仝 五十六年十二月十四日	仝		
仝 五十六年十二月十六日	仝 五十七年十二月十四日	仝		
仝 五十七年十二月十六日	仝 五十八年十二月十四日	仝		
仝 五十八年十二月十六日	仝 五十九年十二月十四日	仝		
仝 五十九年十二月十六日	仝 六十年十二月十四日	仝		
仝 六十年十二月十六日	仝 六十一年十二月十四日	仝		
仝 六十一年十二月十六日	仝 六十二年十二月十四日	仝		
仝 六十二年十二月十六日	仝 六十三年十二月十四日	仝		
仝 六十三年十二月十六日	仝 六十四年十二月十四日	仝		
仝 六十四年十二月十六日	仝 六十五年十二月十四日	仝		
仝 六十五年十二月十六日	仝 六十六年十二月十四日	仝		
仝 六十六年十二月十六日	仝 六十七年十二月十四日	仝		
仝 六十七年十二月十六日	仝 六十八年十二月十四日	仝		
仝 六十八年十二月十六日	仝 六十九年十二月十四日	仝		
仝 六十九年十二月十六日	仝 七十年十二月十四日	仝		
仝 七十年十二月十六日	仝 七十一年十二月十四日	仝		
仝 七十一年十二月十六日	仝 七十二年十二月十四日	仝		
仝 七十二年十二月十六日	仝 七十三年十二月十四日	仝		
仝 七十三年十二月十六日	仝 七十四年十二月十四日	仝		
仝 七十四年十二月十六日	仝 七十五年十二月十四日	仝		
仝 七十五年十二月十六日	仝 七十六年十二月十四日	仝		
仝 七十六年十二月十六日	仝 七十七年十二月十四日	仝		
仝 七十七年十二月十六日	仝 七十八年十二月十四日	仝		
仝 七十八年十二月十六日	仝 七十九年十二月十四日	仝		
仝 七十九年十二月十六日	仝 八十年十二月十四日	仝		
仝 八十年十二月十六日	仝 八十一年十二月十四日	仝		
仝 八十一年十二月十六日	仝 八十二年十二月十四日	仝		
仝 八十二年十二月十六日	仝 八十三年十二月十四日	仝		
仝 八十三年十二月十六日	仝 八十四年十二月十四日	仝		
仝 八十四年十二月十六日	仝 八十五年十二月十四日	仝		
仝 八十五年十二月十六日	仝 八十六年十二月十四日	仝		
仝 八十六年十二月十六日	仝 八十七年十二月十四日	仝		
仝 八十七年十二月十六日	仝 八十八年十二月十四日	仝		
仝 八十八年十二月十六日	仝 八十九年十二月十四日	仝		
仝 八十九年十二月十六日	仝 九十年十二月十四日	仝		
仝 九十年十二月十六日	仝 九十一年十二月十四日	仝		
仝 九十一年十二月十六日	仝 九十二年十二月十四日	仝		
仝 九十二年十二月十六日	仝 九十三年十二月十四日	仝		
仝 九十三年十二月十六日	仝 九十四年十二月十四日	仝		
仝 九十四年十二月十六日	仝 九十五年十二月十四日	仝		
仝 九十五年十二月十六日	仝 九十六年十二月十四日	仝		
仝 九十六年十二月十六日	仝 九十七年十二月十四日	仝		
仝 九十七年十二月十六日	仝 九十八年十二月十四日	仝		
仝 九十八年十二月十六日	仝 九十九年十二月十四日	仝		
仝 九十九年十二月十六日	仝 百年十二月十四日	仝		
仝 百年十二月十六日	仝 百一年十二月十四日	仝		
仝 百一年十二月十六日	仝 百二年十二月十四日	仝		
仝 百二年十二月十六日	仝 百三年十二月十四日	仝		
仝 百三年十二月十六日	仝 百四年十二月十四日	仝		
仝 百四年十二月十六日	仝 百五年十二月十四日	仝		
仝 百五年十二月十六日	仝 百六年十二月十四日	仝		
仝 百六年十二月十六日	仝 百七年十二月十四日	仝		
仝 百七年十二月十六日	仝 百八年十二月十四日	仝		
仝 百八年十二月十六日	仝 百九年十二月十四日	仝		
仝 百九年十二月十六日	仝 百十年十二月十四日	仝		
仝 百十年十二月十六日	仝 百十一年十二月十四日	仝		
仝 百十一年十二月十六日	仝 百十二年十二月十四日	仝		
仝 百十二年十二月十六日	仝 百十三年十二月十四日	仝		
仝 百十三年十二月十六日	仝 百十四年十二月十四日	仝		
仝 百十四年十二月十六日	仝 百十五年十二月十四日	仝		
仝 百十五年十二月十六日	仝 百十六年十二月十四日	仝		
仝 百十六年十二月十六日	仝 百十七年十二月十四日	仝		
仝 百十七年十二月十六日	仝 百十八年十二月十四日	仝		
仝 百十八年十二月十六日	仝 百十九年十二月十四日	仝		
仝 百十九年十二月十六日	仝 百二十年十二月十四日	仝		
仝 百二十年十二月十六日	仝 百二十一年十二月十四日	仝		
仝 百二十一年十二月十六日	仝 百二十二年十二月十四日	仝		
仝 百二十二年十二月十六日	仝 百二十三年十二月十四日	仝		
仝 百二十三年十二月十六日	仝 百二十四年十二月十四日	仝		
仝 百二十四年十二月十六日	仝 百二十五年十二月十四日	仝		
仝 百二十五年十二月十六日	仝 百二十六年十二月十四日	仝		
仝 百二十六年十二月十六日	仝 百二十七年十二月十四日	仝		
仝 百二十七年十二月十六日	仝 百二十八年十二月十四日	仝		
仝 百二十八年十二月十六日	仝 百二十九年十二月十四日	仝		
仝 百二十九年十二月十六日	仝 百三十年十二月十四日	仝		
仝 百三十年十二月十六日	仝 百三十一年十二月十四日	仝		
仝 百三十一年十二月十六日	仝 百三十二年十二月十四日	仝		
仝 百三十二年十二月十六日	仝 百三十三年十二月十四日	仝		
仝 百三十三年十二月十六日	仝 百三十四年十二月十四日	仝		
仝 百三十四年十二月十六日	仝 百三十五年十二月十四日	仝		
仝 百三十五年十二月十六日	仝 百三十六年十二月十四日	仝		
仝 百三十六年十二月十六日	仝 百三十七年十二月十四日	仝		
仝 百三十七年十二月十六日	仝 百三十八年十二月十四日	仝		
仝 百三十八年十二月十六日	仝 百三十九年十二月十四日	仝		
仝 百三十九年十二月十六日	仝 百四十年十二月十四日	仝		
仝 百四十年十二月十六日	仝 百四十一年十二月十四日	仝		
仝 百四十一年十二月十六日	仝 百四十二年十二月十四日	仝		
仝 百四十二年十二月十六日	仝 百四十三年十二月十四日	仝		
仝 百四十三年十二月十六日	仝 百四十四年十二月十四日	仝		
仝 百四十四年十二月十六日	仝 百四十五年十二月十四日	仝		
仝 百四十五年十二月十六日	仝 百四十六年十二月十四日	仝		
仝 百四十六年十二月十六日	仝 百四十七年十二月十四日	仝		
仝 百四十七年十二月十六日	仝 百四十八年十二月十四日	仝		
仝 百四十八年十二月十六日	仝 百四十九年十二月十四日	仝		
仝 百四十九年十二月十六日	仝 百五十年十二月十四日	仝		
仝 百五十年十二月十六日	仝 百五十一年十二月十四日	仝		
仝 百五十一年十二月十六日	仝 百五十二年十二月十四日	仝		
仝 百五十二年十二月十六日	仝 百五十三年十二月十四日	仝		
仝 百五十三年十二月十六日	仝 百五十四年十二月十四日	仝		
仝 百五十四年十二月十六日	仝 百五十五年十二月十四日	仝		
仝 百五十五年十二月十六日	仝 百五十六年十二月十四日	仝		
仝 百五十六年十二月十六日	仝 百五十七年十二月十四日	仝		
仝 百五十七年十二月十六日	仝 百五十八年十二月十四日	仝		
仝 百五十八年十二月十六日	仝 百五十九年十二月十四日	仝		
仝 百五十九年十二月十六日	仝 百六十年十二月十四日	仝		
仝 百六十年十二月十六日	仝 百六十一年十二月十四日	仝		
仝 百六十一年十二月十六日	仝 百六十二年十二月十四日	仝		
仝 百六十二年十二月十六日	仝 百六十三年十二月十四日	仝		
仝 百六十三年十二月十六日	仝 百六十四年十二月十四日	仝		
仝 百六十四年十二月十六日	仝 百六十五年十二月十四日	仝		
仝 百六十五年十二月十六日	仝 百六十六年十二月十四日	仝		
仝 百六十六年十二月十六日	仝 百六十七年十二月十四日	仝		
仝 百六十七年十二月十六日	仝 百六十八年十二月十四日	仝		
仝 百六十八年十二月十六日	仝 百六十九年十二月十四日	仝		
仝 百六十九年十二月十六日	仝 百七十年十二月十四日	仝		
仝 百七十年十二月十六日	仝 百七十一年十二月十四日	仝		
仝 百七十一年十二月十六日	仝 百七十二年十二月十四日	仝		
仝 百七十二年十二月十六日	仝 百七十三年十二月十四日	仝		
仝 百七十三年十二月十六日	仝 百七十四年十二月十四日	仝		
仝 百七十四年十二月十六日	仝 百七十五年十二月十四日	仝		
仝 百七十五年十二月十六日	仝 百七十六年十二月十四日	仝		
仝 百七十六年十二月十六日	仝 百七十七年十二月十四日	仝		
仝 百七十七年十二月十六日	仝 百七十八年十二月十四日	仝		
仝 百七十八年十二月十六日	仝 百七十九年十二月十四日	仝		
仝 百七十九年十二月十六日	仝 百八十年十二月十四日	仝		
仝 百八十年十二月十六日	仝 百八十一年十二月十四日	仝		
仝 百八十一年十二月十六日	仝 百八十二年十二月十四日	仝		
仝 百八十二年十二月十六日	仝 百八十三年十二月十四日	仝		
仝 百八十三年十二月十六日	仝 百八十四年十二月十四日	仝		
仝 百八十四年十二月十六日	仝 百八十五年十二月十四日	仝		
仝 百八十五年十二月十六日	仝 百八十六年十二月十四日	仝		
仝 百八十六年十二月十六日	仝 百八十七年十二月十四日	仝		
仝 百八十七年十二月十六日	仝 百八十八年十二月十四日	仝		
仝 百八十八年十二月十六日	仝 百八十九年十二月十四日	仝		
仝 百八十九年十二月十六日	仝 百九十年十二月十四日	仝		
仝 百九十年十二月十六日	仝 百九十一年十二月十四日	仝		
仝 百九十一年十二月十六日	仝 百九十二年十二月十四日	仝		
仝 百九十二年十二月十六日	仝 百九十三年十二月十四日	仝		
仝 百九十三年十二月十六日	仝 百九十四年十二月十四日	仝		
仝 百九十四年十二月十六日	仝 百九十五年十二月十四日	仝		
仝 百九十五年十二月十六日	仝 百九十六年十二月十四日	仝		
仝 百九十六年十二月十六日	仝 百九十七年十二月十四日	仝		
仝 百九十七年十二月十六日	仝 百九十八年十二月十四日	仝		
仝 百九十八年十二月十六日	仝 百九十九年十二月十四日	仝		
仝 百九十九年十二月十六日	仝 二百年十二月十四日	仝		
仝 二百年十二月十六日	仝 二百一年十二月十四日	仝		
仝 二百一年十二月十六日	仝 二百二年十二月十四日	仝		
仝 二百二年十二月十六日	仝 二百三年十二月十四日	仝		
仝 二百三年十二月十六日	仝 二百四年十二月十四日	仝		
仝 二百四年十二月十六日	仝 二百五年十二月十四日	仝		
仝 二百五年十二月十六日	仝 二百六年十二月十四日	仝		
仝 二百六年十二月十六日	仝 二百七年十二月十四日	仝		
仝 二百七年十二月十六日	仝 二百八年十二月十四日	仝		
仝 二百八年十二月十六日	仝 二百九年十二月十四日	仝		
仝 二百九年十二月十六日	仝 二百十年十二月十四日	仝		
仝 二百十年十二月十六日	仝 二百十一年十二月十四日	仝		
仝 二百十一年十二月十六日	仝 二百十二年十二月十四日	仝		
仝 二百十二年十二月十六日	仝 二百十三年十二月十四日	仝		
仝 二百十三年十二月十六日	仝 二百十四年十二月十四日	仝		
仝 二百十四年十二月十六日	仝 二百十五年十二月十四日	仝		
仝 二百十五年十二月十六日	仝 二百十六年十二月十四日	仝		
仝 二百十六年十二月十六日	仝 二百十七年十二月十四日	仝		
仝 二百十七年十二月十六日	仝 二百十八年十二月十四日	仝		
仝 二百十八年十二月十六日	仝 二百十九年十二月十四日	仝		
仝 二百十九年十二月十六日	仝 二百二十年十二月十四日	仝		
仝 二百二十年十二月十六日	仝 二百二十一年十二月十四日	仝		
仝 二百二十一年十二月十六日	仝 二百二十二年十二月十四日	仝		
仝 二百二十二年十二月十六日	仝 二百二十三年十二月十四日	仝		
仝 二百二十三年十二月十六日	仝 二百二十四年十二月十四日	仝		
仝 二百二十四年十二月十六日	仝 二百二十五年十二月十四日	仝		
仝 二百二十五年十二月十六日	仝 二百二十六年十二月十四日	仝		
仝 二百二十六年十二月十六日	仝 二百二十七年十二月十四日	仝		
仝 二百二十七年十二月十六日	仝 二百二十八年十二月十四日	仝		
仝 二百二十八年十二月十六日	仝 二百二十九年十二月十四日	仝		
仝 二百二十九年十二月十六日	仝 二百三十年十二月十四日	仝		
仝 二百三十年十二月十六日	仝 二百三十一年十二月十四日	仝		
仝 二百三十一年十二月十六日	仝 二百三十二年十二月十四日	仝		
仝 二百三十二年十二月十六日	仝 二百三十三年十二月十四日	仝		
仝 二百三十三年十二月十六日	仝 二百三十四年十二月十四日	仝		
仝 二百三十四年十二月十六日	仝 二百三十五年十二月十四日	仝		
仝 二百三十五年十二月十六日	仝 二百三十六年十二月十四日	仝		
仝 二百三十六年十二月十六日	仝 二百三十七年十二月十四日	仝		
仝 二百三十七年十二月十六日	仝 二百三十八年十二月十四日	仝		
仝 二百三十八年十二月十六日	仝 二百三十九年十二月十四日	仝		
仝 二百三十九年十二月十六日	仝 二百四十年十二月十四日	仝		
仝 二百四十年十二月十六日	仝 二百四十一年十二月十四日	仝		
仝 二百四十一年十二月十六日	仝 二百四十二年十二月十四日	仝		
仝 二百四十二年十二月十六日	仝 二百四十三年十二月十四日	仝		
仝 二百四十三年十二月十六日	仝 二百四十四年十二月十四日	仝		
仝 二百四十四年十二月十六日	仝 二百四十五年十二月十四日	仝		
仝 二百四十五年十二月十六日	仝 二百四十六年十二月十四日	仝		
仝 二百四十六年十二月十六日	仝 二百四十七年十二月十四日	仝		
仝 二百四十七年十二月十六日	仝 二百四十八年十二月十四日	仝		
仝 二百四十八年十二月十六日	仝 二百四十九年十二月十四日	仝		
仝 二百四十九年十二月十六日	仝 二百五十年十二月十四日	仝		
仝 二百五十年十二月十六日	仝 二百五十一年十二月十四日	仝		
仝 二百五十一年十二月十六日	仝 二百五十二年十二月十四日	仝		
仝 二百五十二年十二月十六日	仝 二百五十三年十二月十四日	仝		
仝 二百五十三年十二月十六日	仝 二百五十四年十二月十四日	仝		
仝 二百五十四年十二月十六日	仝 二百五十五年十二月十四日	仝		
仝 二百五十五年十二月十六日	仝 二百五十六年十二月十四日	仝		
仝 二百五十六年十二月十六日	仝 二百五十七年十二月十四日	仝		
仝 二百五十七年十二月十六日	仝 二百五十八年十二月十四日	仝		
仝 二百五十八年十二月十六日	仝 二百五十九年十二月十四日	仝		
仝 二百五十九年十二月十六日	仝 二百六十年十二月十四日	仝		
仝 二百六十年十二月十六日	仝 二百六十一年十二月十四日	仝		
仝 二百六十一年十二月十六日	仝 二百六十二年十二月十四日	仝		
仝 二百六十二年十二月十六日	仝 二百六十三年十二月十四日	仝		
仝 二百六十三年十二月十六日	仝 二百六十四年十二月十四日	仝		
仝 二百六十四年十二月十六日	仝 二百六十五年十二月十四日	仝		
仝 二百六十五年十二月十六日	仝 二百六十六年十二月十四日	仝		
仝 二百六十六年十二月十六日	仝 二百六十七年十二月十四日	仝		
仝 二百六十七年十二月十六日	仝 二百六十八年十二月十四日	仝		
仝 二百六十八年十二月十六日	仝 二百六十九年十二月十四日	仝		
仝 二百六十九年十二月十六日	仝 二百七十年十二月十四日	仝		
仝 二百七十年十二月十六日	仝 二百七十一年十二月十四日	仝		
仝 二百七十一年十二月十六日	仝 二百七十二年十二月十四日	仝		
仝 二百七十二年十二月十六日	仝 二百七十三年十二月十四日	仝		
仝 二百七十三年十二月十六日	仝 二百七十四年十二月十四日	仝		
仝 二百七十四年十二月十六日	仝 二百七十五年十二月十四日	仝		
仝 二百七十五年十二月十六日	仝 二百七十六年十二月十四日	仝		
仝 二百七十六年十二月十六日	仝 二百七十七年十二月十四日	仝		
仝 二百七十七年十二月十六日	仝 二百七十八年十二月十四日	仝		
仝 二百七十八年十二月十六日	仝 二百七十九年十二月十四日	仝		
仝 二百七十九年十二月十六日	仝 二百八十年十二月十四日	仝		
仝 二百八十年十二月十六日	仝 二百八十一年十二月十四日	仝		
仝 二百八十一年十二月十六日	仝 二百八十二年十二月十四日	仝		
仝 二百八十二年十二月十六日	仝 二百八十三年十二月十四日	仝		
仝 二百八十三年十二月十六日	仝 二百八十四年十二月十四日	仝		
仝 二百八十四年十二月十六日	仝 二百八十五年十二月十四日	仝		
仝 二百八十五年十二月十六日	仝 二百八十六年十二月十四日	仝		
仝 二百八十六年十二月十六日	仝 二百八十七年十二月十四日	仝		
仝 二百八十七年十二月十六日	仝 二百八十八年十二月十四日	仝		
仝 二百八十八年十二月十六日	仝 二百八十九年十二月十四日	仝		
仝 二百八十九年十二月十六日	仝 二百九十年十二月十四日	仝		
仝 二百九十年十二月十六日	仝 二百九十一年十二月十四日	仝		
仝 二百九十一年十二月十六日	仝 二百九十二年十二月十四日	仝		
仝 二百九十二年十二月十六日	仝 二百九十三年十二月十四日	仝		
仝 二百九十三年十二月十六日	仝 二百九十四年十二月十四日	仝		
仝 二百九十四年十二月十六日	仝 二百九十五年十二月十四日	仝		
仝 二百九十五年十二月十六日	仝 二百九十六年十二月十四日	仝		
仝 二百九十六年十二月十六日	仝 二百九十七年十二月十四日	仝		
仝 二百九十七年十二月十六日	仝 二百九十八年十二月十四日	仝		
仝 二百九十八年十二月十六日	仝 二百九十九年十二月十四日	仝		
仝 二百九十九年十二月十六日	仝 三百年十二月十四日	仝		
仝 三百年十二月十六日	仝 三百一年十二月十四日	仝		
仝 三百一年十二月十六日	仝 三百二年十二月十四日	仝		
仝 三百二年十二月十六日	仝 三百三年十二月十四日	仝		
仝 三百三年十二月十六日	仝 三百四年十二月十四日	仝		
仝 三百四年十二月十六日	仝 三百五年十二月十四日	仝		
仝 三百五年十二月十六日	仝 三百六年十二月十四日	仝		
仝 三百六年十二月十六日	仝 三百七年十二月十四日	仝		
仝 三百七年十二月十六日	仝 三百八年十二月十四日	仝		
仝 三百八年十二月十六日	仝 三百九年十二月十四日	仝		
仝 三百九年十二月十六日	仝 三百十年十二月十四日	仝		
仝 三百十年十二月十六日	仝 三百十一年十二月十四日	仝		
仝 三百十一年十二月十六日	仝 三百十二年十二月十四日	仝		
仝 三百十二年十二月十六日	仝 三百十三年十二月十四日	仝		
仝 三百十三年十二月十六日	仝 三百十四年十二月十四日	仝		
仝 三百十四年十二月十六日	仝 三百十五年十二月十四日	仝		
仝 三百十五年十二月十六日	仝 三百十六年十二月十四日	仝		
仝 三百十六年十二月十六日	仝 三百十七年十二月十四日	仝		
仝 三百十七年十二月十六日	仝 三百十八年十二月十四日	仝		
仝 三百十八年十二月十六日	仝 三百十九年十二月十四日	仝		
仝 三百十九年十二月十六日	仝 三百二十年十二月十四日	仝		
仝 三百二十年十二月十六日	仝 三百二十一年十二月十四日	仝		
仝 三百二十一年十二月十六日	仝 三百二十二年十二月十四日	仝		
仝 三百二十二年十二月十六日	仝 三百二十三年十二月十四日	仝		
仝 三百二十三年十二月十六日	仝 三百二十四年十二月十四日	仝		
仝 三百二十四年十二月十六日	仝 三百二十五年十二月十四日	仝		
仝 三百二十五年十二月十六日	仝 三百二十六年十二月十四日	仝		
仝 三百二十六年十二月十六日	仝 三百二十七年十二月十四日	仝		
仝 三百二十七年十二月十六日	仝 三百二十八年十二月十四日	仝		
仝 三百二十八年十二月十六日	仝 三百二十九年十二月十四日	仝		
仝 三百二十九年十二月十六日	仝 三百三十年十二月十四日	仝		
仝 三百三十年十二月十六日	仝 三百三十一年十二月十四日	仝		
仝 三百三十一年十二月十六日	仝 三百三十二年十二月十四日	仝		
仝 三百三十二年十二月十六日	仝 三百三十三年十二月十四日	仝		
仝 三百三十三年十二月十六日	仝 三百三十四年十二月十四日	仝		
仝 三百三十四年十二月十六日	仝 三百三十五年十二月十四日	仝		
仝 三百三十五年十二月十六日	仝 三百三十六年十二月十四日	仝		
仝 三百三十六年十二月十六日	仝 三百三十七年十二月十四日	仝		
仝 三百三十七年十二月十六日	仝 三百三十八年十二月十四日	仝		
仝 三百三十八年十二月十六日	仝 三百三十九年十二月十四日	仝		
仝 三百三十九年十二月十六日	仝 三百四十年十二月十四日	仝		
仝 三百四十年十二月十六日	仝 三百四十一年十二月十四日	仝		
仝 三百四十一年十二月十六日	仝 三百四十二年十二月十四日	仝		
仝 三百四十二年十二月十六日	仝 三百四十三年十二月十四日	仝		
仝 三百四十三年十二月十六日	仝 三百四十四年十二月十四日	仝		
仝 三百四十四年十二月十六日	仝 三百四十五年十二月十四日	仝		
仝 三百四十五年十二月十六日	仝 三百四十六年十二月十四日	仝		
仝 三百四十六年十二月十六日	仝 三百四十七年十二月十四日	仝		
仝 三百四十七年十二月十六日	仝 三百四十八年十二月十四日	仝		
仝 三百四十八年十二月十六日	仝 三百四十九年十二月十四日	仝		
仝 三百四十九年十二月十六日	仝 三百五十年十二月十四日	仝		
仝 三百五十年十二月十六日	仝 三百五十一年十二月十四日	仝		
仝 三百五十一年十二月十六日	仝 三百五十二年十二月十四日	仝		
仝 三百五十二年十二月十六日	仝 三百五十三年十二月十四日	仝		
仝 三百五十三年十二月十六日	仝 三百五十四年十二月十四日	仝		
仝 三百五十四年十二月十六日	仝 三百五十五年十二月十四日	仝		
仝 三百五十五年十二月十六日	仝 三百五十六年十二月十四日	仝		
仝 三百五十六年十二月十六日	仝 三百五十七年十二月十四日	仝		
仝 三百五十七年十二月十六日	仝 三百五十八年十二月十四日	仝		
仝 三百五十八年十二月十六日	仝 三百五十九年十二月十四日	仝		
仝 三百五十九年十二月十六日	仝 三百六十年十二月十四日	仝		
仝 三百六十年十二月十六日	仝 三百六十一年十二月十四日	仝		
仝 三百六十一年十二月十六日	仝 三百六十二年十二月十四日	仝		
仝 三百六十二年十二月十六日	仝 三百六十三年十二月十四日	仝		
仝 三百六十三年十二月十六日	仝 三百六十四年十二月十四日	仝		
仝 三百六十四年十二月十六日	仝 三百六十五年十二月十四日	仝		
仝 三百六十五年十二月十六日	仝 三百六十六年十二月十四日	仝		
仝 三百六十六年十二月十六日	仝 三百六十七年十二月十四日	仝		
仝 三百六十七年十二月十六日	仝 三百六十八年十二月十四日	仝		
仝 三百六十八年十二月十六日	仝 三百六十九年十二月十四日	仝		
仝 三百六十九年十二月十六日	仝 三百七十年十二月十四日	仝		
仝 三百七十年十二月十六日

明治四十四年十二月十五日	大正四年十二月十四日	滿期	大正四年十二月十四日	本田	菅原宇之吉	
大正八年十二月十五日	仝	仝 十二年十二月十四日	仝	仝	菅原宇之吉	
昭和二年十二月十四日	昭和六年十二月十三日	仝	—		仝	菅原金七
仝 六年十二月十四日	仝	仝 十年十二月十三日	仝		—	仝 菅原宇之吉
仝 十年十二月十四日	仝	仝 十三年二月廿五日	退職			仝 菅原五郎右衛門
仝 十三年二月廿九日						仝 工藤名兵衛
明治廿四年十二月廿五日	明治廿八年十二月十四日	滿期	明治廿九年六月一日	小京田	小南丹藏	仝 小南民五郎
仝 廿三年十二月十五日	仝	仝 廿六年十二月十四日	仝	—		仝 小南甚太郎
仝 廿七年二月十五日	仝	仝 四十年十二月十四日	仝			仝 小南甚太郎
仝四十四年十二月十五日	大正二年十一月廿三日	死亡	—			仝 小南甚太郎
大正四年十二月十五日	仝 八年十二月十四日	滿期	—			仝 五十嵐清三郎
仝 八年十二月十五日	仝	仝 十三年十二月十四日	仝			仝 小南丹藏
昭和二年十二月十四日	昭和六年十二月十三日	仝	仝 十年十二月十四日			仝 小南彌五郎
昭和十年十二月十四日						仝 小南甚太郎
明治廿四年十二月廿五日	明治廿八年十二月十四日	滿期	明治廿九年七月三日	平田		仝 五十嵐賢治郎

明治廿二年十二月十五日	明治廿六年十二月十四日	仝	—			仝 渡部助左衛門
仝 廿六年十二月十五日	仝 四十年十二月十四日	仝	明治四十年十二月十五日		—	仝 鈴木安藏
仝四十四年十二月十五日	大正四年十二月十四日	仝	—			仝 五十嵐慶一郎
大正四年十二月十五日	仝 八年十二月十四日	仝	—			仝 五十嵐民治郎
仝 八年十二月十五日	仝 十一年二月廿五日	退職	—			仝 五十嵐常太郎
仝 十一年二月廿七日	仝 十三年十二月十四日	滿期	大正十二年十二月十四日		—	仝 五十嵐彌五兵衛
昭和二年二月廿六日	昭和三年十月十四日	死亡	—			仝 五十嵐松太郎
仝 六年十二月十四日	昭和十一年四月廿一日	區長ニ上任	—			仝 五十嵐庫之助
仝 十一年四月廿日	仝 十三年二月廿五日	仝				仝 正八位五十嵐悅郎
仝 十三年二月廿五日						仝 五十嵐勇太郎
仝 廿二年十二月十五日	仝 廿六年十二月十四日	仝	—			仝 須田茂延
仝 廿六年十二月十五日	仝 四十年十二月十四日	仝				仝 須田卯治郎
仝四十四年十二月十五日	大正四年十二月十四日	仝				仝 石井安吉
大正八年八月一日	仝 八年十二月十四日	仝				仝 須田金助

大正十二年十二月十四日	昭和二年十二月十三日	仝	昭和二年十二月十四日	昭和六年十二月十三日	滿期
昭和六年十二月十四日	昭和十年十二月十三日	仝	—	—	仝
仝 十年十二月十四日					
明治廿四年十二月廿五日	明治廿八年十二月十四日	滿期	明治廿八年十二月十五日	明治廿二年十二月十四日	滿期
仝 卅二年十二月十五日	仝 卅五年三月卅一日	退職	—	—	仝
仝 卅五年四月一日	仝 卅六年十二月十四日	滿期	明治廿六年十二月十五日	明治四十年十二月十四日	滿期
仝 四十年十二月十五日	仝 四十四年十二月十四日	仝	仝 四十四年十二月十五日	仝 四十五年二月廿九日	退職
仝 四十五年三月一日	大正四年八月三十日	死亡	—	—	仝
大正四年十二月十五日	大正八年十二月十四日	滿期	大正八年十二月十五日	大正十二年七月廿日	死亡
仝 十二年十二月十四日	昭和二年十二月十三日	仝	—	—	仝
昭和二年十二月十四日	仝 五年四月廿九日	死亡	—	—	仝
仝 六年十二月十四日	仝 八年八月十三日	退職	—	—	仝
仝 八年八月十四日	仝 十年十二月十三日	仝	昭和十年十二月十四日		

昭和二年十二月十四日	昭和六年十二月十三日	滿期	中京田	須田喜一郎	上
昭和十年十二月十三日	仝	—	仝	須田重治郎	上
			仝	須田謙治	上
明治廿八年十二月十五日	明治廿二年十二月十四日	滿期	湯野澤	大川貞吉	上
仝	—	—	仝	上野政治	上
明治四十年十二月十四日	仝	滿期	仝	藤野藤吉	上
仝 四十四年十二月十五日	仝 四十五年二月廿九日	退職	仝	藤野藤吉	上
大正八年十二月十五日	大正十二年七月廿日	死亡	仝	佐藤幸太	上
仝	—	—	仝	阿部瀧治	上
仝	—	—	仝	阿部慶之助	上
仝	—	—	仝	佐藤多助	上
仝			仝	上野仁助	上

四村會議員ノ部

當選年月日	退職其他年月日	事由	級別	氏名	
明治二十二年六月一日當選 仝 年六月五日就職	明治二十五年六月四日	半數解任	一級	今野佐七	上
仝	仝 二十三年十月二十日	退職	仝	小南甚左衛門	上
仝 二十五年六月四日	仝	半數解任	仝	五十嵐彌市郎	上
仝 二十八年六月四日	仝	滿期	仝	五十嵐清治郎	上
仝 二十五年六月四日	仝	半數解任	仝	須田茂延	上
仝 二十八年六月四日	仝	滿期	仝	大川貞吉	上
仝 廿二年十二月廿五日	仝	退職	二級	五十嵐亥之吉	上
仝 二十八年六月四日	仝	滿期	仝	富樫久治	上
仝 二十八年六月四日	仝	仝	仝	菅原源吉	上
仝 二十五年六月四日	仝	半數解任	仝	渡部助左衛門	上
仝 二十五年六月四日	仝	仝	仝	佐藤作左衛門	上
仝 二十五年六月四日	仝	仝	仝	藤野末吉	上

仝	明治二十五年六月一日當選 年六月五日就職	明治三十一年六月四日	滿期	一級	今野佐七	
仝	仝	仝 二十八年五月二十日	退職	仝	五十嵐彌市郎	
仝	仝	仝 二十八年三月廿九日	仝	仝	須田幸久	
仝	仝	仝 二十八年六月四日	滿期	仝	小南甚左衛門	
仝	仝	仝 三十一年六月四日	仝	二級	渡部助左衛門	
仝	仝	仝 三十一年六月四日	仝	仝	藤野末吉	
仝	仝	仝 三十一年六月四日	仝	仝	須田茂延	
仝	仝	仝 三十一年六月四日	仝	仝	渡部彌平治	
仝	明治廿八年五月廿八日當選 仝 年六月五日就職	明治三十一年六月四日	滿期	一級	小南甚左衛門	
仝	仝	仝 三十一年六月四日	仝	仝	五十嵐清三郎	
仝	仝	仝 三十一年六月四日	仝	仝	大川貞吉	
仝	仝	仝 三十一年六月四日	仝	仝	須田治郎右衛門	
仝	仝	仝 三十一年六月四日	仝	仝	五十嵐賢治郎	
仝	仝	仝 三十一年六月四日	仝	二級	渡部彌兵衛	
仝	仝	仝 三十一年五月五日	退職	仝	富樫久治	

仝	仝	仝 三十一年五月十三日	仝	仝	菅原源吉	
仝	明治卅一年五月廿七日當選 年六月五日就職	仝 三十七年六月四日	滿期	一級	須田治郎右衛門	
仝	仝	仝 三十七年六月四日	仝	仝	今野富五郎	
仝	仝	仝 三十七年六月四日	仝	仝	五十嵐賢治郎	
仝	仝	仝 三十七年六月四日	仝	二級	須田茂延	
仝	仝	仝 三十七年四月七日	死亡	仝	渡部助左衛門	
仝	仝	仝 三十七年六月四日	仝	仝	藤野末吉	
仝	仝	仝 三十七年六月四日	仝	二級	須田茂延	
仝	仝	仝 三十七年六月四日	仝	仝	五十嵐賢治郎	
仝	仝	仝 三十七年六月四日	仝	仝	今野富五郎	
仝	仝	仝 三十七年六月四日	仝	仝	菅原五郎右衛門	
仝	仝	仝 三十四年四月廿四日	滿期	仝	齋藤豊太	
仝	仝	仝 三十七年六月四日	仝	一級	小南甚左衛門	
仝	明治卅四年五月廿七日當選 仝 年六月五日就職	仝 四十年六月四日	仝	仝	五十嵐清三郎	
仝	仝	仝 四十年六月四日	仝	仝	大川貞吉	
仝	仝	仝 三十五年三月三日	死亡	仝	上野政治	
仝	明治三十五年七月二十五日 補欠當選	仝 四十年六月四日	滿期	仝	工藤掃部	
仝	明治卅四年五月廿七日當選 仝 年六月五日就職	仝 四十年六月四日	仝	二級	渡部彌兵衛	
仝	仝	仝 三十九年三月三十日	死亡	仝	渡部彌兵衛	

明治卅四年五月廿七日當選	滿期	二級	加賀山與惣吉	上	全
全年六月五日就職					
明治三十七年六月一日當選	全	一級	須田治兵衛	上	全
全年六月五日就職					
全	全	全	五十嵐彌市郎	上	全
全	全	全	今野金八	上	全
全	全	全	藤野藤吉	上	全
全	全	全	石井安吉	上	全
明治四十年六月一日當選	全	一級	小南末吉	上	全
全年六月五日就職					
全	全	全	小南甚左衛門	上	全
全	全	全	上野政治	上	全
全	全	全	大川源助	上	全
全	全	全	今野直右衛門	上	全
全	滿期	二級	藤野藤吉	上	全
全	全	全	五十嵐賢治郎	上	全
全	全	全	今野金八	上	全
全	全	全	五十嵐彌市郎	上	全
全	全	全	須田治兵衛	上	全
明治四十年六月一日	滿期	二級	加賀山與惣吉	上	全
補欠當選					
明治四十三年六月四日	全	一級	須田治兵衛	上	全
補欠當選					
全	全	全	今野金八	上	全
全	全	全	上野政治	上	全
全	全	全	藤野藤吉	上	全
全	全	全	石井安吉	上	全
明治四十三年六月四日當選	全	一級	小南末吉	上	全
全年六月五日就職					
全	全	全	小南甚左衛門	上	全
全	全	全	五十嵐彌市郎	上	全
全	全	全	須田治兵衛	上	全
全	全	全	上野政治	上	全
全	全	二級	今野金八	上	全
全	全	全	富樫重治	上	全
全	全	全	工藤掃部	上	全
全	滿期	二級	加賀山與惣吉	上	全
全年六月五日就職					
明治四十三年六月四日	全	一級	須田治兵衛	上	全
補欠當選					
全	全	全	今野金八	上	全
全	全	全	上野政治	上	全
全	全	全	藤野藤吉	上	全
全	全	全	石井安吉	上	全
明治四十三年六月四日當選	全	一級	小南末吉	上	全
全年六月五日就職					
全	全	全	小南甚左衛門	上	全
全	全	全	五十嵐彌市郎	上	全
全	全	全	須田治兵衛	上	全
全	全	全	上野政治	上	全
全	全	二級	今野金八	上	全
全	全	全	富樫重治	上	全
全	全	全	工藤掃部	上	全
大正二年六月五日	滿期	二級	加賀山與惣吉	上	全
全	全	全	須田治兵衛	上	全
全	全	全	今野金八	上	全
全	全	全	上野政治	上	全
全	全	全	藤野藤吉	上	全
全	全	全	石井安吉	上	全
明治四十三年六月四日當選	全	一級	小南末吉	上	全
全年六月五日就職					
全	全	全	小南甚左衛門	上	全
全	全	全	五十嵐彌市郎	上	全
全	全	全	須田治兵衛	上	全
全	全	全	上野政治	上	全
全	全	二級	今野金八	上	全
全	全	全	富樫重治	上	全
全	全	全	工藤掃部	上	全

大正二年六月五日	大正六年六月四日	滿期	二級	五十嵐慶一郎
仝 二年六月五日	仝 六年六月四日	仝	仝	須田治兵衛
仝 二年六月五日	仝 六年六月四日	仝	仝	藤野藤吉
仝 六年六月五日	仝 十年六月四日	滿期	一級	小南甚左衛門
仝 六年六月五日	仝 十年六月四日	仝	仝	小南末吉
仝 六年六月五日	仝 十年六月四日	仝	仝	齋藤金吾
仝 六年六月五日	仝 十年六月四日	仝	仝	五十嵐彌市郎
仝 六年六月五日	仝 八年十月十七日	死亡	仝	上野政治
仝 六年六月五日	仝 十年六月四日	仝	仝	須田治兵衛
仝 六年六月五日	仝 十年六月四日	仝	仝	五十嵐慶一郎
仝 六年六月五日	仝 十年六月四日	仝	仝	富樫重治
仝 六年六月五日	仝 十年六月四日	滿期	仝	今野金八
仝 六年六月五日	仝 八年十一月七日	仝	二級	工藤掃部
仝 六年六月五日	仝 十年六月四日	滿期	仝	今野金八
仝 六年六月五日	仝 十年六月四日	仝	仝	富樫重治
仝 六年六月五日	仝 十年六月四日	仝	仝	五十嵐慶一郎
仝 六年六月五日	仝 十年六月四日	仝	仝	須田金助
仝 六年六月五日	仝 十年六月四日	仝	仝	藤野藤吉

仝	仝 十年六月五日	滿期	一級	小南甚左衛門
仝	仝 十年六月五日	仝	仝	小南末吉
仝	仝 十年六月五日	仝	仝	今野五右衛門
仝	仝 十年六月五日	仝	仝	佐藤多助
仝	仝 十年六月五日	仝	二級	菅原五郎右衛門
仝	仝 十年六月五日	仝	仝	齋藤金吾
仝	仝 十年六月五日	仝	仝	富樫重治
仝	仝 十年六月五日	仝	仝	五十嵐慶一郎
仝	仝 十年六月五日	仝	仝	須田金助
仝	仝 十年六月五日	仝	仝	藤野藤吉
仝	仝 十年六月五日	仝	仝	須田治兵衛
仝	仝 十年六月五日	仝	仝	今野五右衛門
仝	仝 十年六月五日	仝	仝	須田治兵衛
仝	仝 十年六月五日	仝	仝	佐藤幸太
仝	仝 十年六月五日	退職	仝	須田治兵衛
仝	仝 十年六月五日	死亡	仝	今野金八
仝	仝 十年六月五日	仝	仝	今野金八
仝	仝 十年六月五日	仝	仝	佐藤多助
仝	仝 十年六月五日	仝	仝	菅原五郎右衛門
仝	仝 十年六月五日	仝	仝	齋藤金吾
仝	仝 十年六月五日	仝	仝	富樫重治
仝	仝 十年六月五日	仝	仝	五十嵐慶一郎
仝	仝 十年六月五日	仝	仝	須田金助
仝	仝 十年六月五日	仝	仝	藤野藤吉
仝	仝 十年六月五日	仝	仝	須田治兵衛
仝	仝 十年六月五日	仝	仝	今野五右衛門
仝	仝 十年六月五日	仝	仝	須田治兵衛
仝	仝 十年六月五日	仝	仝	佐藤幸太
大正十二年十月三十日補欠當選	大正十四年六月四日	滿期	仝	須田治兵衛
大正十二年十月三十日仝	大正十四年六月四日	仝	仝	今野五右衛門
大正十二年十月三十日仝	大正十四年六月四日	仝	仝	佐藤多助
大正十年六月五日	仝 十四年六月四日	仝	二級	菅原五郎右衛門
仝 十年六月五日	仝 十四年六月四日	仝	仝	齋藤金吾
仝 十年六月五日	仝 十四年六月四日	仝	仝	富樫重治
仝 十年六月五日	仝 十四年六月四日	仝	仝	五十嵐慶一郎
仝 十年六月五日	仝 十四年六月四日	仝	仝	須田金助
仝 十年六月五日	仝 十四年六月四日	仝	仝	藤野藤吉

大正十二年十月三十日 補欠當選	大正十四年六月四日	滿期	二級	諏訪伊左衛門
仝 十二年十月三十日 仝上	仝 十四年六月四日	仝	仝	五十嵐常太郎
大正十四年六月五日	昭和四年六月四日	滿期		工藤掃部
仝 十四年六月五日	仝 四年六月四日	仝		菅原五郎右衛門
仝 十四年六月五日	仝 四年六月四日	仝		小南末吉
仝 十四年六月五日	仝 四年六月四日	仝		齋藤金吾
仝 十四年六月五日	仝 四年六月四日	仝		今野金八
仝 十四年六月五日	仝 四年六月四日	仝		今野林治
仝 十四年六月五日	仝 四年六月四日	仝		五十嵐彌市郎
仝 十四年六月五日	仝 四年六月四日	仝		五十嵐常太郎
仝 十四年六月五日	仝 四年六月四日	仝		須田金助
仝 十四年六月五日	仝 四年六月四日	仝		須田喜一郎
仝 十四年六月五日	仝 四年六月四日	仝		藤野藤吉
仝 十四年六月五日	仝 四年六月四日	仝		上野吉太郎
昭和四年六月五日	仝 八年六月四日	仝		工藤掃部

村會議員ノ部

仝 四年六月五日	仝 八年六月四日	仝		小南善右衛門
仝 四年六月五日	仝 八年六月四日	仝		齋藤金吾
仝 四年六月五日	仝 八年六月四日	仝		今野林治
仝 四年六月五日	仝 八年六月四日	仝		今野金八
仝 四年六月五日	仝 五年十二月三十日	死亡		五十嵐彌市郎
仝 四年六月五日	仝 八年六月四日	滿期		五十嵐彌助
仝 四年六月五日	仝 八年六月四日	仝		須田治兵衛
仝 四年六月五日	仝 八年六月四日	仝		須田金助
仝 四年六月五日	仝 六年十月十一日	退職		須田喜一郎
仝 四年六月五日	仝 八年六月四日	滿期		藤野藤吉
仝 四年六月五日	仝 五年七月二十七日	死亡		上野吉太郎
昭和五年八月一日 補欠當選	昭和六年九月十五日	仝		菅原五郎右衛門
仝 六年二月三日 仝上	仝 八年六月四日	滿期		上野仁助
仝 八年六月五日	仝 十二年六月四日	仝		菅原宇之吉
仝 八年六月五日	仝	仝		菅原金七

昭和八年六月五日	昭和十二年六月四日	滿期		小南善右衛門
仝 八年六月五日	仝	仝		齋藤正藏
仝 八年六月五日	仝	仝		今野金八
仝 八年六月五日	仝	仝		富樫重治
仝 八年六月五日	仝	仝		五十嵐幸作
仝 八年六月五日	仝	仝		鈴木保五郎
仝 八年六月五日	仝	仝		須田安脩
仝 八年六月五日	仝	仝		須田金助
仝 八年六月五日	仝	仝		上野三郎治
仝 八年六月五日	仝	仝		藤野藤太郎
仝 十二年六月五日	仝	仝		工藤掃部
仝	仝	仝		菅原金七
仝	仝	仝		小南善右衛門
仝	昭和六年十月二十二日	退職		今野金八
仝	仝	仝		齋藤正藏

仝	仝	仝		富樫重治
仝	仝	仝		五十嵐幸作
仝	仝	仝		鈴木保五郎
仝	仝	仝		須田安脩
仝	仝	仝		須田金助
仝	仝	仝		須田安脩
仝	昭和十三年一月十九日	召集ニ依リ失格		上野三郎治
仝	仝	仝		藤野藤太郎
仝	仝	仝		小南金吉
仝	年十月二十二日			

五 常設委員ノ部

（一）土木委員

就職 年 月 日	退職其他 年 月 日	事由	氏名
昭和三年四月一日	昭和七年三月三十一日	滿期	工藤掃部
仝 三年四月一日	仝 七年三月三十一日	仝	小南善右衛門
仝 三年四月一日	仝 七年三月三十一日	仝	今野金八

昭和三年四月一日	仝 五年十二月三十日	死亡	五十嵐彌市郎
仝 三年四月一日	仝 六年十月十一日	退職	須田喜一郎
仝 三年四月一日	仝 五年七月二十六日	死亡	上野吉太郎
昭和五年七月卅日 補充	仝 七年三月三十一日	滿期	藤野藤吉
仝 六年三月三十日 補充	仝 七年三月三十一日	仝	五十嵐彌市郎
仝 八年六月二十七日	仝 十年六月二十五日	仝	小南善右衛門
仝 八年六月二十七日	仝 十年六月二十五日	仝	菅原金七
仝 八年六月二十七日	仝 十年六月二十五日	仝	富樫重治
仝 八年六月二十七日	仝 十年六月二十五日	仝	須田金助
仝 八年六月二十七日	仝 十年六月二十五日	仝	鈴木保五郎
仝 八年六月二十七日	仝 十年六月二十五日	仝	藤野藤太郎
仝 十年六月二十七日	仝 十二年六月廿六日	滿期	菅原宇之吉
仝 日	仝 日	仝	今野金八
仝 日	仝 日	仝	小南善右衛門
仝 日	仝 日	仝	鈴木保五郎
仝 日	仝 日	仝	須田金助
仝 日	仝 日	仝	藤野藤太郎
昭和十二年六月三十日			工藤掃部
仝 日			小南善右衛門
仝 日			富樫重治
仝 日			鈴木保五郎
仝 日			須田金助
仝 日			藤野藤太郎

（二）學務委員

就職年月日	退職其他年月日	事由	資格	氏名
大正十年七月十九日	大正十四年七月十八日	滿期	公民	小南甚左衛門
仝 十年七月十九日	仝 十四年七月十八日	仝	仝	藤野藤吉
仝 十年七月十九日	仝 十四年七月十八日	仝	仝	小南末吉
仝 十年七月十九日	仝 十一年一月一日	死亡	仝	今野金八

大正十年七月十九日	滿期	公民	須田治兵衛
仝 十年七月十九日	仝	仝	五十嵐彌市郎
仝 補充 十二年十二月十二日	仝	十四年七月十八日	仝
仝 六年七月二日	仝	十一年九月十五日	轉任ニ付退任	訓導	板垣新太郎
仝 十一年九月十五日	昭和四年四月一日	仝	小關太元
仝 十四年八月廿一日	滿期	公民	小南甚左衛門
仝 十四年八月廿一日	仝	仝	齋藤金吾
仝 十四年八月廿一日	仝	仝	小南末吉
仝 十四年八月廿一日	仝	仝	五十嵐彌市郎
仝 十四年八月廿一日	仝	仝	須田茂延
仝 十四年八月廿一日	仝	仝	藤野藤吉
昭和四年四月六日	昭和七年三月三十一日	轉任退任	訓導	佐川傳吉
仝 四年八月二十六日	仝 五年九月十一日	死亡	公民	小南甚左衛門
仝 四年八月二十六日	仝 八年八月二十五日	滿期	仝	小南善右衛門
仝 四年八月二十六日	仝	仝	仝	今野五右衛門

仝 四年八月二十六日	仝 五年十二月廿八日	死亡	仝	五十嵐彌市郎
仝 四年八月二十六日	仝 八年八月二十五日	滿期	仝	須田幸久
仝 四年八月二十六日	仝 八年八月二十五日	仝	仝	大川源治
仝 六年三月三十日 補充	仝 八年八月二十五日	仝	仝	五十嵐彌市郎
仝 日	仝 八年八月二十五日	仝	仝	小南甚左衛門
仝 上	昭和十二年三月三十一日	退職	訓導	本田六郎
昭和七年四月五日	仝 九年二月二十七日		公民	小南善右衛門
仝 九年二月二十七日	仝 九年二月二十七日	死亡	仝	須田幸久
仝 九年二月二十七日	仝 十年四月四日	辭任	仝	五十嵐彌市郎
仝 九年二月二十七日	仝	仝	公民	今野五右衛門
仝 九年二月二十七日	仝 十二年八月三日	召集ニ付辭任	仝	小南甚左衛門
仝 九年二月二十七日	仝 十二年二月二十二日	辭任	仝	大川源治
仝 十二年二月廿二日	仝 十三年二月廿六日	滿期	仝	須田安脩
仝 十二年四月一日			訓導	富塚富藏
仝 十二年十二月廿七日	仝 十三年二月廿六日	滿期	公民	五十嵐彌市郎

昭和十二年十二月廿七日	昭和十三年二月二十六日	満期	公民	今野五右衛門	
仝	仝	仝	仝	大川源治	
仝	仝	仝	仝	工藤掃部	
昭和十三年二月廿五日選定 仝 月二十五日就職					
仝					
仝					
仝					
仝					
仝					

(三) 自作農創設維持資金貸付審査委員ノ部

就職年月日	退職年月日	摘要	氏名	
昭和四年六月二十六日	昭和五年九月十一日	死亡	小南甚左衛門	
仝	仝 六年六月二十五日	満期	小南善右衛門	
仝	仝	仝	今野五右衛門	

仝	仝	仝	仝	五十嵐彌助	
仝	仝	仝	仝	須田安脩	
仝	仝	仝	仝	上野仁助	
仝	仝	仝	仝	菅原五郎助	
仝	仝	仝	仝	須田安脩	
仝	仝	仝	仝	五十嵐彌助	
仝	仝	仝	仝	今野五右衛門	
仝	昭和六年六月二十七日	昭和八年六月二十六日	満期	小南善右衛門	
仝	仝	仝	仝	今野五右衛門	
仝	仝	仝	仝	菅原五郎助	
仝	仝	仝	仝	上野仁助	
仝	仝	仝	仝	須田安脩	
仝	仝	仝	仝	五十嵐彌助	
仝	昭和十二年二月二十一日			五十嵐幸作	
仝	仝			小南善右衛門	
仝	仝			今野五右衛門	
仝	仝			須田金助	
仝	仝			上野三郎治	

六　小學校長ノ部

（一）播磨學校（後ノ榮小學校）長

就職年月日	退職其他年月日	事由	資格	氏名
明治三十四年四月一日	明治三十四年五月廿九日	轉任	訓導兼校長	五十嵐幸太郎
仝　三十四年五月廿九日	仝　三十八年三月卅一日	仝	仝	荒木富治
仝　三十八年三月卅一日	仝　四十一年三月卅一日	仝	仝	邊見重次
仝　四十一年三月卅一日	大正四年二月二十八日	仝	仝	山内鎭平
大正四年三月三十一日	仝　六年三月三十一日	仝	仝	榎本豊治郎
仝　六年三月三十一日	仝　十一年九月十五日	仝	仝	板垣新太郎

備考

播磨學校ハ明治三十四年六月七日ヨリ榮學校ト改稱ス

五十嵐校長ハ明治十五年七月十五日ヨリ訓導トシテ就職セシモノナルモ校長任命ノトキヨリ記載ス

（二）湯野澤學校長

就職年月日	退職其他年月日	事由	資格	氏名
明治三十六年四月一日	明治三十七年二月卅一日	轉任	訓導兼校長	山岸直士
仝　三十七年三月卅一日	仝　三十八年三月卅一日	仝	仝	加藤政長
仝　三十八年三月卅一日	仝　四十三年十一月十四日	仝	仝	本田數馬
仝　四十三年十一月十四日	仝　四十五年三月卅一日	仝	仝	金井義質
仝　四十五年三月卅一日	大正十年三月三十一日	仝	仝	山岸直士
大正十年三月三十一日	仝	仝	仝	中澤保濟

備考

明治二十五年六月一日ヨリ佐藤基治ハ訓導トシテ就職シアルモ校長任用ノトキヨリ記載ス

大正十年四月一日ヨリ湯野澤小學校ヲ榮小學校ニ合併ス

（三）榮尋常高等小學校長

就職年月日	退職其他年月日	事由	資格	氏名
大正六年三月三十一日	大正十一年九月十五日	轉任	訓導兼校長	板垣新太郎
大正十一年九月十五日	昭和四年三月三十一日	仝	仝	小關太元
昭和四年三月三十一日	昭和七年三月三十一日	仝	仝	佐川傳吉
昭和七年三月三十一日	昭和十二年三月三十一日	仝	仝	本多六郎

昭和十二年三月三十一日				
備考				
大正十年四月一日ヨリ湯野澤小學校ヲ榮小學校ニ合併シ一校トナル				

七　榮農業補習學校長ノ部

（一）榮農業補習學校長

就職年月日	退職其他年月日	事由	職	氏名
明治二十九年十二月廿日	明治四十一年三月卅一日	轉任	小學校訓導兼校長	邊見重次
明治四十一年十一月五日	大正四年二月二十八日	仝	仝	山內鎭平
大正四年四月三十日	大正六年三月三十一日	仝	農業補習學校長	榎本豊治郎
大正六年五月三十日	大正十一年九月十五日	仝	仝	板垣新太郎
備考				
大正十年四月一日ヨリ榮及湯野澤補習學校ハ合併セリ				
昭和四年二月二十五日山內小學校長ハ本補習學校長モ任命セラレタリ				

（二）湯野澤農業補習學校長

		仝		富塚富藏

就職年月日	退職其他年月日	事由	職	氏名
明治卅九年十二月廿七日	明治四十三年十月十四日	轉任	小學校訓導兼校長	金井義質
明治四十三年十月十四日	明治四十五年三月卅一日	仝	仝	山岸直士
明治四十五年三月卅一日	大正十年三月三十一日	仝	湯野澤農業補習學校長	中澤保濟
備考				
湯野澤農業補習學校ハ明治三十九年十二月二十七日ヨリ開始セリ				
中澤小學校長ハ大正四年二月二十五日ニ補習學校長ニ任命セラレタリ				
本校ハ大正十年三月三十一日限リ榮農業補習學校ヘ合併セリ				

（三）榮農業補習學校長

就職年月日	退職其他年月日	事由	職	氏名
大正六年五月三十日	大正十一年九月十五日	轉任	農業補習學校長	板垣新太郎
大正十一年九月二十二日	昭和四年三月三十一日	仝	助敎諭	小關太元
昭和四年三月三十一日	昭和七年三月三十一日	仝	仝	佐川傳吉
昭和七年三月三十一日	昭和十年六月三十日	解任	仝	本多六郎
備考				

大正十年四月一日ヨリ湯野澤補習學校ヲ榮補習學校ヘ合併セリ

八　榮青年訓練所主事ノ部

就職年月日	退職其他年月日	事由	職名	氏名
大正十五年六月三十日	昭和四年三月三十一日	轉任	主事	小關太元
昭和四年四月十七日	昭和七年三月三十一日	仝	仝	佐川傳吉
昭和七年四月十二日	昭和十年六月三十日	仝	仝	本多六郎

備考

大正十五年六月二十八日ヨリ開始セリ

以上農業補習學校及青年訓練所ハ青年學校令ニ依リ昭和十年六月三十日限リ廢止トナル

九　榮青年學校長ノ部

就職年月日	退職其他年月日	事由	職名	氏名
昭和十年七月一日	昭和十二年三月三十一日	轉任	校長	本多六郎
昭和十二年三月三十一日		仝		富塚富藏

一〇　消防組頭ノ部

就職年月日	退職其他年月日	事由	摘要	氏名
明治二十五年六月廿二日	明治二十九年四月廿一日	滿期		工藤掃部
明治二十九年四月廿二日	明治四十二年三月卅一日	退職		五十嵐彌市郎
明治四十二年三月卅一日	昭和四年四月十日	仝		小南末吉
昭和四年四月十八日				正八位五十嵐彌市郎

一一　村醫ノ部

就職年月日	退職其他年月日	事由	氏名
明治二十五年八月十五日	明治二十六年八月十四日	滿期	滿期
			明治二十六年八月十五日
明治二十七年七月七日	明治二十九年七月六日	仝	荻原昌雄
明治三十一年七月三日	明治三十三年七月二日	仝	清水安義
明治三十五年七月四日	明治三十七年七月三日	仝	清水安義
			明治三十七年七月四日
			明治四十一年七月三日
明治二十七年七月七日	明治二十九年七月三日	仝	荻原昌雄
明治三十一年七月三日	明治三十三年七月二日	仝	清水安義
明治三十五年七月四日	明治三十七年七月三日	仝	太田實

明治四十一年十二月十日	明治四十四年八月三十日	退職	—	岡田恒夫
明治四十四年十月二十七日	大正二年一月十四日	仝	大正二年一月十五日	滿期	木村謙三
大正六年六月二十三日	大正七年六月二十五日	動員ノ退任		退任	木村謙三
			大正七年十月二十日	大正八年三月二十六日	岡田恒夫
大正十四年六月二十三日	昭和四年六月二十二日	滿期	昭和四年六月二十六日	大正六年一月二十五日	滿期	木村謙三
昭和八年六月二十三日	昭和十三年二月二十四日	仝	昭和十三年二月二十五日	昭和八年六月二十二日	滿期	正八位勳六等 木村謙三

一二　村トラホーム豫防醫ノ部

就職年月日	退職其他年月日	事由	就職年月日	退職其他年月日	事由	氏名
明治四十三年六月十四日	大正二年三月三十一日	退任	—	—	—	瀧澤竹治
大正二年四月一日	大正六年一月十四日	滿期	大正六年六月二十三日	大正十年六月二十三日	滿期	木村謙三
大正十年六月二十三日	大正十四年六月二十二日	仝	大正十四年六月二十三日	昭和四年六月二十三日	仝	木村謙三
昭和四年六月二十三日	昭和八年六月二十二日	仝	昭和八年六月二十三日	昭和十三年二月二十四日	仝	木村謙三
昭和十三年二月二十五日						

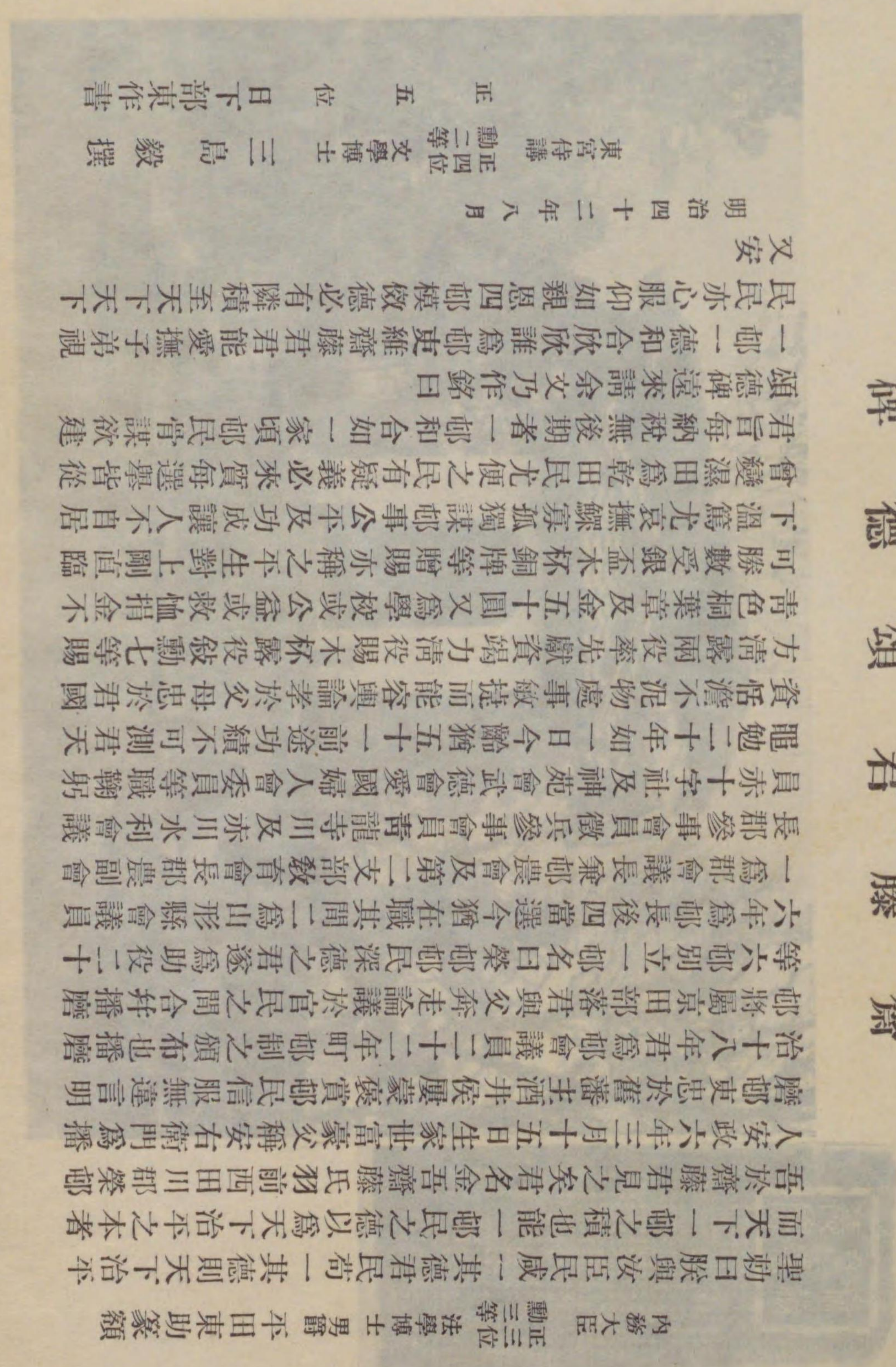
一三　小學校醫ノ部

（一）榮小學校醫

囑託年月日	解囑其他年月日	摘要	氏名
明治三十六年八月一日	明治四十一年七月十三日	解囑	太田實
明治四十一年七月十三日	明治四十三年五月十二日	仝	飯野重治郎
明治四十三年六月一日	大正二年三月三十一日	仝	瀧澤竹治
大正二年四月五日	大正七年九月三十日	仝	木村謙三
大正七年十月一日	大正八年三月三十一日	仝	岡田恒夫
大正八年四月四日		大正十年四月一日ヨリ榮及湯野澤小學校合併校醫トナル	木村謙三

（二）湯野澤小學校醫

囑託年月日	解職其他年月日	摘要	氏名
明治三十六年八月一日	明治四十一年七月十三日	解囑	太田實
明治四十一年七月十三日	明治四十三年五月十二日	仝	飯野重治郎
明治四十三年六月一日	大正二年三月三十一日	仝	瀧澤竹治



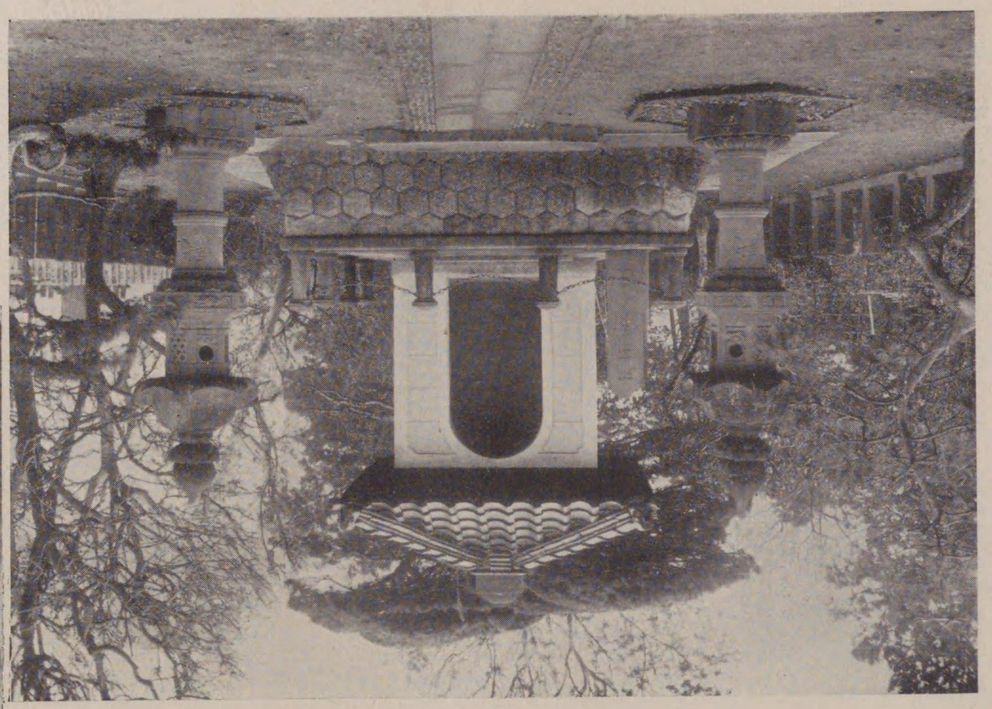
大正二年四月五日	大正七年九月三十日	仝	木村謙三
大正七年十月一日	大正八年三月三十一日	仝	岡田恒夫
大正八年四月四日	大正十年三月三十一日	大正十年三月三十一日限湯野澤小學校廢止	木村謙三

(三) 榮小學校醫

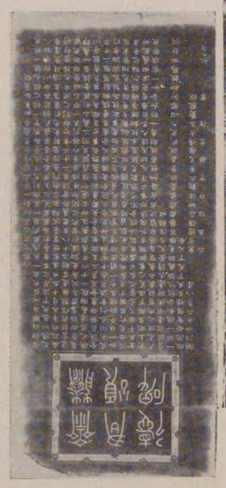
囑託年月日	解囑其他年月日	摘要	氏名
大正八年四月四日	大正十二年四月三十日	大正十年四月一日ヨリ湯野澤小學校合併ス	木村謙三
大正十二年四月三十日			木村謙三

一四 榮青年學校醫ノ部

囑託年月日	解囑其他年月日	摘要	氏名
昭和十二年十月十五日			木村謙三



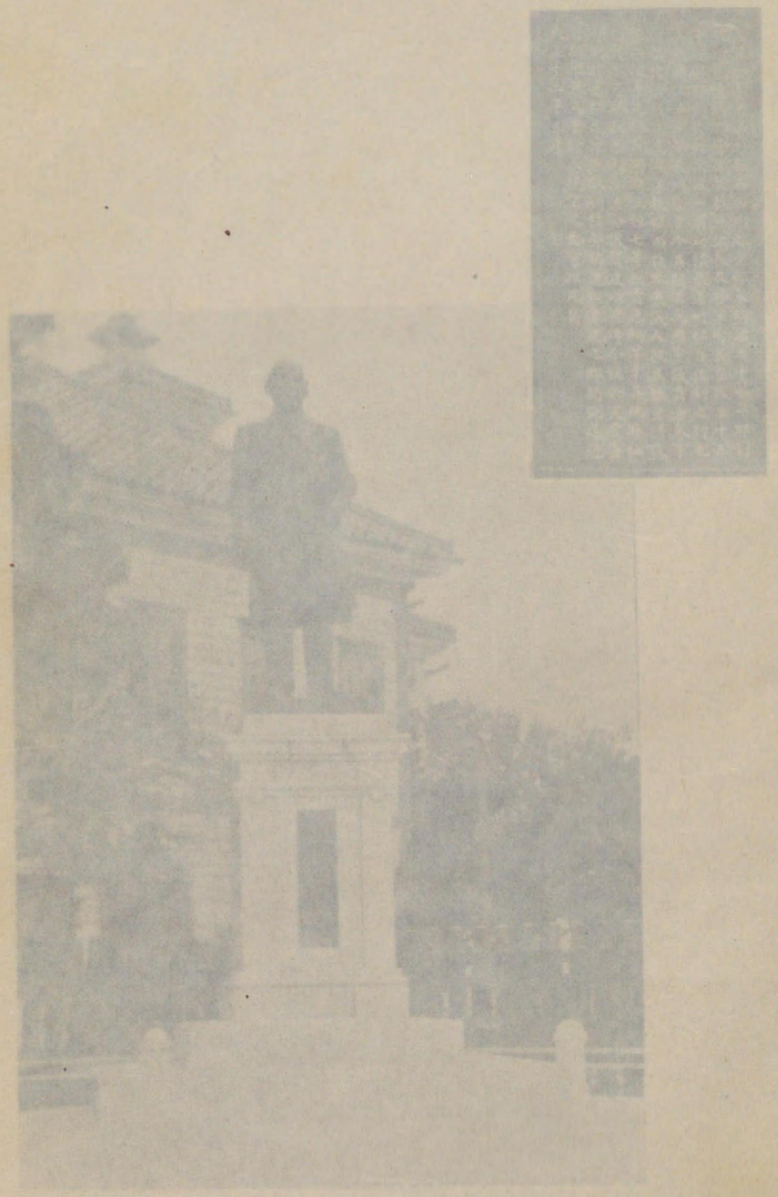
（村居在）　　碑德頌翁吾金滕齋



一五　本村民人ノ建設シタル齋藤金吾氏ノ頌德碑

本村長齋藤金吾ハ資性溫厚ニシテ夙ニ民望アリ從來本村ハ一部荒井京田村外十五ケ村戶長役場區域ニ屬シ一部神花村外七ケ村戶長役場區域ニ屬セルモ明治二十二年町村制施行ノ際本人ハ有志者ト諮リ官民ノ間ニ奔走シテ荒井京田村區域ヨリ本田、小京田、播磨、中京田、湯野澤ヲ割キ神花村區域ヨリ大字平田ヲ割キ一村ヲ創立シテ榮村ト稱セリ、同年六月本村助役ニ擧ゲラレ同二十六年六月村長ニ當選シ爾來任滿チテ五回膺選シ在職實ニ二十一年ニ及ベリ而シテ其ノ間能ク村內ノ統一ヲ保チ德望彌隆キノミナラズ其ノ着手事業ノ重ナルモノヲ擧グレバ馬耕乾田ノ模範ヲ示シテ稻作ノ改良ヲ圖リ榮尋常高等小學校ヲ經營シテ普通敎育ノ普及進展ニ力メ病院其ノ他ノ施設ヲ全フシテ村內衛生ノ發達ニ盡瘁セルノ外村及小學校基本財產ノ造成勤儉貯蓄ノ奬勵ニ努力スル等終始一日ノ如ク其ノ成績顯著ナリ茲ニ於テ村民相謀リ五十嵐彌市郎外壹名發起者トナリ建碑並ニ碑文ニツキ其ノ筋ノ許可ヲ得、地ヲ本村小學校前大字播磨字若松ニ相シ頌德碑ヲ建設シ之ヲ旌表セントセリ碑石ハ金峰山ノ黑石長八尺幅三尺五寸ニシテ內務大臣正三位勳一等法學博士男爵平田東助篆額東宮侍講正四位勳二等文學博士三島毅選文ニシテ明治四十二年十一月一日竣工シ除幕式ヲ擧行セリ

其ノ撰文左ノ如シ



齋藤金吾翁銅像　（[illegible]）

本村民人ノ建設シタル齋藤金吾氏ノ頌德碑

齋藤君頌德碑

内大臣正三位勳一等法學博士男爵　平田東助篆額

聖勅曰朕與汝臣民咸一其德君民苟一其德則天下治平而天下邨之積也能一邨民之德以爲天下治平之本者吾於齋藤君見之矣君名金吾齋藤氏羽前西田川郡榮邨人安政六年三月十五日生家世富豪父稱安右衛門爲播磨邨吏忠於舊藩主酒井侯屢蒙褒賞民信服無違言明治十八年君爲邨會議員二十二年町邨制之頒布也播磨邨將屬京田部落君與父奔走論議於官民之間合幷播磨等六邨別立一村名曰榮邨邨民深德之君遂爲助役二十六年爲邨長後四當選今猶在職其間二爲山形縣會議員一爲郡會議長兼邨農會及第二支部教育會長郡農副會長郡參事會員徵兵參事員靑龍寺川及赤川水利會議員赤十字社及神苑會武德會愛國婦人會委員等職鞠躬黽勉二十年如一日今齡猶五十一前途功績不可測君天資恬澹不泥物處事敏捷而能容輿論孝於父母忠於君方淸露兩役率先獻資竭力淸役賜木杯露役敍勳七等賜靑桐葉章及金五十圓又爲學校或公益或救恤捐金不可勝數受銀盃木杯銅牌等贈賜亦稱之平生對上剛直臨下溫篤尤哀撫鰥寡孤獨謀邨事公平及功成讓人不自居曾變濕田爲乾田民尤便之民有疑義必來質每選擧皆從君旨每納稅無後期者一邨和合如一家頃邨民骨謀欲建頌德碑遠來請余文乃作銘曰

一邨一德和合欣欣誰爲邨吏維齋藤君君能愛撫子弟視民民亦心服仰如親恩四邨模傚德必有隣積至天下天下又安

明治四十二年八月

東宮侍講正四位勳二等文學博士　三島毅撰

正五位　日下部東作書　石工紀太南刻

齋藤君頌徳碑

男爵 平田東助 篆額
貴族院議員 正三位勲一等法學博士 男爵 平田東助 撰

聖勅曰朕與汝臣民咸一其德君民苟一其德則天下治平而天下之福也能一郡民之德以爲天下治平之本者吾於齋藤君見之矣君名金吾齋藤氏羽前西田川郡黒鳥人安政六年三月十五日生家世富豪父稱安右衛門爲措置郡吏忠於職務主酒井侯屢受褒賞民信服無違言明治十八年君爲郡會議員二十二年町郡制之頒布也措置頗經厘革公私之間合并播磨等六郡別立一村名曰黒鳥郡郡長深徳之君基爲勤管二十六年郡長後因官免之際北部二郡山林組合議員一致推舉兼郡議会及第二支部會會長郡書記會長郡參事會員會議員會議長十年如一日今齢纔五十一前途功績不可測君天資僊骨物慮事基堅固從容閑雅等於文武忠於君方清廉固守節從君官每納稅無後期者一郡和合如一家頃郡民骨課欲建頌徳碑遠來請余文乃作銘曰

一郡一徳和合欣欣誰爲郡吏師齋藤君君能愛遠子弟視民民亦心服仰如親恩四郡模倣徳必有隣積至天下天下又安

明治四十二年八月

東宮侍講正四位勲二等文學博士 三島毅 撰

正五位 自下部東作書 石工紀去南刻

齋藤金吾翁銅像 （舊郡役所跡）

齋藤金吾君山形縣西田川郡黒鳥人明治二十四年郡制之行也選爲郡會議員數次議長及參事會員在職三十三年以與郡制終始至歳一貫功績最著町郡自治制之行也爲郡助役爲郡長以迄于今其間三爲縣會議員兼參事會員君資性元直處事敏妙而能容衆議人服其雅量清廉之二役尤著勞績力鋭勲七等授青色桐葉章其他賑恤指導不可勝數色人或德合議擬建頌徳碑今玆会員僉官僉郡民皆謀欲副積勞銘遺銅像建之郡衙側遠近貴賀期準者凡千餘人徳望之盛可以見矣

大正十二年三月

一六　地方人士ノ樹立シタル本村長タリシ齋藤金吾翁銅像

大正十一年郡制ノ廢止トナルヤ多年地方政界並ニ社會公共ノ爲ニ盡瘁セラレタル齋藤金吾翁ヲ表彰スルノ議起リ當時西田川郡ニ於ケル郡會議員並町村長一同發起者トナリ銅像建設ヲ企劃スルニ至レリ抑モ翁ノ人トナリハ一般周知ノ如ク虛心恒懷社交上最モ平民的ニシテ貴賤ノ隔テナク一見舊知ノ感ヲナシ而カモ施政上ニ至リテハ卓然獨特ノ識見ト才幹トヲ有セラレ且持操ノ堅貞ナルハ世上稀觀ノコトト云フベシ明治十五年翁ガ荒井京田外十五ケ村組合議員ニ選バレ初メテ政界ノ人トナリシヨリ今日ニ至ルマデ凡ソ四十年間ノ久シキ郡會ニ縣會ニ將タ農會ニ水利組合ニ議員又ハ議長トシテ立チ正論讜議終始一貫セリ而シテ其ノ主張トシテハ最モ憲政擁護ト民權ノ伸張トニ重キヲ置キ侃々諤々毫モ權勢ニ屈セズ私身ヲ顧ミルコトナキハ以テ人格ノ高潔ナルヲ窺知スベク國家ニ貢獻セラレシ所甚大ナリ且翁ガ仁愛ノ至性ハ惠澤トナリ郡村ニ流レ經綸ノ才幹ハ治績トナリテ縣下ニ著ハル、其ノ高風盛德詢ニ景慕ニ堪ヘザル處ナリ仍リテ郡制ノ廢止ニ際シ其ノ全生涯ヲ擧ゲテ政事上ニ貢獻セラレタル翁ガ盡瘁ノ勞ニ酬ヒ且其ノ精神ヲ永久ニ存センガタメ茲ニ相謀リテ其ノ銅像ヲ建設スルコトニ決定シ其ノ敷地ハ西田川郡役所地域ヲ最モ適當ト認メ既ニ選定ト共ニ當局ノ認可ヲモ得タルヲ以テ本竣工ノ見込ヲ以テ頌德會ヲ組織シ醵出金ノ同意ヲ求メタルニ西田川郡ハ勿論其ノ德ヲ慕フ東田川郡飽海郡ノ有志擧ゲテ之ヲ賛シ忽チ金貳萬八百餘圓ヲ得仝年五月銅像ハ當地方出身東京美術學校出ノ齋藤作吉氏製作ノ選ニ當リ斯道ノ最高權威者帝室技藝員高村光靈及東京美術學校教授坂口肫氏指導監督ノ任ニ膺タレリ銅像ノ物質ハ銅、錫亞鉛、鉛ノ合金乃チ青銅ヲ用ヒ仝身立像高サ八尺臺座ハ總磨キトシ千葉縣稻田產花崗石

地方人士ノ樹立シタル本村長タリシ齋藤金吾翁銅像

ヲ用ヒ其ノ高サ地盤ヨリ台座上端マデ十尺五寸地盤直徑廿二尺ニ廿六尺五寸ノ長方形トス銅像ノ表面ニハ齋藤金吾翁之壽像ト鑄其ノ文字ハ海軍中將佐藤鐵太郎氏ノ揮毫ニシテ裏面選文ハ芳賀剛太郎氏ニシテ仝氏ノ筆ナリ翌十二年六月廿一日全ク竣工ヲ告ゲ仝月廿四日ヲ以テ盛大ナル除幕式ヲ擧行セリ其ノ年八月有志相倚リテ銅像維持會ヲ組織シ更ニ永世ニ其德ヲ傳ヘテ後人ノ範トスベク組織ヲ改メテ財團法人トナシ其ノ設立ヲ內務大臣ニ申請シ昭和二年三月財團法人齋藤奬善會ノ設立許可トナリ且山形縣ヨリ金千八百余圓ヲ以テ敷地ノ拂下ヲ受ケタリ而シテ銅像設立醵金殘額貳千四百圓ニ齋藤家ヨリ金五千圓佐藤茂兵衛其他ヨリ八百圓ヲ以テ銅像維持基金トスルニ至レリ而シテ翁ノ銅像竝ニ選文ヲ揭ク齋藤金吾君山形縣西田川郡榮邨人明治二十四年郡制之行也選爲郡會議員數兼議長及參事會員在職三十三年以與郡制終始至誠一貫功績最著町邨目治制之行也爲邨助役爲尋邨長以迄干今其間三爲縣會議員兼參事會員資性亮直處事敏妙而能容衆議人服其雅量清靈之二役率先献資竭力叙勳七等授青色桐葉章其他賑恤捐貲可勝數邑人感德合議嚮建頌德碑今茲發亥官廢郡制於是郡民肯謀欲酬積勞鑄造銅像建之郡衙側遠近賛斯舉者凡千餘人德望之盛可見矣

大正十二年三月

一七　本村人故工藤掃部青龍寺川疏水事績

我ガ莊內地方ハ武藤家時代ハ原野多ク蘆萩繁茂シ住民耕作ニ便ナラズ然ルニ稻十束刈ニ對シ工米八升ナリシカバ農事困難知ルベキナリ

慶長年中ハ最上家ノ領トナリ原美濃守所司代タリ其時本郷村ニ工藤掃部信成トイフモノアリ伊豆國狩野入道宗茂ガ十世ノ孫ナリ父ヲ勘解由左衛門ト云フ性慈愛ニ富ミ人ヲ利スルコトヲ好ム、家豊富ニシテ思ヲ民利ニ致シ嘗テ水無川ヲ疏通シ或ハ原野ヲ開拓シ父死スルノ後掃部其ノ志ヲ繼キ屢々櫛引田川ノ間ニ往來シ遂ニ梵字川ヲ疏通シ大ニ民利ヲ圖ランコトヲ期シ其ノ川源ヲ測定シ原美濃守ニ具狀シ其許可ヲ得タリ實ニ慶長年中ナリ、掃部倜儻ニシテ大志アリ素ヨリ父ノ業ヲ紹キ百世ノ利ヲ興サント欲ス其工事ニ從フヤ工費ノ如キハ私財ヲ投ジ敢テ一家ヲ顧ミズ工事ノ稍竣ルニ及ンデ衆感奮資ヲ醵シテ之ヲ助クトイフ、其ノ開鑿ノ經營苦辛實ニ想フベシ數歲ニシテ漸ク大業竣成スルニ至レリ稱シテ掃部川ト云フ、今ノ青龍川是レナリ、水源ヲ本郷村熊出地內江口ニ需メ赤川ヨリ引水シ西流シテ山添村黃金村ヲ過ギ鶴岡市ヲ經テ松ノ木橋ヨリ流下シ榮村ヲ貫流シ東郷村青山ニ至リ再ビ赤川ニ注グ延長約五里此ノ水利ニヨリ年々田畝ヲ開拓シ現今灌漑地六百拾壹町貳反四畝拾六歩、一市十二ケ町村ヲ潤フセリ其子孫尙本川ノ監守人タリ曩ニ工藤家火災ニ罹リ舊記ノ存在セルモノナリ詳細ヲ知ルニ由ナシト雖最上義光時代ニ於テモ掃部ノ功勞ヲ認メ之ヲ褒賞セリト云フ、明治十七年十二月本縣知事又金若干ヲ贈シテ之ヲ追嘗スル所アリ明治二十年十月地方關係民相謀リ疏水碑ヲ川畔態出江口ニ建立シ其功績ヲ不朽ニ傳フルニ至レリ子孫榮村大字本田舊本郷村ニ居住シ累代工藤掃部ト稱セリ其賞狀及ビ碑文ヲ左ニ錄ス

金參圓

山形縣西田川郡本田村

故　工藤掃部

生時父祐宗ノ遺志ヲ繼キ疏水墾田ニ力ヲ盡シ東田川郡江口ヨリ延長四里許ノ洪流ヲ開導シ青龍寺

川ヲ疏通シ仍ホ該水ヲ分派シ東西二郡ニ於テ當時墾田ノ草高凡ソ貳萬石餘村落七十一ヲ爲スニ至ル其ノ功績甚タ鉅達ナリトス因テ之ヲ追賞ス

明治十七年十二月一日

山形縣令從五位勳四等　**析田平內**

工藤掃部君青龍寺川疏水碑

明治十七年十二月官賜金若干於西田川郡本田村工藤掃部君疏水功績也初今主人欲建碑於河畔以表祖德於是郡民亦感遺德贊其擧來乞余文余按其家所傳十世祖勘由左衛門君家道豐富覃思民利嘗疏鑿水無川又潴山谷以開拓原野即掃部君之父也勘解由左衛門君歿水亦善個掃部君數往來乎櫛引田川之間測其川原遂知梵字川可鑿乃請之代官原美濃守得允實慶長某年也川發源於櫛引郡熊出村江口乃西導經田川郡青龍寺村循金峯過鶴岡北至青山村再入梵字川又多疏支流溝渠四達拮据經營數歲竣功二郡無復水旱患矣稱掃部川今青龍寺川是也二郡籍以墾闢歲加以今計之其田四千三百廿六町餘村部落七十一、戶口稱焉子孫因世監其河渠家再罹災家乘多逸故至其起工歲月及人衆工費之詳則不可得而知也據遺老口碑所傳掃部君爲人倜儻有大志矢欲擴張先業以興公共之利擧家財充工費業稍就緒衆始悅服出資助役又相傳最上矦義光嘗嘉賞其功古老猶有及見賞狀者云余少小跋涉乎郡內山川常見龍川之蜿蜒灑迤灌溉於我田圃又嘗謁北楯某之祠得見彼大渠工事焉夫掃部君與北楯某並生於戰國之餘各奮然爲國興利仡仡不息以期大成然如北楯則宰其地役其民而又羣牧助役比之掃部君起畎畝能集此大業者則難易自有別矣乎掃部君流芳永與龍川不盡又有賢子孫不墜家聲二百餘年之後官追賞其功績郡民咸遺德以贊建碑之擧也掃部君諱信茂子孫世襲稱部云銘曰

滾滾龍川　注我良田　杭稻勃勃　幪暍蒼天
闢彼蓁棘　造此畎阡　變役荒寂　成此殷闐
七十之邑　維人萬千　夫也舞畦　婦則歌暝
旱魃赫炎　我顧有年　商羊翹鳴　我無歉朕
干嗟掃部　遺愛淵淵　爰勒貞珉　千古其傳

羽前鶴岡角田俊次撰
正五位日下部東作書並題額

752
100

昭和十三年六月十五日印刷
昭和十三年六月廿九日發行　（非賣品）

編輯兼發行所　山形縣西田川郡榮村役場

印刷者　山形縣東田川郡藤島町大字藤島　渡部友次郎

印刷所　山形縣東田川郡藤島町大字藤島　藤島活版所